

銀盤の歩み

2002

75th

青森県スケート連盟創立75周年記念誌





〔マークの説明〕

スピードスケートとフィギュアスケートが、それぞれ個別した競技と演技なので、2つを重ね合わせることで融合させ、1つのマークとした。氷の碧さをイメージした寒色でまとめたのは、この旗が空に翻ったときに、隣に日章旗の赤い色があれば最高の対照と想像して、敢えて暖色を入れなかった。
連盟の限らない発展を期待しながら……。
(デザイン 宮坂喜一)

銀盤の歩み

2002



75th

青森県スケート連盟創立75周年記念誌

●写真で見る連盟の歩みと選手の活躍

▶昭和56年12月21日
第5回八戸市内中学校大会風景



▼昭和58年1月13日
青森県スポーツ少年団大会風景



◀昭和58年12月17日 戸田金作選手（全日本スプリント）



▼昭和60年2月7日 南部地区500m大会



八戸市スポーツ研修センター完成▶
(平成3年3月)

▼八戸市スポーツ研修センター完成
(平成3年3月)



▶青森VS栃木小学校スケート交歓会 昭和62年2月



◀軽井沢国体 少年女子リレー2位
(左から)相坂 村崎 橋本、小野寺



●写真で見る連盟の歩みと選手の活躍

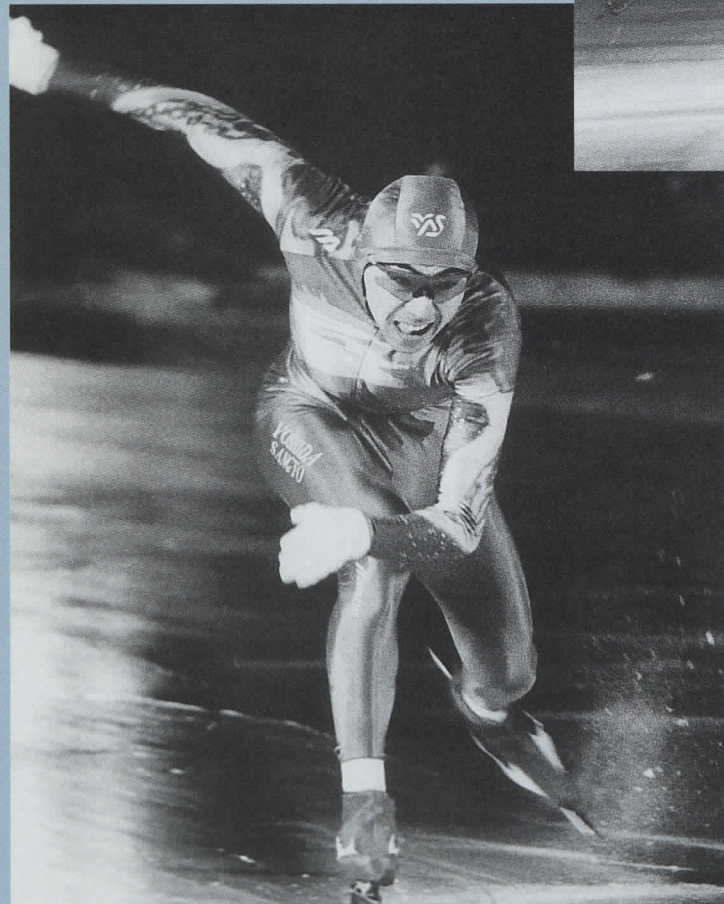


◀群馬国体、成年男子B1500m決勝、工藤と中田、平成6年1月

三浦記念スピード 平成7年2月19日▶



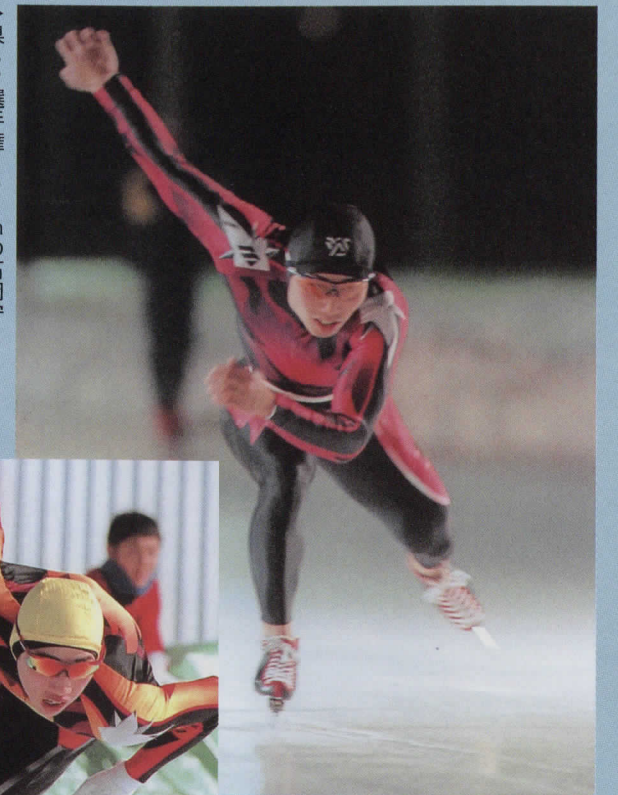
▼県プリント2連覇の沢口一樹、平成8年1月



写真提供 デーリー東北新聞社



▲全日本ジュニア、浜中喜子、平成11年1月



▶県SP選手権500mの石岡守
平成11年2月



◀全中スケート男子1500m予選の
杉本太一、平成11年2月

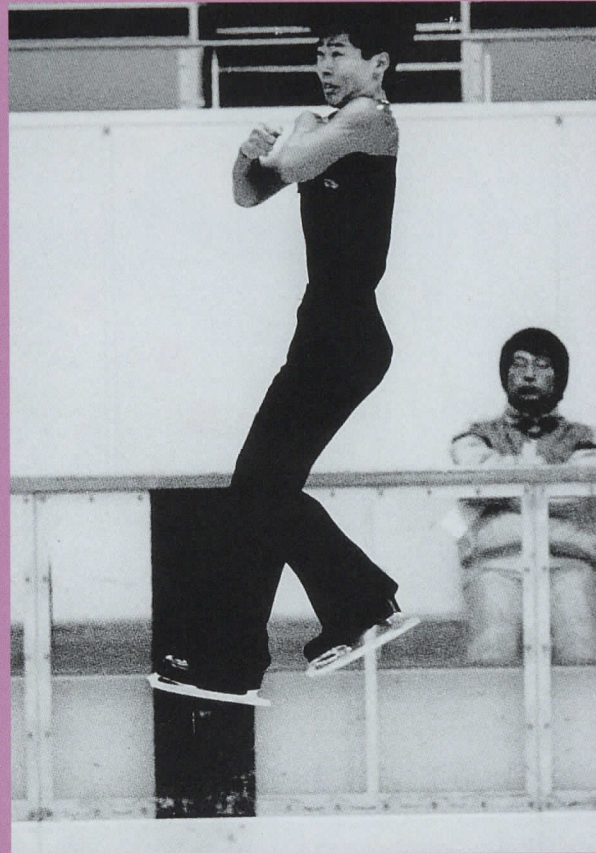


◀ながの国体成年1万m決勝の伊勢兄弟、平成11年1月

写真提供 デーリー東北新聞社

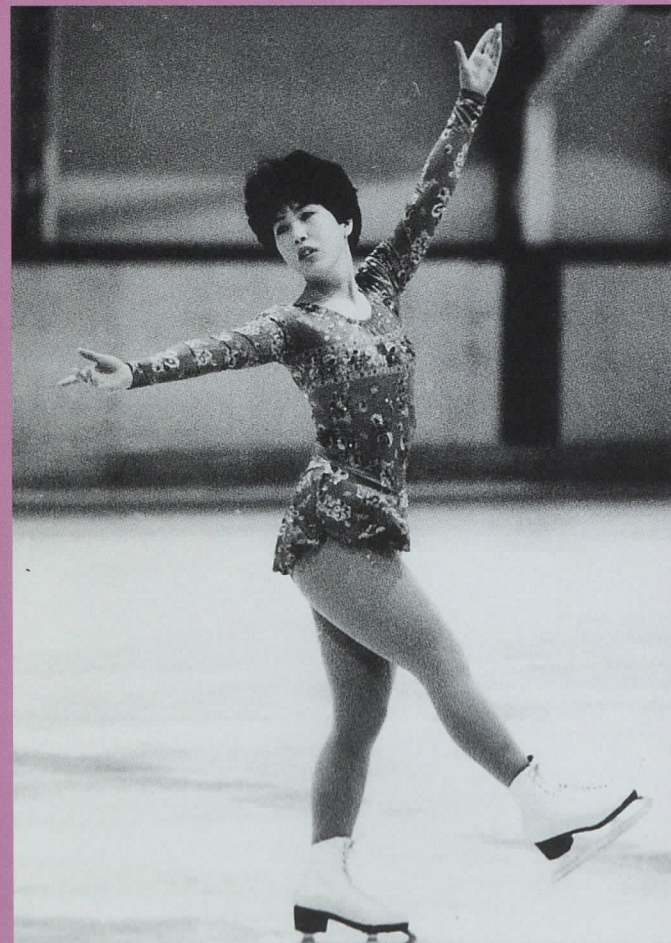


▲全日本フィギュア大会アイスダンス出場の田中、小笠原博文（芝浦工大 組 平成4年1月神戸）



▲昭和62年1月23日 村田光弘（インターハイ）

▼昭和62年1月31日 柳沢美智子（国体）



▶日光国体成年女子SP、北村葉子、平成8年1月



▲第48回 国民体育大会冬季大会スケート競技会アイスホッケー競技会
平成5年1月29日～2月1日、青森県八戸市

昭和61年1月24日 光星学院高校（インターハイ優勝）▶

▼フィギュア
高橋稔大、小笠原健雄



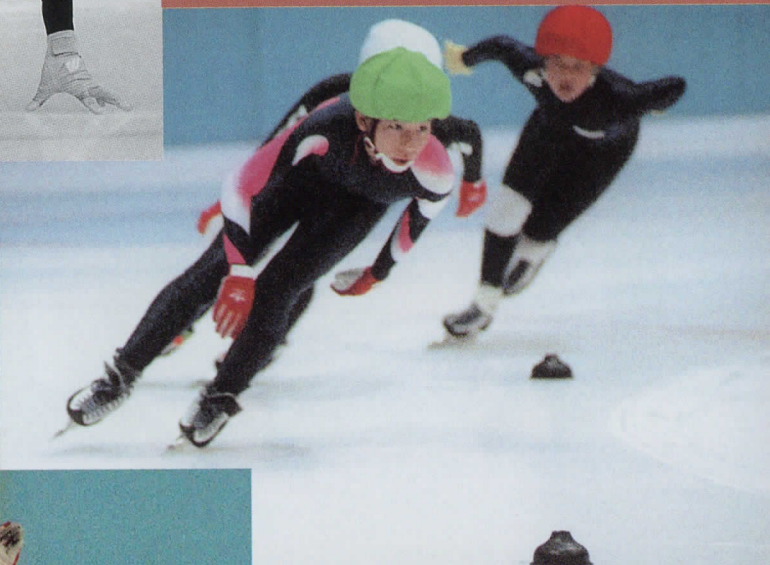
聖ウルスラ学院高校・インターハイ優勝▶

●写真で見る連盟の歩みと選手の活躍



◀帯広国体 ショート競技500mでの中原康仁

東北ST、女子ホープス1000mで優勝した中田智子▶
平成8年9月



◀第6回東北ST、小笠原慶子(左)、平成11年4月



東北ST競技会女子総合優勝の松倉泉(左)、平成8年9月▶



CONTENTS

◆もくじ

写真でみる連盟の歩みと選手の活躍●

挨拶●2

祝辞●4

連盟とスケートの歩み～50年誌から～●10

歴代役員一覧●16

青森県選手の世界大会出場記録●19

全国大会優勝者一覧●20

県内主要大会優勝者・記録一覧●22

メモリーズ●64

「あの日あの頃」思い出を綴る●69

65周年記念事業●108

これまでの各賞受賞者一覧●109

75周年記念事業●110

創立75周年記念表彰名簿●111

会員(公認審判員)名簿●113

青森県スケート連盟規約●116

役員・組織名簿●118

あとがき●120

発刊に当たって



青森県スケート連盟
会 長
神山 公佑

青森県スケート連盟創立75周年記念事業として、平成12年9月8日の理事会に於いて記念誌発行を決議し総会で承認。

平成13年7月11日、実行委員会を組織し準備を進めて参りました。1982年（S57年）11月、スケート界先輩諸氏のご労苦で念願の「青森県スケート史50年の歩み」が発刊され、創立50周年記念式典が挙行されました。

青森県スケートの歴史は「長根リンク」を舞台に繰り広げられたものであり、それは日本スケート界の歴史そのものであったと言っても決して過言ではないと思われます。その後の25年の編纂に当って正確を期する為に膨大な資料集めに、デーリー東北さんのご協力と図書館に通い、何とか発刊にこぎつけました。

この25年間で長根リンクを取巻く都市構造の変化、自然環境の減少、そして少子化などによるスケート人口の減少等々。変化に対応しながら氷都八戸の再興を目標に会員一同懸命に努力した4分の1世紀の記録でもあります。

大正15年（1925年）2月11日、八戸スケート協会設立総会が開催され、昭和4年1月13日、八戸スケート協会と東北スケート連盟主催の第1回東北スケート競技選手権大会が開催されております。

昭和4年11月23日「大日本スケート連盟」の創立、この大日本スケート連盟（現在の日本スケート連盟）の結成を記念して、第

1回全日本スケート競技選手権大会を八戸市でスピード競技、日光市でアイスホッケーとフィギュア競技が開催されました。当時の長根リンクは、市内最大の貯水池で総面積1,485ヘクタール（約4万5千坪）で売市溜池と言われており、第1回全日本を期に長根リンクと呼ばれるようになったと記録されております。連日の寒波で4万5千坪が全面凍結し、良質の氷ができ6つの日本記録が生まれ、八戸は一躍全国に誇るスケートリンクを持つ氷都として著名となりました。

八戸市が市制を施行して、その正月祝賀の雰囲気最中に行われたこの大会について、当時の各新聞が一斉に長根リンクの素晴らしさと、八戸市民の絶大なる協力を称賛し報道されました。まことにこの昭和5年（1930年）は八戸市、八戸体育界、八戸スケート界の黎明期である輝かしい将来への出発点でありました。

この年の1月7日に、八戸市体育協会が結成されました。

その後10年振りに昭和15年1月第11回全日本スピードスケート選手権大会が開催され、戦時下の昭和17年（1942年）1月には、第12回明治神宮スケート競技会が開催されております。

この大会にスケート競技が参加したのは、第7回大会からであります。

そして戦争の空白があり、終戦直後の昭和22年（1947年）食糧、宿泊、交通機関

等極めて混乱した情勢下で、第1回国民体育大会スケート競技会が開催されたことが、戦後の日本スケート界の復活そして発展に大きく寄与したものと確信致します。

スケート国体は、昭和22年、26年、31年、37年、46年、52年、60年、平成5年、12年と実に9回開催しております。昭和53年1月、第1回全日本ジュニアスピードスケート選手権大会、そして全国中学校スケート競技大会と、全国の第1回大会の大半が長根リンクで開催されております。

以上のように長根リンクは全国の名門リンクとして、栄光に包まれた時代から前述のように、都市開発による自然の減少、地球の温暖化等の環境の変化により、天然氷の時代からパイピングリンクとなり、そして今日では屋内スケートリンクの必要性を迫られております。

記念誌の編纂で長根リンクを舞台に、先人が厳しい自然の中で立派な氷を作り、全国に先がけて第1回大会を誘致した行政と、スケート人と、市民の熱意と汗が、ひしひしと感じ取られます。氷都八戸とはこのことなんだと思われます。

八戸市が一体となって築いた氷都再興を我々会員一同自覚し、懸命に努力する所存であります。

発刊に際しご協力賜りましたデーリー東北新聞社様、をはじめに関係者各位に感謝申し上げます。

日本スケート連盟からの「祝辞」

青森県スケート連盟が創立75周年を迎えられたことを心からお祝い申し上げます。

日本スケート連盟の前身である大日本スケート競技連盟が昭和4年に創設されたことをみても、日本スケート界の中でも最も古いと思われる青森県連の4分の3世紀にわたる足跡に大きな敬意と賛辞を贈ります。

青森県連は、油氷の長根リンクをもって、第1回の全日本スピードスケート選手権大会の開催を皮切りに、国民体育大会、全日本ジュニアスピードスケート選手権大会、全国中学校スケート大会等いずれも第1回大会を開催してきました。その他、全国規模の大会開催数は枚挙に暇がありません。

しかもその大会運営には、連盟

役員の一糸乱れぬチームワークの元に、地元市民の理解と協力を得ながら実績を上げ、他県の模範とされてきました。これまで組織の拡大、整備と合わせて、運営に情熱を注いでこられた連盟幹部の努力が誠に顕著といえます。

また、青森が輩出した優秀な選手も我が国のスケート界を飾ってきたといっても過言ではありません。

冬季オリンピック大会や世界選手権大会に出場した選手では、故石原省三氏に始まって浅坂武次、故出町嘉明、金濱康光、浜道隆寛、濱中喜子、伊勢秀一、澤口一樹、石岡守、成田亜希のスピード陣に加えて、村田光弘、田村岳斗というフィギュアの選手も世界の舞台で活躍しています。これは優れた

指導者を持ち、常に選手養成強化に取り組む連盟ぐるみの体制が功を奏してきたものと思います。

最近、特にジュニアの養成にも力を注ぎ、スケート教室の開設や、他県との交流試合を積極的に進めていると聞いています。

これらの施策の数々が将来の飛躍を約束しているものと期待しています。

2003年2月には御当地で第5回アジア冬季競技大会が開催されるため、日本スケート連盟としても同大会の成功のため準備に万全を尽くします。

青森県スケート連盟が、この大きな節目を契機にますます充実発展されるようお祈りしてお祝いのことばとします。



日本スケート連盟
会 長
久永勝一郎

祝 辞

この度、青森県スケート連盟が創立75周年を迎えられ、先人の築いた数々の栄光と苦難の歴史を顧みるとともに、更なる飛躍と発展を願って記念誌を発刊されますことは誠に意義深く、心からお祝い申し上げます。

貴連盟は、大正15年2月に八戸スケート協会として誕生し、昭和21年11月に青森県スケート連盟へと改称され、八戸地域は勿論、本県におけるスケート競技の普及と競技力の向上を図るため、設立以来、幾多の困難を克服しながら、時代の変遷とともに、充実発展を遂げられて参りました。

この間、東北大会や全国大会では優秀な成績を収めるとともに、オリンピックや国際大会に数多くの選手を輩出し、また、本県での

国民体育大会冬季大会は、昭和22年の第1回大会以来、これまで9回開催し、選手強化と競技運営に尽力され、歴史と伝統を誇る「氷都八戸」を築き上げてきたのであります。

これも偏に、長年にわたり、ひたむきな情熱を傾けられた歴代会長をはじめ、多くの諸先達の皆様方や、指導者など関係各位の並々ならぬご努力の賜物と深く敬意を表するものであります。

さて、県体育協会も大正9年に発足以来、多くの関係者のご支援・ご協力を賜り、本年で81年目を迎えました。今後とも、二十一世紀に相応しいスポーツ文化の確立を目指し、二大目標であります「県民スポーツの振興」並びに「競技力の向上」に向け、さらなる努力

をして参る所存ではありますが、数々の実績を誇る青森県スケート連盟関係者の尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第であります。

終わりに、青森県スケート連盟におかれましては、この度の75周年を契機に関係者がなお一層の結束を図られ、さらに大きく発展されることを心からご祈念申し上げましてお祝いのことばといたします。



財団法人 青森県体育協会
会 長
田名部匡省

祝 辞

青森県スケート連盟の75周年誠におめでとうございます。また記念誌を発刊されますことは誠に有意義なものと御同慶に存じます。

大正15年2月八戸スケート協会として発足されて以来、青森県スケート連盟と名称を変更され幾多の困難を克服し、我が国のスケート界の歴史上でも先達者としての大きな役割りを演じて来られ歴代の会長・理事長諸氏の御努力で今日を迎えられましたことに対して深く敬意を表します。

貴連盟はいち早く3都市対抗競技会を提唱され（八戸市・盛岡市・仙台市）現在の東北スケート大会と発展させるなど東北をリードされ、昭和5年に第1回全日本スピードスケート選手権大会の開催を皮切りに第1回国民体育大会冬季大

会スケート競技会、第1回全国中学校スケート競技会と全国に先駆けて大会を誘致され、その回数は過去70回をこえ、日本スケート連盟主催のすべての大会を開催されるなどその貢献度は絶大なものと存じます。

この間、冬季オリンピック大会・世界選手権大会の日本代表にスピードスケートでは浅坂武次選手・出町嘉明選手・金濱康光選手、浜道隆寛選手、またフィギュア競技にも、村田光弘選手・田村岳斗選手を日本代表として出場させる等の実績を挙げられ東北の雄として君臨されてこられました。

この連盟の75周年のおめでたい記念事業を待たずして病に倒れこれからご活躍を大いに期待されていた若林繁前々会長・アジア冬季

大会に情熱を持って誘致に貢献された沼舘健二前会長の御冥福をお祈り申し上げるとともに神山公佑会長の元、青森県スケート連盟の今後も益々御発展されんことを御祈念申し上げお祝いの言葉といたします。



岩手県スケート連盟
会 長
工藤 祐信

「75周年のお祝いによせて」

75周年の長い歴史の重みを感じつつ又貴県の先輩達の努力を振り返りつつ本当に御目出度う御座居ます。初の全日本選手権、国民体育大会等々の開催を重ねた長根リンクは、私個人にとっても、忘れる事の出来ない思い出の地なのです。それは日本スケート界の大先輩・石原・大沢・若林先生方が、スケートを愛するが故に日光の私達を迎えて練習に参加させてくれた事から始まります。1932年レークブラシッド五輪で私の父が石原省三氏と同室だった事から、八戸で引き受ける話がまとまり、私は新荒町の石原宅から泥んこの坂道を走って通う長根リンクでの練習が開始されました。今、昨日のように思い出されます。この事がきっかけとなり後日、沼舘健二氏と八

戸と日光の子供達がスケートが好きになる様な選手の育成を合言葉に両県の交歓競技会が行われるようになりました。海なし県の日光の子供達が八戸へ行く事は、スケート以上に大切な友達を作り、海を見学した事などは良い勉強になっている事と確信しております。これらは地域社会の人々にも認められた活動になっている今日、貴県のスケートの歴史の一頁の中に私達の交流も加わっているものと思う時に、大きな喜びを感じます。

今日の日本スケート界は、長い年月をスケートに情熱をかたむけて来られた、先達の方々の願いが実り、長野五輪に見られる清水選手の金メダルを頂点に、世界の大会での入賞は当然のようになった、日本選手の活躍は、私達は胸を張っ

てさらなる躍進を求めています。これは青森県の75周年に見られる地方組織の地味な努力があったからであると、思いを新たにしています。

最後に青森県連がこれからの100年の記念の日に向けて発展する事を温かく見守り、仲間の県連として協力し合って、日本スケート界の発展に尽くしたいと考えています。



栃木県スケート連盟
会 長
星野 仁

祝 辞

青森県スケート連盟が設立75周年を迎えられ、多くの先人の業績を偲びつつ、これまでの貴重な足跡を記した記念誌を発刊されますことは、誠に意義深いことと心からお祝い申し上げます。

大正15年2月にわが国早期の連盟として設立されて以来、幾多の困難と課題を乗り越え、強固な組織基盤を確立して、スケート界に大きな役割を果たしてこられました。

昭和5年1月、大日本スケート競技連盟の記念すべき第1回全日本スピードスケート選手権大会を、昭和22年1月には、戦後復活したスケート競技の初の全国大会となった第1回国民体育大会スケート競技会を、戦後の疲弊と荒廃の中、関係者の熱意で、何れも八戸市に誘致したのははじめ、これまで数

多くの全国大会を開催されてきました。

また指導者の養成、選手の育成強化にも取り組まれて、競技力の向上に力を注ぎ、その成果は大会運営と共に、内外の関係者から多大の評価を得ております。

このように貴連盟の歴史は、スケート界の普及・発展向上に貢献された輝かしい業績に彩られた75年であり、これは長年にわたる不断の努力と、着実な活動の表われと、連盟設立以来献身的にご尽力されました、関係者に深甚なる敬意を表するものであります。

近年スケートを志す少年が減少傾向にある中、互いに刺激し合いながら、次代を担う選手を育成する目的で、平成4年から貴連盟のスピードスケート少年団との交歓

競技会を、交互に開催してきておりますが、この競技会に参加した選手の中から、世界ジュニア選手権に出場するなど、着実な成果を挙げておりますことは誠に喜ばしく、ご同慶のいたりであります。今後共貴連盟と手を携えながら、本競技会の継続とさらなる発展に努めていきたいものと念じているところであります。

おわりに、設立75周年を節目として、青森県スケート連盟の益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



青森県スケート連盟
会 長
永井 庄吉

連盟とスケートの歩み



連盟とスケートの歩み

スケート発祥の地八戸

青森県のスケートの歴史は八戸市類家にあった勘太郎堤に始まる。

雪は少ないが寒さが厳しく、空気が乾燥する八戸では貯水池はどれもいい天然のリンクになったが、なかでも勘太郎堤は10ヘクタールもある大きな貯水池で、明治の中頃にはすでに旧制八戸中学校や八戸高女などの氷上運動会が行われていた。当時の記録を見ると、氷上パン食い競争や、氷上剣道などユニークな競技が見られて楽しい。

新聞の最も古い記録では、明治40年の東奥日報紙に、八戸中学の氷上運動会の様子が紹介されている。学生たちは靴の下に紐で金属の刃をしばりつける、「カネスケート」で滑っていた。

女生徒も袴姿でスケートを楽しんでおり、明治時代にはすでにスケートは八戸市民の冬の楽しみのひとつになっていた。

この勘太郎堤のスケートをいっそう発展させたのが勘太郎堤に校舎が隣接していた八戸高等女学校（現八戸東高）の三田藤吾校長であった。

三田は、スケート用具を学校に備え、体育の授業に取り入れた。当時としては画期的なことであったが、これがスケートがスポーツとして教育現場に取り入れられた最初であり、その後の発展に大いに貢献した。

八戸スケート協会の設立

大正十五年、八戸スケート協会が設立した。初代会長は三田藤吾であった。この数日前、はちのへ新聞社主催の第1回滑冰大会が行われ、1500mで板橋勇次郎が優勝した。

昭和の始まりとともに、スケートは長根リンクへと移り、そしてフィギュアとアイスホッケーの歴史が始まる。

昭和4年、第1回東北スケート競技選手権大会が八戸市で開かれた。まもなく、諏訪湖で全日本選手権大会があり、八戸から出場した福勢喜一が総合6位に入賞。青森県初の全国大会入賞者となった。

福勢はその後の八戸スケートに科学的走法をもたらし原動力となった。この年の暮れ、大日本スケート競技

連盟とスケートの歩み

●青森県体育協会「Flag」より

連盟が創立。翌5年、第1回全日本スケート競技選手権大会が、ホッケーとフィギュアは日光で、スピード競技は八戸長根リンクで開催された。

リンク作りの工夫と苦勞

ところが、大会3日前、氷の表面に土埃が付着してしまった。この窮状を救ったのは近くの売市壮年団が採氷場で使っていた刃長6センチの大カンナであった。

大カンナで表面を削った氷は滑りも良く、行われた4種目中、3種目で6つの日本記録が生まれ、日本中に長根リンクのすばらしさが知られることとなった。

また、暖冬で全面結氷ができなかった7年の大会では、中央に離れ小島のように浮いていた氷原にロープをかけ、大人子どもみんなで岸まで引き寄せて競技に使用した。

今では考えられないことであるが、天然のリンクにはさまざまな苦勞と工夫があった。

この頃活躍した泉山貞義は、全日本選手権で常に上位を占め、15年の第10回大会でついに優勝した。

昭和も10年代ともなると日に日に戦時色が濃くなっていった。

17年、八戸で開催された明治神宮国民体育大会（国体の前身）は八戸奉賛会が運営にあたった。大会前日大雪となり、関係者ばかりでなく周辺住民総出で徹夜の除雪と製氷作業が行われた。夜中の作業を元気づけるため、えんぶり舞のレコードを流し、炊き出しが行われ、なんとか開催にこぎつけた。まさに市民が一致協力して成功させた大会であった。

しかし、18年から戦争が終わった21年まで、長根リンクがスケートファンでうまることはなかった。

熱意で実った国体開催

八戸スケート協会の再起は21年1月、終戦の日から半年もたっていなかった。

食べるものもとてない時代に、いち早くスケートが再起し、大いに市民を勇気づけた。

21年から始まった国体で、八戸市は22年の冬季第1回大会から平成11年度大会まで何度も開催している。



連盟とスケートの歩み

第1回大会は、食糧事情も交通事情も極端に悪いことから引き受ける都市がなかったが、八戸が引き受けた。

この大会には10都道府県から420人余りが参加した。受け入れ側も参加選手も、さまざまな困難を乗り越えての、スケートを愛する人々の熱意が実った大会であった。

この大会で、スケート競技に関して八戸は、日本有数の施設とスタッフを擁していることを知らしめた。

25年には八戸市に工場のある日東化学からの110万円という多額の寄付をもとに長根総合スケート場が整備された。近代的コースは作られたが、まだ自然結氷によるリンクであった。良質の水で知られた長根天然リンクが、完全パイピングリンクとなるのは、昭和46年の第26回大会からである。

スケート八戸の時代到来

戦後、青森県スケートの競技力はめざましく向上し、活躍した選手には、世界選手権総合9位の浅坂武次を始め、高校スケート選手権、日本学生選手権、国体の5000mと全日本選手権10000mに2度優勝し、グルノー

ブル冬季オリンピック、ユニバーシアード日本代表で出場した出町嘉明、町田隆雄（全国高校選手権5000m、日本学生選手権10000mに優勝）、田中信明（1500mで日本学生選手権2度、国体2度優勝）、中島進（国体教員3000m優勝）、宮古政則（1500mで全国高校選手権と国体に優勝）国体5000m優勝の田村裕治、高校選手権5000m優勝の東隆、同じく5000mと10000mに優勝した東徹、女性では、全日本選手権総合優勝、高校選手権、国体5000m優勝の佐々木邦子、高校選手権で500mと1000mに優勝した藤田幸子、同じく高校選手権1000m優勝の市川真貴子らがいる。

最新の技術で水のコンディション調整ができるリンクの完成は、若い選手の育成にどれほど効果があったか、この後のあすなろ国体で開花する。力をつけた若い選手たちが、これから世界を舞台に活躍することとなる。

パイピングリンクへの道

良質で知られた天然の長根リンクも、昭和30年代の暖冬では、リンクが凍らず、大会の開催はおろか、選



連盟とスケートの歩み

手の日常の練習さえできない冬がたびたびあった。

練習不足のままでの大会出場を余儀なくされ、その結果、昭和34年を境に青森県選手は国体での上位入賞から遠ざかっていた。

そこで、パイピングリンクの必要性が叫ばれ、41年、まずホッケーリンクのパイピング化が実現した。リンクは連日超満員であった。それは八戸市民がいいリンクをどれほど待ち望んでいたかを物語る光景であった。

スピードリンクのパイピング化は44年12月に完成した。46年の第26回国体では新装となった完全パイピングリンクのすばらしさを全国の関係者に示した。この大会で青森県から久々の優勝者を出すことができた。高校男子5000mの中田敏彦と、一般男子1500mの田中信明である。

いい練習環境と目標を得て、若い選手が育っていた。あすなろ国体が6年後に迫っていた。

市民が支えたあすなろ国体

52年のあすなろ国体はスケート競技で幕を開けた。



ここから始まる夏の大会、秋の大会に向けて、スケートばかりでなく、県内スポーツ関係者すべてが緊張と高揚のなかで開会式を迎えた。大会には41都道府県から1900人余りが参加し、八戸市民の協力で大会運営はうまく運び大成功に終わった。

成績では成年5000mで田名部幸夫、成年500mで宮古正子、教員3000mで中田敏彦が優勝した。入賞者は男子12人、女子9人にのぼり、地元開催に花を添えた。率いる監督は、数々の全国大会で優勝し、ユニバーシアード、グルノーブル冬季五輪の代表で、往年の大選手出町嘉明であった。この年、田名部幸夫は全日本選手権でも、5000mと10000mの2種目に入賞し、総合3位に入賞した。54年の国体では、東隆が教員3000mに優勝、全日本選抜選手権で田名部正人が3000m優勝、5000m準優勝で総合3位と活躍、翌年の日本学生選手権では10000mに優勝した。

56年、長根リンクでの全日本ジュニア選手権は光星学院の金濱康光が大活躍。1500mで優勝を飾り、3000mと5000mは準優勝、総合で堂々の優勝を飾り、世界ジュニア日本代表となった。

この年、第1回全国中学生大会が長根リンクで開か

連盟とスケートの歩み

れ、百目木仁が3000mで2位に入賞した。また、田名部幸夫は実業団大会で5000m優勝、3000m準優勝の快挙、全日本選手権10000mでも優勝した。

フィギュアスケート物語

フィギュアスケートを八戸に紹介したのは大正11年頃、福井吉平である。普及の中心的役割を果たしたのは、福井の八中同級生、金子善兵衛である。昭和4年には八戸で最初の競技会、東北選手権大会が開かれ、栗谷川清、阿部祐四郎が1位2位を独占した。6年の北日本フィギュアでも大橋孝一、江刺政伸が1位2位を独占し、青森県のフィギュアの成長が期待された。しかしその後は競技人口が極端に少ない時代が続き、当然指導者を育てることもなかったのでフィギュアは衰退した。

ふたたび光が当たるのは、41年、ホッケーリンクのパイピング化が契機であった。八戸フィギュア愛好会が市内の愛好者を募って週2～3回の練習を始めた。会員30名で始まった愛好会はまもなく100名を超えるま

でになり、フィギュアへの関心は高まっていった。選手も指導者も試行錯誤の数年を経て、46年の第26回国体から県代表選手を送り出せるようになった。しかし、小学校低学年から、室内リンクで年間を通して選手を育てる、他県との差は広がるばかりであった。そこで、48年の県フィギュア選手権大会から、ジュニアのレベル向上のため小学生の部を設けることとした。その成果は55年、北日本フリージュニアAでの、村田光弘（鮫小）と、Cでの山本佳子（是川小）の優勝に現れた。同じ年の第10回東北スケート競技会では、松沢妙子（是川小）、佐々木美香（城下小）が1位2位を独占した。翌56年の全国中学校スケート競技会の第1回大会は、大隅ちはる（八戸二中）と柳沢美智子（白銀中）が2位と4位に入賞する。

この頃には青森県は東北大会では上位常連県に成長、村田光弘は平成元年、全国高校選手権を2連覇、4年のアルベールビル冬季五輪に出場した。

最近では、8年のトリグラフトロフィー国際競技大会で佐々木亮輔（柏崎小）が優勝、11年には田村岳人が長野冬季五輪に出場している。



連盟とスケートの歩み

スケート青森を支える選手たち

スピード競技では平成元年、金濱康光がカルガリー冬季五輪に出場、7年のリレハンメル五輪には浜道隆寛が出場した。浜道は9年のアジア選手権500mでも優勝、石岡守もワールドカップ、世界選手権に出場するなど、青森県が育てた選手たちが世界を舞台に活躍した。

国内でも、8年、国体少年3000mで成田亜希が、全日本実業団で吉田産業（八戸市）が優勝した。9年国体では2人の高校生、大里崇が10000mで、伊勢秀一が5000mで優勝した。伊勢は翌年の国体と全国高校スケート大会でも優勝し、世界選手権出場を果たした。10年、全日本ジュニア選手権スプリントで藤ヶ森誠二が優勝、石岡守が世界選手権、ワールドカップに出場した。11年の冬季アジア大会では、ともに吉田産業の沢口一樹（5000m）と加藤勝広（500m）が、3位と7位に入賞した。また全日本ジュニア選手権3位に入賞した浜中喜子（光星学院高）は世界ジュニア選手権3000mで県女性初の国際大会2位入賞を果たした。

この年のカルガリー大会で沢口一樹は男子総合155.383

点を得点し、日本記録を更新する。12年1月、長根リンクで開催された「北のまほろば国体」では、青森県選手団は地元の利を生かして大活躍した。優勝はなかったもののスピード競技では戸田金作が1000m2位、500m3位と活躍するなど、男子15人、女子9人が入賞、フィギュアの頑張りもあり天皇杯6位と大健闘した。

勘太郎堤に生まれ、長根リンクが育てた青森県のスケート。その歴史を支え、見守ってきたのは選手の努力と、指導者の熱意、そして八戸の企業と市民のスケートを愛する気持ちであった。

青森県体育協会「Flag」より



歴代役員

会 長			副 会 長			理 事 長		
氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間
(故) 三田 藤吾	教員 (八戸高 等女学校 校長)	大15. 2 ～昭5. 3				(故) 佐藤 良作	会社員 (新聞記 者)	
(故) 久保田信三 M. 19. 9. 25	教員 (八商高 校長)	昭5. 5 ～7. 3				金子善兵衛 M. 36. 7. 23 (故) 太田 良作	教員	
(故) 久保 節	公務員 (八戸市 助役)	昭7. 3 ～16. 4	(故) 藤田愛二郎	医師		福井 吉平 M. 36. 9. 27 (故) 上野与祖吉 (故) 星 憲道	自営 教員	
(故) 松本 京吉 M. 18. 12. 16	公務員	昭16. 5 ～28. 4	(故) 下斗米豊二郎 M. 38. 8. 13	公務員		(故) 星 憲道 (故) 下斗米豊二郎 M. 38. 8. 13 (故) 南部 直久 (故) 大沢 義一 久保 榮 M. 44. 2. 24 (故) 川口英二郎 M. 43. 9. 21	教員 公務員 教員 自営	
(故) 熊谷 義雄 M. 38. 5. 20	商工会議 所会頭 会社役員	昭28. 5 ～35. 5	石原 省三 (故) 川口英二郎 M. 43. 9. 21	会社員 自営	昭28. 5 ～34. 5 昭34. 5 ～35. 5	(故) 川口英二郎 M. 43. 9. 21 下斗米徳太郎 M. 44. 2. 24	自営 公務員	昭28. 5 ～34. 5 昭34. 5 ～35. 5

会 長			副 会 長			理 事 長		
氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間
秋山阜二郎 M. 43. 2. 22	会社役員 県議会議 員 八戸市長	昭35. 6 ～54. 3	(故) 橋本 忠吉	会社役員	昭35. 6 ～48. 11	石橋富士保 T. 11. 6. 28 泉山 四郎 T. 12. 1. 15	自営 会社役員	昭35. 6 ～43. 3 昭43. 4 ～48. 11
昭和48年11月9日青森スケート連盟よりアイスホッケー部門が分離独立して青森 県アイスホッケー連盟が設立 泉山四郎理事長がアイスホッケー連盟に移籍								
			石橋富士保 T. 11. 6. 28 (故) 若林 繁 T. 13. 8. 24	団体役員 教員	昭48. 11 ～54. 3 昭48. 11 ～54. 3	(故) 沼舘 健二 S. 6. 3. 25	教員	昭48. 11 ～54. 3
石橋富士保 T. 11. 6. 28	団体役員	昭54. 4 ～58. 3	(故) 若林 繁 T. 13. 8. 24 (故) 沼舘 健二 S. 6. 3. 25 赤澤 正敏 S. 6. 10. 19 (故) 仁科 東男 T. 15. 5. 18	教員 教員 教員	昭54. 4 ～60. 3 昭54. 4 ～60. 3 昭58. 4 ～60. 3 昭60. 4 ～62. 3	(故) 照井 利男 S. 7. 10. 20	会社員	昭54. 4 ～58. 3
(故) 若林 繁 T. 13. 8. 24	教員	昭60. 4 ～62. 3	(故) 沼舘 健二 S. 6. 3. 25 (故) 照井 利男 S. 7. 10. 20	教員 会社員	昭60. 4 ～62. 3 昭60. 4 ～62. 3	山田 清 S. 7. 8. 15	教員	昭60. 4 ～62. 3
石橋富士保 T. 11. 6. 28	団体役員	昭62. 4 ～平5. 3	(故) 沼舘 健二 S. 6. 3. 25 (故) 照井 利男 S. 7. 10. 20	教員 会社員	昭62. 4 ～平5. 3 昭62. 4 ～元. 3	山田 清 S. 7. 8. 15 (故) 富岡 義雄 S. 12. 1. 19	教員 会社役員	昭62. 4 ～元. 3 平元. 4 ～5. 3

会 長			副 会 長			理 事 長		
氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間	氏 名	主たる職	在任期間
			堀 徳郎 S. 8. 3. 17	教員	昭62. 4 ～元. 3			
			赤澤 正敏 S. 6. 10. 19	教員	平元. 4 ～4. 3			
			伊藤 武 T. 14. 8. 20		平元. 4 ～5. 3			
			山田 清 S. 7. 8. 15	教員	平元. 4 ～5. 3			
			中村 寿文 S. 14. 8. 4	県議会議員	平3. 4 ～5. 3			
			(故)					
			桑原 哲男 S. 7. 10. 11	教員	平4. 4 ～5. 3			
(故)			伊藤 武 T. 14. 8. 20	無	平5. 4 ～12. 8	富岡 義雄 S. 12. 1. 19	会社役員	平元. 4 ～7. 3
沼舘 健二	無	平5. 4 ～12. 8	山田 清 S. 7. 8. 15	教員	平5. 4 ～12. 8			
			中村 寿文 S. 14. 8. 4	県議会議員	平5. 4 ～12. 8			
			(故)					
			照井 利男 S. 7. 10. 20	自営	平5. 4 ～7. 3			
			岩見 秋夫 S. 9. 10. 7	教員	平5. 4 ～7. 3	山口 広道 S. 26. 8. 22	八戸市議会議員	平7. 4 ～12. 8
			山崎 猛 S. 11. 11. 14	教員	平7. 4 ～9. 3			
			松崎 徹 S. 13. 4. 9	教員	平9. 4 ～11. 4			
			横田 浩一 S. 16. 2. 10	教員	平11. 5 ～13. 4			
神山 公佑 S. 10. 10. 26	会社社長	平12. 9 ～現在	伊藤 武 T. 14. 8. 20	無	平12. 9 ～現在	山口 広道 S. 26. 8. 22	八戸市議会議員	平12. 9 ～現在
			山田 清 S. 7. 8. 15	教員	平12. 9 ～現在			
			中村 寿文 S. 14. 8. 4	県議会議員	平12. 9 ～13. 4			
			川口 修平 S. 19. 1. 25	教員	平13. 4 ～現在			

青森県選手の世界大会出場記録 ●スピード

SPEED

年 度	大 会 名	出 場 者	所 属	成 績 他
1932 (昭7)	冬季五輪 (レークプラシット)	石 原 省 三	満州鉄道	
1936 (昭11)	冬季五輪 (ガルミッシュパルテンキルヘン)	石 原 省 三	早稲田大学	
1952 (昭27)	冬季五輪 (オスロ)	石 原 省 三		(監督)
1954 (昭29)	世界選手権 (札幌)	浅 坂 武 次	立教大学	
1955 (昭30)	世界選手権 (モスクワ)	浅 坂 武 次	立教大学	総合9位
1956 (昭31)	冬季五輪 (コルチナダンペッツォ)	浅 坂 武 次	立教大学	
1968 (昭43)	冬季五輪 (ゲルノーブル)	出 町 嘉 明	コカコーラ	
1981 (昭56)	世界ジュニア (ハーマル)	金 濱 康 光	光星高	総合16位
1985 (昭60)	世界スプリント (ヘーレンフェイン)	金 濱 康 光	専修大	総合16位
1987 (昭62)	ワールドカップ (レークプラシット)	金 濱 康 光	ジャスコ	1000m 5位
1987 (昭62)	ワールドカップ (エステルスンド)	金 濱 康 光	ジャスコ	1000m 5位
1987 (昭62)	ワールドカップ (インツエル)	金 濱 康 光	ジャスコ	500m 6位
1987 (昭62)	世界スプリント (カルガリー)	金 濱 康 光	ジャスコ	総合14位
1987 (昭62)	世界スプリント (ウエストアリス)	金 濱 康 光	ジャスコ	総合8位
1988 (昭63)	冬季五輪 (カルガリー)	金 濱 康 光	ジャスコ	500m 9位
1993 (平5)	五輪オーバル国際 (カルガリー)	浜 道 隆 寛	日本大学	500m 1位
1994 (平6)	冬季五輪 (リレハンメル)	浜 道 隆 寛	日本大学	
1994 (平6)	世界スプリント (カルガリー)	浜 道 隆 寛	日本大学	
1996 (平8)	世界ジュニア	成 田 亜 希	富士急	
1997 (平9)	アジアスピード (帯広)	石 岡 守	吉田産業	1500m 1位
1997 (平9)	アジアスピード (帯広)	澤 口 一 樹	吉田産業	10000m 3位
1998 (平10)	世界選手権 (ヘーレンフェイン)	石 岡 守	吉田産業	
1998 (平10)	世界ジュニア (ローズヒル)	伊 勢 秀 一	百石高校	総合13位
1999 (平11)	アジアスピード (韓国)	加 藤 勝 広	吉田産業	
1999 (平11)	アジアスピード (韓国)	澤 口 一 樹	吉田産業	10000m 1位、5000m 2位
1999 (平11)	世界選手権 (ハーマル)	石 岡 守	吉田産業	
1999 (平11)	世界ジュニア (ヤイトフス)	濱 中 喜 子	光星高校	3000m 2位、総合7位
2000 (平12)	世界選手権 (ミルウオーキー)	成 田 亜 希	富士急行	

全国大会優勝者一覧 ●スピード
 SPEED

年度／大会名	国 体	全日本選手権	全日本ジュニア	全日本スプリント	日本学生選手権
1977（昭52）	500m 宮古 正子 5000m 田名部幸夫 3000m 中田 敏彦				
1979（昭54）	3000m 東 隆				10000m 田名部正人
1980（昭55）					10000m 田名部正人
1981（昭56）	10000m 田名部正人	10000m 田名部正人			5000m 田名部正人
1982（昭57）	500m 戸田 金作 5000m 田名部幸夫				
1983（昭58）		1500m 田名部幸夫			1500m 金濱 康光
1984（昭59）					1500m 金濱 康光
1985（昭60）	500m、1500m 金濱 康光 1500m 小軽米智子 5000m 田名部正人			500m 金濱 康光	
1986（昭61）	500m 戸田 金作				
1987（昭62）	3000m 小軽米智子				
1988（昭63）	1000m 村崎 匡裕				
1989（平 1）	1000m 大向 裕之		スプリント 500m 浜道 隆寛		
1990（平 2）			スプリント1000m 村崎 匡裕		
1991（平 3）					
1992（平 4）	成年B500m 大向				スプリント総合 浜道 隆寛
1993（平 5）					
1994（平 6）					
1995（平 7）					
1996（平 8）	5000m 伊勢 秀一		女子総合 成田 亜希		
1997（平 9）			5000m 袴田 憲司		
1998（平10）	500m 戸田 金作 1000m 戸田 金作 10000m 伊勢 秀一		スプリント総合 藤ヶ森誠司 5000m 伊勢 俊一		
1999（平11）					
2000（平12）					
2001（平13）					
2002（平14）					



年度／大会名	全国高校選手権	全国中学校大会	全日本選抜	全日本実業団	浅 間 選 抜
1980（昭55）				5000m 田名部正人	
1983（昭58）		1000m 柳町 一徳			
1984（昭59）		1500m 小軽米智子		1500m 田名部正人 3000m 田名部正人	
1986（昭61）				500m 金濱 康光 1000m 金濱 康光	
1987（昭62）	1500m 小笠原広文			1000m 金濱 康光	
1988（昭63）				1500m 小笠原広文	
1989（平 1）				1500m 小笠原広文 2000m R 吉田産業	
1990（平 2）			1500m 小笠原広文	1500m 小笠原広文 2000m R 吉田産業	
1991（平 3）				2000m R 吉田産業	
1992（平 4）					
1993（平 5）		スピード男子総合 百石中			
1994（平 6）		スピード男子総合 百石中			500m 浜道 隆寛
1995（平 7）		スピード男子総合 下田中		3000m、5000m 澤口 一樹 1500m 菊地 正信 2000m R 吉田産業	500m 浜道 隆寛
1996（平 8）	10000m 伊勢 俊一		10000m 澤口 一樹	500m 浜道 隆寛 5000m 澤口 一樹 2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	500m 浜道 隆寛
1997（平 9）			1500m 澤口 一樹	1500m 石岡 守 2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	
1998（平10）					
1999（平11）			5000m 澤口 一樹	3000m、5000m 澤口 一樹 2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	
2000（平12）					
2001（平13）				2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	10000m 伊勢 俊一
2002（平14）					

全国大会優勝者一覧 ●スピード

SPEED

年度／大会名	国 体	全日本選手権	全日本ジュニア	全日本スプリント	日本学生選手権
1977（昭52）	500m 宮古 正子 5000m 田名部幸夫 3000m 中田 敏彦				
1979（昭54）	3000m 東 隆				10000m 田名部正人
1980（昭55）					10000m 田名部正人
1981（昭56）	10000m 田名部正人	10000m 田名部正人			5000m 田名部正人
1982（昭57）	500m 戸田 金作 5000m 田名部幸夫				
1983（昭58）		1500m 田名部幸夫			1500m 金濱 康光
1984（昭59）					1500m 金濱 康光
1985（昭60）	500m、1500m 金濱 康光 1500m 小軽米智子 5000m 田名部正人			500m 金濱 康光	
1986（昭61）	500m 戸田 金作				
1987（昭62）	3000m 小軽米智子				
1988（昭63）	1000m 村崎 匡裕				
1989（平 1）	1000m 大向 裕之		スプリント 500m 浜道 隆寛 スプリント1000m 村崎 匡裕		
1990（平 2）					
1991（平 3）					
1992（平 4）	成年B500m 大向				スプリント総合 浜道 隆寛
1993（平 5）					
1994（平 6）					
1995（平 7）					
1996（平 8）	5000m 伊勢 秀一		女子総合 成田 亜希 5000m 袴田 憲司		
1997（平 9）			スプリント総合 藤ヶ森誠司 5000m 伊勢 俊一		
1998（平10）	500m 戸田 金作 1000m 戸田 金作 10000m 伊勢 秀一				
1999（平11）					
2000（平12）					
2001（平13）					
2002（平14）					



年度／大会名	全国高校選手権	全国中学校大会	全日本選抜	全日本実業団	浅 間 選 抜
1980（昭55）				5000m 田名部正人	
1983（昭58）		1000m 柳町 一徳			
1984（昭59）		1500m 小軽米智子		1500m 田名部正人 3000m 田名部正人	
1986（昭61）				500m 金濱 康光 1000m 金濱 康光	
1987（昭62）	1500m 小笠原広文			1000m 金濱 康光	
1988（昭63）				1500m 小笠原広文	
1989（平 1）				1500m 小笠原広文 2000m R 吉田産業	
1990（平 2）			1500m 小笠原広文	1500m 小笠原広文 2000m R 吉田産業	
1991（平 3）				2000m R 吉田産業	
1992（平 4）					
1993（平 5）		スピード男子総合 百石中			
1994（平 6）		スピード男子総合 百石中			500m 浜道 隆寛
1995（平 7）		スピード男子総合 下田中		3000m、5000m 澤口 一樹 1500m 菊地 正信 2000m R 吉田産業	500m 浜道 隆寛
1996（平 8）	10000m 伊勢 俊一		10000m 澤口 一樹	500m 浜道 隆寛 5000m 澤口 一樹 2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	500m 浜道 隆寛
1997（平 9）			1500m 澤口 一樹	1500m 石岡 守 2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	
1998（平10）					
1999（平11）			5000m 澤口 一樹	3000m、5000m 澤口 一樹 2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	
2000（平12）					
2001（平13）				2000m R 吉田産業 男子総合 吉田産業	10000m 伊勢 俊一
2002（平14）					

青森県スピードスケート選手権歴代優勝者

SPEED

(男子)

回 年度	優 勝 者 所 属	得点	500m	1500m	5000m	10000m
第34回 昭57年	田名部 幸 夫 (日本文明シャッター)	175.276	戸 田 金 作 39" 08	田名部 幸 夫 2' 04" 29	田名部 幸 夫 7' 31" 77	田名部 幸 夫 15' 28" 58
第35回 昭58年	田名部 正 人 (根城中教員)	180.813	戸 田 金 作 39" 00	田名部 正 人 2' 12" 10	田名部 正 人 8' 09" 60	田名部 正 人 15' 44" 04
第36回 昭59年	田名部 正 人 (根城中教員)	174.383	田名部 正 人 40" 20	田名部 正 人 2' 06" 40	田名部 正 人 7' 37" 80	田名部 正 人 16' 05" 40
第37回 昭60年	下 村 信 也 (八 商 高)	178.371	戸 田 金 作 39" 00	柳 町 一 徳 2' 09" 30	下 村 信 也 7' 40" 30	下 村 信 也 15' 39" 50
第38回 昭61年	田名部 正 人 (根城中教員)	174.540	角 直 克 40" 70	田名部 正 人 2' 04" 20	田名部 正 人 7' 36" 10	田名部 正 人 15' 34" 60
第39回 昭62年	小笠原 広 文 (光 星 高)	176.643	小笠原 広 文 40" 25	小笠原 広 文 2' 06" 10	小笠原 広 文 7' 45" 70	田名部 正 人 15' 92" 00
第40回 昭63年	小笠原 広 文 (光 星 高)	175.776	佐 藤 一 也 39" 61	小笠原 広 文 2' 05" 40	小笠原 広 文 7' 46" 80	小笠原 広 文 16' 15" 26
第41回 平 1 年	小笠原 広 文 (吉 田 産 業)	176.989	浜 道 隆 寛 39" 92	小笠原 広 文 2' 04" 58	小笠原 広 文 7' 42" 29	小笠原 広 文 16' 15" 66
第42回 平 2 年	小笠原 広 文 (吉 田 産 業)	177.683	浜 道 隆 寛 39" 29	小笠原 広 文 2' 01" 61	竹 内 洋 介 7' 44" 28	竹 内 洋 介 16' 10" 29
第43回 平 3 年	後 藤 準 (八 西 高)	177.807	小笠原 広 文 40" 28	小笠原 広 文 2' 04" 96	後 藤 準 7' 44" 86	後 藤 準 15' 55" 23
第44回 平 4 年	後 藤 準 (八 西 高)	179.736	河 村 育 麻 39" 84	後 藤 準 2' 08" 48	後 藤 準 7' 39" 13	河原木 徳 友 16' 19" 27
第45回 平 5 年	後 藤 準 (八 西 高)	176.771	菊 地 正 信 40" 22	後 藤 準 2' 03" 41	後 藤 準 7' 39" 16	後 藤 準 16' 06" 19
第46回 平 6 年	菊 地 正 信 (吉 田 産 業)	172.668	菊 地 正 信 39" 51	菊 地 正 信 2' 03" 04	小 芝 直 彦 7' 34" 56	小 芝 直 彦 15' 16" 82
第47回 平 7 年	澤 口 一 樹 (サ ン デ ー)	171.864	澤 口 一 樹 39" 43	堀 川 大 志 2' 03" 49	堀 川 大 志 7' 27" 79	澤 口 一 樹 15' 15" 75
第48回 平 8 年	澤 口 一 樹 (サンデー)	172.391	菊 地 正 信 39" 66	澤 口 一 樹 2' 00" 50	伊 勢 秀 一 7' 36" 16	伊 勢 秀 一 15' 26" 34
第49回 平 9 年	澤 口 一 樹 (サンデー)	167.637	藤ヶ森 誠 司 38" 82	澤 口 一 樹 1' 59" 81	澤 口 一 樹 7' 14" 14	澤 口 一 樹 14' 44" 94
第50回 平10年	石 岡 守 (吉 田 産 業)	164.933	石 岡 守 38" 52	澤 口 一 樹 1' 58" 40	石 岡 守 7' 08" 22	石 岡 守 14' 41" 97
第51回 平11年	石 岡 守 (吉 田 産 業)	165.366	石 岡 守 38" 20	澤 口 一 樹 1' 58" 05	澤 口 一 樹 7' 10" 39	澤 口 一 樹 14' 48" 28
第52回 平12年	石 岡 守 (吉 田 産 業)	166.802	石 岡 守 38" 30	石 岡 守 1' 57" 74	村 崎 高 夫 7' 17" 50	石 岡 守 15' 10" 09
第53回 平13年	石 岡 守 (吉 田 産 業)	170.859	西 岡 和 哉 37" 36	澤 口 一 樹 2' 00" 84	小笠原 裕 太 7' 19" 09	小笠原 裕 太 15' 16" 37
第54回 平14年	石 岡 守 (吉 田 産 業)	169.271	石 岡 守 39" 00	伊 勢 秀 一 1' 59" 01	石 岡 守 7' 15" 21	石 岡 守 15' 37" 48



(女子)

回 年度	優 勝 者 所 属	得点	500m	1000m	1500m	3000m
第34回 昭57年	細 越 篤 子 (八 工 高)	191.578	細 越 篤 子 46" 32	細 越 篤 子 1' 32" 86	細 越 篤 子 2' 24" 54	細 越 篤 子 5' 03" 89
第35回 昭58年	細 越 篤 子 (三八五貨物)	200.956	細 越 篤 子 45" 10	1500m 佐々木 寿 子 2' 32" 60	3000m 佐々木 寿 子 5' 03" 50	5000m 小軽米 智 子 8' 49" 06
第36回 昭59年	細 越 篤 子 (三八五貨物)	201.239	倉 内 留 美 45" 00	小軽米 智 子 2' 25" 10	細 越 篤 子 5' 10" 70	小軽米 智 子 8' 48" 30
第37回 昭60年	小軽米 智 子 (八 西 高)	200.169	助 川 安 芸 子 46" 70	小軽米 智 子 2' 31" 20	小軽米 智 子 5' 09" 30	小軽米 智 子 9' 02" 30
第38回 昭61年	小軽米 智 子 (八 西 高)	196.142	小軽米 智 子 46" 10	小軽米 智 子 2' 22" 10	小軽米 智 子 5' 04" 00	小軽米 智 子 8' 40" 10
第39回 昭62年	小軽米 智 子 (八 西 高)	193.070	小軽米 智 子 45" 54	小軽米 智 子 2' 20" 61	小軽米 智 子 4' 57" 63	小軽米 智 子 8' 30" 56
第40回 昭63年	樋 口 元 子 (八 高)	201.690	小野寺 恭 子 46" 23	樋 口 元 子 2' 25" 35	樋 口 元 子 5' 10" 76	樋 口 元 子 9' 08" 07
第41年 平 1 年	佐々木 直 子 (光 星 高)	202.297	下 山 博 恵 45" 67	板 橋 純 子 2' 29" 03	板 橋 純 子 5' 11" 55	佐々木 直 子 8' 59" 52
第42回 平 2 年	佐々木 直 子 (光 星 高)	200.427	小野寺 郁 子 45" 96	佐々木 直 子 2' 28" 92	佐々木 直 子 5' 09" 73	佐々木 直 子 8' 47" 95
第43年 平 3 年	小野寺 郁 子 (八 東 高)	202.350	小野寺 郁 子 46" 23	小野寺 郁 子 2' 24" 93	沼 館 章 子 5' 18" 38	沼 館 章 子 8' 48" 42
第44回 平 4 年	沼 館 章 子 (光 星 高)	201.923	成 田 亜 希 45" 17	沼 館 章 子 2' 32" 89	沼 館 章 子 5' 13" 53	沼 館 章 子 8' 51" 65
第45回 平 5 年	成 田 亜 希 (光 星 高)	199.378	沼 館 章 子 45" 66	沼 館 章 子 2' 20" 96	成 田 亜 希 4' 59" 03	河原木 美恵子 9' 11" 41
第46回 平 6 回	成 田 亜 希 (光 星 高)	191.659	大久保 歌 澄 44" 48	大久保 歌 澄 2' 21" 03	成 田 亜 希 4' 52" 60	成 田 亜 希 8' 23" 55
第47回 平 7 年	成 田 亜 希 (光 星 高)	188.925	成 田 亜 希 44" 31	成 田 亜 希 2' 17" 01	成 田 亜 希 4' 48" 20	成 田 亜 希 8' 29" 12
第48回 平 8 年	栗 林 しのぶ (八 商 高)	194.328	吉 田 真由美 45" 54	浜 中 喜 子 2' 21" 14	栗 林 しのぶ 4' 56" 93	栗 林 しのぶ 8' 21" 90
第49回 平 9 年	浜 中 喜 子 (光 星 高)	189.563	川 尻 貴 子 44" 33	川 尻 貴 子 2' 16" 44	浜 中 喜 子 4' 49" 31	小笠原 慶 子 8' 18" 96
第50回 平10年	川 尻 貴 子 (吉 田 産 業)	189.770	川 尻 貴 子 43" 92	川 尻 貴 子 2' 15" 29	川 尻 貴 子 4' 40" 72	浜 中 喜 子 8' 16" 41
第51回 平11年	中 田 智 子 (根 城 中)	199.513	柏 崎 友 美 45" 24	中 田 智 子 2' 23" 84	中 田 智 子 5' 09" 26	田 中 美 穂 8' 33" 38
第52年 平12年	浜 中 喜 子 (八 戸 市 庁)	185.568	浜 中 喜 子 44" 87	浜 中 喜 子 2' 15" 03	浜 中 喜 子 4' 44" 53	浜 中 喜 子 8' 02" 67
第53回 平13年	根 城 七 恵 (八 商 高)	192.349	遠 藤 奈々子 45" 33	根 城 七 恵 2' 21" 08	根 城 七 恵 4' 51" 62	根 城 七 恵 8' 27" 50
第54回 平14年	日ヶ久保麻衣子 (八 商 高)	196.650	遠 藤 奈々子 45" 52	日ヶ久保麻衣子 2' 24" 39	日ヶ久保麻衣子 5' 00" 05	日ヶ久保麻衣子 8' 47" 22

青森県選抜スピードスケート競技会種目別優勝者

SPEED

(男子)

回 年度	500m	1000m	1500m	3000m	5000m
第16回 昭57年	田名部 正 人 41" 75	_____	田 口 俊 彦 2' 12" 39	田名部 幸 夫 4' 30" 10	_____
第17回 昭58回	田名部 正 人 41" 20	_____	田名部 正 人 2' 04" 40	百目木 仁 4' 33" 70	_____
第18回 昭59年	夏 堀 尚 治 40" 20	_____	夏 堀 尚 治 2' 06" 20	田名部 正 人 4' 24" 30	_____
第19回 昭60年	田名部 正 人 40" 60	_____	石 橋 喜 範 2' 16" 20	松 田 仁 4' 32" 90	_____
第20回 昭61年	藤 本 亮 40" 10	_____	藤 本 亮 2' 11" 60	小笠原 広 文 4' 24" 80	_____
第21年 昭62年	小笠原 広 文 39" 77	_____	村 崎 匡 裕 2' 13" 40	小笠原 広 文 4' 34" 89	_____
第22年 昭63年	村 崎 匡 裕 40" 21	_____	村 崎 匡 裕 2' 11" 11	小笠原 広 文 4' 31" 26	_____
第23回 平 1 年	戸 田 金 作 39" 58	村 崎 匡 裕 1' 21" 25	大 西 友 則 2' 09" 62	竹 内 洋 介 4' 31" 45	_____
第24回 平 2 年	戸 田 金 作 40" 39	戸 田 金 作 1' 22" 32	鈴 木 孝 俊 2' 12" 42	西 館 誠 4' 38" 06	_____
第25回 平 3 年	河 村 育 麻 40" 95	鈴 木 孝 俊 1' 23" 06	後 藤 準 2' 07" 13	河原木 徳 友 4' 35" 39	_____
第26回 平 4 年	河 村 育 麻 39" 88	河 村 育 麻 1' 25" 20	後 藤 準 2' 06" 51	後 藤 準 4' 26" 27	小 芝 直 彦 7' 56" 80
第27回 平 5 年	小 林 正 憲 40" 01	蛭 名 大 1' 22" 26	菊 地 正 信 2' 07" 51	杉 山 広 明 4' 36" 82	小 芝 直 彦 7' 42" 51
第28回 平 6 年	藤ヶ森 誠 司 39" 80	志 賀 論 1' 23" 08	円 子 博 信 2' 08" 77	澤 口 一 樹 4' 15" 73	澤 口 一 樹 7' 20" 17
第29回 平 7 年	小 林 貴 之 39" 65	工 藤 範 秋 1' 20" 54	菊 地 正 信 2' 02" 98	澤 口 一 樹 4' 18" 67	大 里 崇 7' 30" 90
第30回 平 8 年	藤ヶ森 誠 司 39" 63	工 藤 範 秋 1' 21" 97	金 澤 論 2' 04" 63	大 里 崇 4' 22" 46	澤 口 一 樹 7' 15" 60
第31回 平 9 年	遠 藤 真 也 39" 72	遠 藤 真 也 1' 20" 95	坂 下 努 2' 00" 51	伊 勢 秀 一 4' 14" 40	坂 下 努 7' 33" 66
第32回 平10年	加 藤 勝 広 38" 69	加 藤 勝 広 1' 20" 00	石 岡 守 1' 58" 70	石 岡 守 4' 18" 11	小笠原 裕 太 7' 41" 28
第33回 平11年	加 藤 勝 広 38" 39	北 村 長 一 1' 19" 04	石 岡 守 1' 58" 87	澤 口 一 樹 4' 07" 54	小笠原 裕 太 7' 21" 38
第34回 平12年	西 岡 和 哉 37" 91	加 藤 勝 広 1' 17" 81	高 橋 雄 哉 1' 59" 99	澤 口 一 樹 4' 08" 37	石 岡 守 7' 21" 94
第35回 平13年	袴 田 真 吾 39" 52	松 橋 広 大 1' 19" 50	高 橋 雄 哉 2' 00" 10	伊 勢 秀 一 4' 11" 76	伊 勢 秀 一 7' 10" 50



(女子)

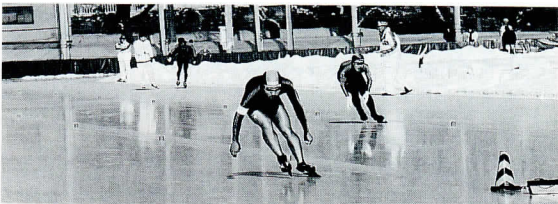
回 年度	500m	1000m	1500m	3000m
第16回 昭57年	細 越 篤 子 46" 03	細 越 篤 子 1' 35" 19	佐々木 寿 子 2' 25" 68	_____
第17回 昭58年	細 越 篤 子 44" 20	細 越 篤 子 1' 32" 30	_____	_____
第18回 昭59年	倉 内 留 美 45" 30	細 越 篤 子 1' 33" 10	小軽米 智 子 2' 25" 80	_____
第19回 昭60年	小軽米 智 子 48" 50	助 川 安芸子 1' 41" 10	小軽米 智 子 2' 27" 10	_____
第20年 昭61年	小軽米 智 子 45" 70	赤 坂 文 子 1' 39" 90	小軽米 智 子 2' 20" 10	_____
第21回 昭62年	木 村 葉 子 45" 50	樋 口 元 子 1' 36" 84	板 橋 純 子 2' 33" 18	_____
第22回 昭63年	小野寺 恭 子 46" 38	佐々木 直 子 1' 35" 37	橋 本 曜 2' 36" 26	_____
第23回 平 1 年	山 下 博 恵 46" 27	小野寺 郁 子 1' 34" 68	小野寺 郁 子 2' 27" 98	_____
第24回 平 2 年	小野寺 郁 子 46" 54	小野寺 郁 子 1' 33" 22	沼 館 章 子 2' 31" 29	_____
第25回 平 3 年	小野寺 郁 子 45" 02	小野寺 郁 子 1' 33" 63	沼 館 章 子 2' 31" 52	_____
第26回 平 4 年	大久保 歌 澄 46" 80	村 崎 衣 代 1' 36" 88	沼 館 章 子 2' 26" 30	沼 館 章 子 5' 06" 01
第27回 平 5 年	大久保 歌 澄 44" 91	大久保 歌 澄 1' 35" 89	沼 館 章 子 2' 22" 18	成 田 亜 希 5' 04" 73
第28回 平 6 年	川 尻 貴 子 45" 89	川 尻 貴 子 1' 34" 42	成 田 亜 希 2' 20" 15	成 田 亜 希 4' 52" 08
第29回 平 7 年	川 尻 貴 子 44" 22	川 尻 貴 子 1' 30" 82	岡 田 久美子 2' 24" 84	鈴 木 めぐみ 4' 59" 88
第30回 平 8 年	川 尻 貴 子 44" 38	吉 田 真由美 1' 32" 32	浜 中 喜 子 2' 15" 73	栗 原 しのぶ 4' 50" 03
第31回 平 9 年	慶 長 文 子 45" 16	浜 中 喜 子 1' 29" 82	川 尻 貴 子 2' 11" 90	小笠原 慶 子 4' 53" 51
第32年 平10年	慶 長 文 子 45" 82	川 尻 貴 子 1' 29" 75	川 尻 貴 子 2' 16" 57	浜 中 喜 子 4' 52" 90
第33回 平11年	大 里 聡 子 47" 66	吉 田 望 1' 33" 25	浜 中 喜 子 2' 12" 77	浜 中 喜 子 4' 31" 16
第34回 平12年	吉 田 望 46" 64	大 里 聡 子 1' 33" 28	浜 中 喜 子 2' 15" 77	浜 中 喜 子 4' 40" 39
第35回 平13年	遠 藤 奈々子 46" 80	日ヶ久保麻衣子 1' 32" 51	根 城 七 恵 2' 21" 14	根 城 七 恵 4' 49" 16

青森県スピードスケートスプリント選手権歴代優勝者

SPEED

(男子)

回 年度	優 勝 者 所 属	得点	一 日 目		二 日 目	
			500m	1000m	500m	1000m
第9回 昭57年	田名部 正 人 (根城中教員)	162.350	田名部 正 人 40" 60	田名部 正 人 1' 21" 00	田名部 正 人 40" 50	田名部 正 人 1' 21" 50
第10回 昭58年	田名部 正 人 (根城中教員)	162.750	田名部 正 人 40" 60	田名部 正 人 1' 20" 80	田名部 正 人 40" 70	田名部 正 人 1' 22" 10
第11回 昭59年	田名部 正 人 (根城中教員)	160.600	田名部 正 人 40" 20	田名部 正 人 1' 20" 20	田名部 正 人 40" 00	田名部 正 人 1' 20" 60
第12回 昭60年	田名部 正 人 (根城中教員)	162.350	田名部 正 人 松 田 40" 70 仁	田名部 正 人 1' 20" 70	田名部 正 人 40" 50	田名部 正 人 1' 21" 60
第13回 昭61年	田名部 正 人 (根城中教員)	162.465	田名部 正 人 40" 71	田名部 正 人 1' 21" 08	田名部 正 人 40" 43	田名部 正 人 1' 21" 57
第14回 昭62年	小笠原 広 文 (光 星 高)	159.315	佐 藤 一 也 39" 75	小笠原 広 文 1' 19" 43	佐 藤 一 也 39" 75	小笠原 広 文 1' 19" 34
第15回 昭63年	小笠原 広 文 (吉 田 産 業)	161.905	佐 藤 一 也 39" 97	小笠原 広 文 1' 20" 61	佐 藤 一 也 40" 04	小笠原 広 文 1' 20" 96
第16回 平 1 年	戸 田 金 作 (吉 田 産 業)	160.095	戸 田 金 作 39" 46	村 崎 匡 裕 1' 20" 22	戸 田 金 作 39" 35	村 崎 匡 裕 1' 20" 64
第17回 平 2 年	後 村 文 範 (光 星 高)	159.965	後 村 文 範 39" 16	小笠原 広 文 1' 20" 29	後 村 文 範 39" 14	小笠原 文 範 1' 20" 04
第18回 平 3 年	後 藤 準 (八 西 高)	163.195	小 林 正 憲 40" 20	後 藤 準 1' 22" 20	後 藤 準 40" 21	後 藤 準 1' 21" 75
第19回 平 4 年	菊 地 正 信 (吉 田 産 業)	160.880	小 林 正 憲 40" 09	後 藤 準 1' 19" 83	河 村 育 麻 39" 68	後 藤 準 1' 19" 78
第20回 平 5 年	蛭 名 大 (八 西 高)	163.790	小 林 貴 之 40" 37	蛭 名 大 1' 22" 29	小 林 貴 之 40" 27	蛭 名 大 1' 21" 75
第21回 平 6 年	澤 口 一 樹 (サ ン デ ー)	160.750	藤ヶ森 誠 司 39" 69	澤 口 一 樹 1' 20" 33	菊 地 正 信 39" 61	澤 口 一 樹 1' 20" 15
第22回 平 7 年	澤 口 一 樹 (サ ン デ ー)	160.495	工 藤 範 秋 39" 61	澤 口 一 樹 1' 19" 71	藤ヶ森 誠 司 39" 40	澤 口 一 樹 1' 20" 14
第23回 平 8 年	藤ヶ森 誠 司 (八 商 高)	157.760	藤ヶ森 誠 司 38" 52	澤 口 一 樹 1' 19" 13	藤ヶ森 誠 司 38" 64	澤 口 一 樹 1' 19" 95
第24回 平 9 年	石 岡 守 (吉 田 産 業)	155.295	遠 藤 真 也 39" 53	石 岡 守 1' 17" 34	石 岡 守 38" 60	石 岡 守 1' 16" 47
第25回 平10年	加 藤 勝 広 (吉 田 産 業)	155.880	加 藤 勝 広 39" 07	加 藤 勝 広 1' 18" 26	遠 藤 真 也 38" 36	遠 藤 真 也 1' 16" 72
第26回 平11年	加 藤 勝 広 (吉 田 産 業)	153.815	加 藤 勝 広 37" 74	加 藤 勝 広 1' 16" 35	加 藤 勝 広 38" 28	加 藤 勝 広 1' 19" 24
第27回 平12年	西 岡 和 哉 (吉 田 産 業)	150.025	西 岡 和 哉 37" 59	西 岡 和 哉 1' 14" 50	西 岡 和 哉 37" 65	西 岡 和 哉 1' 15" 07
第28回 平13年	西 岡 和 哉 (吉 田 産 業)	151.595	西 岡 和 哉 37" 28	西 岡 和 哉 1' 16" 75	西 岡 和 哉 37" 82	西 岡 和 哉 1' 16" 24



(女子)

回 年度	優 勝 者 所 属	得点	一 日 目		二 日 目	
			500m	1000m	500m	1000m
第9回 昭57年	細 越 篤 子 (三八五貨物)	184.050	細 越 篤 子 45" 60	細 越 篤 子 1' 33" 20	細 越 篤 子 45" 40	細 越 篤 子 1' 32" 90
第10回 昭58年	細 越 篤 子 (三八五貨物)	179.550	細 越 篤 子 44" 40	細 越 篤 子 1' 29" 90	細 越 篤 子 44" 50	細 越 篤 子 1' 31" 40
第11回 昭59年	細 越 篤 子 (三八五貨物)	184.150	細 越 篤 子 45" 20	小軽米 智 子 1' 33" 30	倉 内 留 美 45" 20	小軽米 智 子 1' 33" 30
第12回 昭60年	小軽米 智 子 (八 西 高)	187.100	小軽米 智 子 46" 50	小軽米 智 子 1' 33" 80	小軽米 智 子 46" 60	樋 口 元 子 1' 34" 10
第13回 昭61年	小軽米 智 子 (八 西 高)	182.320	小軽米 智 子 45" 40	小軽米 智 子 1' 31" 54	小軽米 智 子 45" 50	小軽米 智 子 1' 31" 31
第14回 昭62年	樋 口 元 子 (八 高)	188.245	木 村 素 子 45" 64	樋 口 元 子 1' 35" 74	木 村 素 子 45" 83	板 橋 純 子 1' 33" 65
第15回 昭63年	佐々木 直 子 (光 星 高)	190.485	小野寺 恭 子 46" 49	佐々木 直 子 1' 37" 18	小野寺 恭 子 46" 97	佐々木 直 子 1' 36" 09
第16回 平 1 年	佐々木 直 子 (光 星 高)	185.865	佐々木 直 子 45" 86	佐々木 直 子 1' 32" 86	佐々木 直 子 46" 13	佐々木 直 子 1' 34" 89
昭17回 平 2 年	橋 本 曜 (八 東 高)	181.545	橋 本 曜 44" 79	相 坂 美香子 1' 31" 44	橋 本 曜 43" 79	相 坂 美香子 1' 32" 61
第18回 平 3 年	小野寺 郁 子 (八 東 高)	182.820	小野寺 郁 子 44" 86	小野寺 郁 子 1' 32" 60	小野寺 郁 子 45" 18	小野寺 郁 子 1' 32" 96
第19回 平 4 年	沼 館 章 子 (光星高)	183.740	大久保 歌 澄 44" 93	沼 館 章 子 1' 30" 77	沼 館 章 子 45" 10	沼 館 章 子 1' 35" 91
第20回 平 5 年	大久保 歌 澄 (八 高)	183.600	大久保 歌 澄 44" 95	大久保 歌 澄 1' 34" 13	大久保 歌 澄 45" 37	沼 館 章 子 1' 32" 42
第21回 平 6 年	成 田 亜 希 (光 星 高)	180.315	成 田 亜 希 45" 12	成 田 亜 希 1' 30" 81	成 田 亜 希 43" 86	成 田 亜 希 1' 31" 86
第22回 平 7 年	川 尻 貴 子 (光 星 高)	180.670	吉 田 真由美 44" 23	川 尻 貴 子 1' 29" 23	川 尻 貴 子 45" 04	川 尻 貴 子 1' 32" 27
第23回 平 8 年	川 尻 貴 子 (サ ン デ ー)	177.990	慶 長 文 子 44" 16	川 尻 貴 子 1' 28" 14	川 尻 貴 子 44" 17	川 尻 貴 子 1' 30" 76
第24回 平 9 年	川 尻 貴 子 (サ ン デ ー)	176.185	川 尻 貴 子 44" 19	川 尻 貴 子 1' 29" 00	川 尻 貴 子 43" 81	川 尻 貴 子 1' 27" 37
第25回 平10年	沼 端 瞳 (光 星 高)	182.995	沼 端 瞳 45" 26	沼 端 瞳 1' 32" 40	沼 端 瞳 45" 11	柏 崎 友 美 1' 32" 65
第26回 平11年	浜 中 喜 子 (八 戸 市 庁)	180.105	浜 中 喜 子 44" 67	浜 中 喜 子 1' 29" 72	浜 中 喜 子 45" 56	浜 中 喜 子 1' 30" 03
第27回 平12年	根 城 七 恵 (八 商 高)	184.605	根 城 七 恵 46" 87	大 里 聡 子 1' 31" 88	吉 田 望 45" 85	根 城 七 恵 1' 31" 32
第28回 平13年	根 城 七 恵 (八 商 高)	181.475	遠 藤 奈々子 45" 96	根 城 七 恵 1' 30" 70	遠 藤 奈々子 45" 41	根 城 七 恵 1' 29" 51

青森県高校スケート競技選手権大会種目優勝者

SPEED

(男子)

回 年度	500m	1000m	1500m	5000m	10000m
第35回 昭57年	江 渡 昭 41" 40	————	田 口 俊 彦 2' 11" 20	成 田 博 一 7' 53" 30	成 田 博 一 16' 16" 00
第36回 昭58年	沼 沢 博 文 41" 20	————	藤 本 亮 2' 08" 10	百 目 木 仁 7' 49" 20	馬 場 大 和 16' 02" 40
第37回 昭59年	夏 堀 尚 治 40" 20	————	藤 本 亮 2' 07" 90	下 村 信 也 7' 38" 70	下 村 信 也 15' 42" 50
第38回 昭60年	留 目 雅 明 41" 50	————	松 田 仁 2' 09" 50	松 田 仁 8' 09" 50	佐々木 遵 16' 34" 90
第39回 昭61年	松 田 仁 41" 10	————	松 田 仁 2' 07" 00	小笠原 広 文 7' 37" 80	小笠原 広 文 15' 55" 20
第40回 昭62年	佐 藤 一 也 40" 36	————	松 本 徹 2' 06" 90	小笠原 広 文 7' 41" 72	工 藤 和 弘 16' 11" 70
第41回 昭63年	村 崎 匡 裕 40" 27	————	出 町 正 明 2' 10" 60	大 西 友 則 8' 12" 86	大 西 友 則 16' 29" 75
第42回 平 1 年	浜 道 隆 寛 39" 69	村 崎 匡 裕 1' 21" 93	小 林 貴 之 2' 10" 93	竹 内 洋 介 7' 47" 03	竹 内 洋 介 16' 31" 13
第43回 平 2 年	後 村 文 範 39" 17	後 村 文 範 1' 21" 68	小 林 貴 之 2' 11" 39	河原木 徳 友 7' 48" 81	河原木 徳 友 16' 13" 93
第44回 平 3 年	河 村 育 麻 39" 73	河 村 育 麻 1' 23" 38	後 藤 準 2' 05" 88	河原木 徳 友 7' 43" 69	河原木 徳 友 16' 09" 62
第45回 平 4 年	河 村 育 麻 39" 99	蛭 名 大 1' 22" 43	後 藤 準 2' 03" 40	後 藤 準 7' 38" 67	杉 山 広 明 16' 06" 33
第46回 平 5 回	若 林 誠 之 40" 62	蛭 名 大 1' 23" 38	蛭 名 大 2' 10" 39	堀 川 大 志 7' 52" 69	小 芝 直 彦 16' 13" 03
第47回 平 6 年	若 林 誠 之 39" 66	工 藤 範 秋 1' 23" 72	工 藤 範 秋 2' 07" 00	大 里 崇 7' 40" 59	大 里 崇 15' 51" 69
第48回 平 7 年	遠 藤 真 也 40" 31	工 藤 範 秋 1' 20" 95	工 藤 範 秋 2' 03" 79	伊 勢 俊 一 7' 37" 87	伊 勢 秀 一 15' 34" 10
第49回 平 8 年	遠 藤 真 也 40' 48	工 藤 範 秋 1' 21" 19	金 沢 論 2' 04" 95	伊 勢 秀 一 7' 34" 37	伊 勢 秀 一 15' 28" 70
第50回 平 9 年	遠 藤 真 也 39" 45	遠 藤 真 也 1' 19" 49	佐 藤 精 二 2' 03" 74	袴 田 憲 司 7' 25" 55	袴 田 憲 司 15' 18" 24
第51回 平10年	山 村 知 弘 38" 23	山 村 知 弘 1' 20" 52	坂 下 努 2' 00" 83	小笠原 裕 太 7' 41" 83	小笠原 裕 太 15' 19" 42
第52回 平11年	袴 田 真 吾 41" 07	高 橋 雄 哉 1' 21" 36	高 橋 雄 哉 2' 08" 58	村 崎 高 夫 7' 23" 70	東 健太郎 15' 47" 05
第53回 平12年	松 橋 広 大 40" 42	佐 藤 鉄 也 1' 20" 48	高 橋 雄 哉 2' 02" 10	東 健太郎 7' 18" 19	東 健太郎 15' 37" 39
第54回 平13年	松 橋 広 大 39" 10	松 尾 和 明 1' 20" 70	高 橋 雄 哉 2' 00" 78	高 橋 雄 哉 7' 37" 31	藤ヶ森 一 輝 15' 22" 61



(女子)

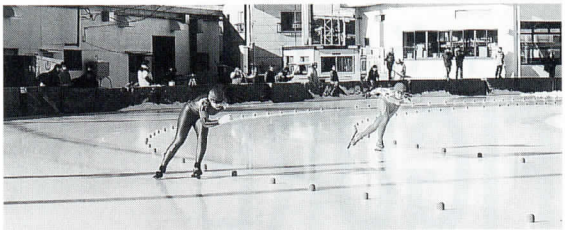
回 年度	500m	1000m	1500m	3000m
第35回 昭57年	倉 内 留 美 46" 30	沢 向 美 幸 1' 38" 50	市 沢 千賀子 2' 26" 40	佐々木 寿 子 5' 03" 90
第36回 昭58年	倉 内 留 美 45" 00	倉 内 留 美 1' 33" 11	佐々木 寿 子 2' 23" 70	佐々木 寿 子 4' 48" 30
第37回 昭59年	倉 内 留 美 45" 50	倉 内 留 美 1' 34" 50	小軽米 智 子 2' 23" 80	小軽米 智 子 4' 58" 10
第38回 昭60年	助 川 安芸子 47" 90	助 川 安芸子 1' 37" 30	樋 口 元 子 2' 27" 10	小軽米 智 子 5' 04" 90
第39回 昭61年	小野寺 恭 子 46" 40	小野寺 恭 子 1' 36" 11	小軽米 智 子 2' 23" 60	小軽米 智 子 4' 57" 80
第40回 昭62年	小野寺 恭 子 45" 11	小野寺 恭 子 1' 34" 35	樋 口 元 子 2' 23" 14	樋 口 元 子 5' 15" 53
第41回 昭63年	小野寺 恭 子 46" 07	小野寺 恭 子 1' 37" 38	板 橋 純 子 2' 31" 60	板 橋 純 子 5' 25" 42
第42回 平 1 年	相 坂 美香子 46" 29	小野寺 郁 子 1' 33" 76	佐々木 直 子 2' 23" 63	佐々木 直 子 5' 07" 26
第43回 平 2 年	橋 本 曜 45" 99	相 坂 美香子 1' 33" 02	小野寺 郁 子 2' 24" 18	沼 館 章 子 5' 04" 51
第44回 平 3 年	小野寺 郁 子 44" 48	小野寺 恭 子 1' 31" 50	沼 館 章 子 2' 25" 18	河原木 美恵子 5' 16" 29
第45回 平 4 年	大久保 歌 澄 46" 34	大久保 歌 澄 1' 32" 72	沼 館 章 子 2' 23" 91	沼 館 章 子 5' 05" 94
第46回 平 5 年	大久保 歌 澄 45" 71	大久保 歌 澄 1' 33" 64	成 田 亜 希 2' 26" 33	成 田 亜 希 5' 06" 92
第47回 平 6 年	大久保 歌 澄 44" 16	川 尻 貴 子 1' 31" 04	成 田 亜 希 2' 22" 80	成 田 亜 希 4' 55" 42
第48回 平 7 年	川 尻 貴 子 44" 65	川 尻 貴 子 1' 29" 88	栗 林 しのぶ 2' 25" 53	鈴 木 めぐみ 5' 00" 66
第49回 平 8 年	吉 田 真由美 45' 97	吉 田 真由美 1' 31" 01	浜 中 喜 子 2' 21" 97	浜 中 喜 子 4' 55" 08
第50回 平 9 年	慶 長 文 子 45" 14	慶 長 文 子 1' 34" 39	浜 中 喜 子 2' 14" 72	浜 中 喜 子 4' 47" 66
第51回 平10年	沼 端 瞳 46" 01	柏 崎 友 美 1' 36" 07	浜 中 喜 子 2' 12" 25	浜 中 喜 子 4' 52" 23
第52回 平11年	松 倉 泉 47" 43	吉 田 望 1' 36" 06	根 城 七 恵 2' 25" 88	根 城 七 恵 4' 52" 01
第53回 平12年	大 里 聡 子 46" 78	日ヶ久保麻衣子 1' 34" 38	根 城 七 恵 2' 21" 08	根 城 七 恵 4' 54" 03
第54回 平13年	遠 藤 奈々子 47" 13	日ヶ久保麻衣子 1' 35" 78	根 城 七 恵 2' 19" 69	根 城 七 恵 5' 01" 03

青森県ショートトラックスピード選手権歴代優勝者

SPEED

(男子)

回 年度	優 勝 者 所 属	得点	500m	1000m	1500m	3000m
第1回 平3年	河原木 徳 友 (八 西 高)	30	河 村 育 麻 54" 09	河原木 徳 友 1' 48" 49	河原木 徳 友 2' 48" 84	河原木 徳 友 5' 44" 35
第2回 平4年	下 村 隆 史 (山梨学院大)	36	下 村 隆 史 51" 52	下 村 隆 史 1' 49" 57	下 村 隆 史 2' 45" 11	下 村 隆 史 5' 46" 74
第3回 平5年	河原木 徳 友 (法 大)	26	蛭 名 大 1' 02" 38	下 村 隆 史 1' 43" 87	下 村 隆 史 2' 45" 70	菊 地 正 信 5' 32" 50
第4回 平6年	坂 下 努 (明 治 中)	34	坂 下 努 52" 59	小屋敷 健 一 1' 50" 43	坂 下 努 2' 42" 43	坂 下 努 5' 44" 22
第5回 平7年	坂 下 努 (明 治 中)	32	遠 藤 真 也 52" 79	金 沢 諭 1' 47" 47	坂 下 努 2' 46" 36	坂 下 努 5' 34" 74
第6回 平8年	遠 藤 真 也 (八 商 高)	30	遠 藤 真 也 54" 12	金 沢 諭 2' 16" 56	遠 藤 真 也 2' 45" 55	十文字 秀 敏 5' 44" 11
第7回 平9年	坂 下 努 (八 商 高)	36	坂 下 努 56" 33	坂 下 努 1' 45" 08	坂 下 努 2' 45" 00	坂 下 努 5' 41" 65
第8回 平10年	杉 本 太 一 (明 治 中)	20	杉 本 太 一 54" 16	杉 本 太 一 1' 51" 85	杉 本 太 一 2' 51" 69	杉 本 太 一 6' 09" 95
第9回 平11年	杉 本 太 一 (明 治 中)	20	杉 本 太 一 52" 79	杉 本 太 一 1' 46" 44	杉 本 太 一 2' 44" 12	杉 本 太 一 5' 44" 44
第10回 平12年	渡 辺 真 規 (東 北 ク)	123	中 原 康 仁 48" 72	渡 辺 真 規 1' 39" 99	渡 辺 真 規 2' 34" 64	渡 辺 真 規 5' 27" 80
第11回 平13年	中 原 康 仁 (八 高)	123	中 原 康 仁 48" 00	中 原 康 仁 1' 39" 03	下 村 将 嘉 2' 37" 78	中 原 康 仁 5' 24" 61



(女子)

回 年度	優 勝 者 所 属	得点	500m	1000m	1500m	3000m
第1回 平3年	田 畑 佐知子 (東 女 体 大)	32	田 畑 佐知子 59" 45	田 畑 佐知子 1' 58" 66	田 畑 佐知子 3' 07" 16	田 畑 佐知子 6' 26" 26
第2回 平4年	田 畑 佐知子 (東 女 体 大)	29	船 場 靖 子 1' 00" 34	田 畑 佐知子 2' 02" 97	田 畑 佐知子 3' 09" 69	河原木 美恵子 6' 20" 61
第3回 平5年	河原木 美恵子 (八 高)	36	河原木 美恵子 57" 27	河原木 美恵子 1' 55" 27	河原木 美恵子 2' 54" 17	河原木 美恵子 6' 07" 81
第4回 平6年	浜 中 喜 子 (根 城 中)	36	浜 中 喜 子 57" 70	浜 中 喜 子 2' 00" 44	浜 中 喜 子 3' 00" 55	浜 中 喜 子 6' 21" 23
第5回 平7年	相 坂 美香子 (東 女 体 大)	34	相 坂 美香子 54" 50	相 坂 美香子 1' 51" 29	相 坂 美香子 2' 54" 25	浜 中 喜 子 5' 58" 33
第6回 平8年	浜 中 喜 子 (根 城 中)	36	浜 中 喜 子 53" 70	浜 中 喜 子 1' 49" 12	浜 中 喜 子 2' 44" 81	浜 中 喜 子 5' 47" 88
第7回 平9年	松 倉 泉 (是 川 中)	36	松 倉 泉 1' 06" 03	松 倉 泉 1' 56" 73	松 倉 泉 3' 02" 78	松 倉 泉 6' 21" 04
第8回 平10年	松 倉 泉 (是 川 中)	20	松 倉 泉 55" 59	松 倉 泉 1' 53" 57	松 倉 泉 2' 55" 55	松 倉 泉 6' 04" 79
第9回 平11年	松 倉 泉 (是 川 中)	20	松 倉 泉 54" 40	松 倉 泉 1' 50" 36	松 倉 泉 2' 53" 09	松 倉 泉 5' 52" 60
第10回 平12年	松 倉 泉 (八 北 高)	123	松 倉 泉 55" 42	松 倉 泉 1' 50" 46	松 倉 泉 2' 55" 50	小笠原 慶 子 5' 54" 96
第11回 平13年	松 倉 泉 (八 北 高)	136	松 倉 泉 51" 60	松 倉 泉 1' 45" 66	松 倉 泉 2' 45" 67	松 倉 泉 6' 01" 56



フィギュア
FIGURE

国際大会 出場記録

年 度	大 会 名	順 位	氏 名
平成元年度	'89NHK杯国際競技大会	男子 10位	村 田 光 弘
平成2年度	'90NHK杯国際競技大会	男子 10位	村 田 光 弘
平成3年度	'91世界選手権 (レークプラシッド)	男子 23位	村 田 光 弘
平成3年度	'91第16回冬季オリンピック大会 (アルベールビル)	男子 23位	村 田 光 弘
平成8年度	トリグラフトロフィー (スロベニア)	ノービスB 1位	佐々木 亮 輔
平成9年度	トリグラフトロフィー (スロベニア)	ノービスA 3位	浪 岡 秀
平成9年度	トリグラフトロフィー (スロベニア)	ノービスA 4位	佐々木 亮 輔
平成9年度	'97スケートカナダ (ハリファックス)	男子 4位	田 村 岳 斗
平成9年度	'97NHK杯国際競技大会 (長野)	男子 10位	田 村 岳 斗
平成9年度	第18回冬季オリンピック (長野)	男子 17位	田 村 岳 斗
平成10年度	'98スケートアメリカ (デトロイト)	男子 8位	田 村 岳 斗
平成10年度	'98NHK杯国際競技大会 (札幌)	男子 9位	田 村 岳 斗
平成10年度	'98北京国際フィギュアスケートジュニア選手権大会	ペア 8位	小笠原 牧 子雄 小笠原 健 雄
平成11年度	'99NHK杯国際競技大会 (名古屋)	男子 7位	田 村 岳 斗
平成12年度	'00NHK杯国際競技大会 (旭川)	男子 9位	田 村 岳 斗
平成12年度	'01第24回四大大陸フィギュアスケート選手権大会 (大阪)	男子 8位	田 村 岳 斗
平成13年度	'01第25回四大大陸フィギュアスケート選手大会 (ソルトレークシティ)	男子 6位	田 村 岳 斗
平成13年度	'01世界選手権大会 (バンクーバー)	男子 17位	田 村 岳 斗
平成13年度	'01 ISUジュニアグランプリフィギュアスケート国際大会 (長野)	アイスダンス 9位	坂 頂 みなみ也 坂 頂 達 也



フィギュア
FIGURE

国内大会 (日本スケート連盟主催)

年 度	大 会 名	順 位	氏 名
昭和62年度	第56回全日本フィギュアスケート選手権大会	男子 6位	村 田 光 弘
昭和63年度	第57回全日本フィギュアスケート選手権大会	2位	村 田 光 弘
平成元年度	第58回全日本フィギュアスケート選手権大会	3位	村 田 光 弘
平成2年度	第59回全日本フィギュアスケート選手権大会	2位	村 田 光 弘
平成3年度	東北・北海道フィギュアスケート選手権大会	ジュニア男子 2位	高 橋 稔 大
平成3年度	東北・北海道フィギュアスケート選手権大会	3位	若 林 弘 章
平成3年度	東北・北海道フィギュアスケート選手権大会	シニア女子 2位	松 橋 由香子
平成3年度	東北・北海道フィギュアスケート選手権大会	3位	北 村 葉 子
平成4年度	第61回全日本フィギュアスケート選手権大会	アイスダンス 5位	田 中 けい子 小笠原 博文
平成4年度	第18回東日本フィギュアスケート選手権大会	ジュニア男子 8位	高 橋 稔 大
平成5年度	第19回東日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	男子 4位	高 橋 稔 大
平成7年度	第1回JOC.ジュニアオリンピックカップフィギュアスケート選手権大会	男子ノービスA 2位	佐々木 亮 輔
平成7年度	全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	男子 2位	田 村 岳 斗
平成8年度	第2回JOC.ジュニアオリンピックカップフィギュアスケート選手権大会	男子ノービスA 1位	浪 岡 秀
平成8年度	第2回JOC.ジュニアオリンピックカップフィギュアスケート選手権大会	男子ノービスA 2位	佐々木 亮 輔
平成8年度	東北・北海道フィギュアスケート選手権大会	シニア男子 2位	高 橋 稔 大
平成8年度	全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	男子 1位	田 村 岳 斗
平成8年度	第65回全日本フィギュアスケート選手権大会	男子 2位	田 村 岳 斗
平成8年度	第65回全日本フィギュアスケート選手権大会	ペア 1位	新 井 万里絵 田 村 岳 斗
平成8年度	第65回全日本フィギュアスケート選手権大会	ペア 2位	小笠原 牧 子雄 小笠原 健 雄
平成8年度	第65回全日本フィギュアスケート選手権大会	ペア 3位	木 村 貴 子一 見 世 健
平成9年度	第66回全日本フィギュアスケート選手権大会	男子 1位	田 村 岳 斗
平成10年度	第67回全日本フィギュアスケート選手権大会	男子 3位	田 村 岳 斗
平成10年度	第24回東日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	男子 2位	佐々木 亮 輔
平成10年度	全日本フィギュアスケートジュニア選手権	ペア 1位	小笠原 牧 子雄 小笠原 健 雄
平成11年度	第68回全日本フィギュアスケート選手権大会	男子 2位	田 村 岳 斗
平成11年度	第68回全日本フィギュアスケート選手権大会	ペア 1位	小笠原 牧 子雄 小笠原 健 雄
平成12年度	第69回全日本フィギュアスケート選手権大会	ペア 1位	小笠原 牧 子雄 小笠原 健 雄
平成12年度	全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	アイスダンス 1位	坂 頂 みなみ也 坂 頂 達 也
平成13年度	全日本フィギュアスケートジュニア選手権大会	アイスダンス 1位	坂 頂 みなみ也 坂 頂 達 也
平成13年度	第70回全日本フィギュアスケート選手権大会	ペア 2位	小笠原 牧 子雄 小笠原 健 雄

フィギュア
FIGURE

国体冬季大会 女子

回	年 度	少年女子			成年女子		
26	昭和45年度	38位岩崎百合子	40位工藤 賀子				
27	昭和46年度	45位伊倉 紀子	48位工藤 賀子	50位岩崎百合子			
28	昭和47年度	C22位 F30位 伊倉 紀子	52位前田 博子				
29	昭和48年度	44位前田 博子	45位小坂 春代				
30	昭和49年度	30位小坂 春代	34位小笠原雅子				
31	昭和50年度	26位小笠原雅子	31位小坂 春代				
32	昭和51年度	26位佐々木継子	30位石橋 路子		13位小笠原雅子	25位小坂 春代	
33	昭和52年度	32位佐々木誠子	40位津久家寿子		16位小笠原雅子	21位石橋 路子	
34	昭和53年度	42位津久家寿子			12位小笠原雅子		
35	昭和54年度	35位月館 聖子			19位小笠原雅子	45位高橋奈緒子	
36	昭和55年度	30位月館 聖子	45位下館由理佳				
37	昭和56年度	50位月館 聖子	52位下館由理佳				
38	昭和57年度	38位高橋亜紀子	47位北村菜穂子		21位月館 聖子		
39	昭和58年度	16位柳沢美智子	24位大隈ちはる		31位月館 聖子		
40	昭和59年度	10位松沢 妙子	12位柳沢美智子		18位月館 聖子		
41	昭和60年度	12位松沢 妙子	14位柳沢美智子		35位北村菜穂子		
42	昭和61年度	15位関川 幸子	16位松沢 妙子		8 位柳沢美智子	17位大隅ちはる	(団体 3 位)
43	昭和62年度	23位山本まゆみ	35位山本 佳子		4 位柳沢美智子	10位松沢 妙子	(団体 3 位)
44	昭和63年度	14位松橋由香子	34位山本 佳子		6 位関川 幸子	9 位大隅ちはる	(団体 3 位)
45	平成元年度	12位松橋由香子	14位松橋 明美		13位関川 幸子	19位大隅ちはる	
46	平成 2 年度	14位松橋 明美	24位北村 葉子		12位関川 幸子		
47	平成 3 年度	32位北村 葉子	33位高橋 裕佳		11位松橋由香子	29位松橋 明美	
48	平成 4 年度	16位山本 夢子	22位高橋 裕佳		15位松橋 明美	32位松橋由香子	
49	平成 5 年度	12位若林 恭葉	47位山本 夢子		13位松橋由香子	18位北村 葉子	(団体 6 位)
50	平成 6 年度	19位若林 恭葉	20位山本 夢子		41位松橋由香子		
51	平成 7 年度	28位若林 恭葉	33位渡辺 恵野		9 位北村 葉子	21位橋本あつ子	(団体 7 位)
52	平成 8 年度	22位渡辺 恵野	54位向谷地美香子		28位橋本あつ子	36位若林 恭葉	
53	平成 9 年度	22位渡辺 恵野	31位木村 貴子		20位向谷地美香子	29位橋本あつ子	
54	平成10年度	25位木村 貴子	31位松尾 裕江		20位渡辺 恵野	31位若林 恭葉	
55	平成11年度	19位木村 貴子	33位小笠原牧子		18位渡辺 恵野	40位若林 恭葉	
56	平成12年度	13位木村 貴子	23位小笠原牧子		渡辺 恵野	若林 恭葉	(予選 9 位落選)
57	平成13年度	21位小笠原牧子	32位松本 幸絵		17位木村 貴子	23位渡辺 恵野	



男子

回	年 度	少年男子			成年男子		
40	昭和59年度				49位谷川 勉		
41	昭和60年度				27位谷川 勉		
42	昭和61年度	1 位村田 光弘	22位柳沢 光志	(団体 4 位)	23位谷川 勉		
43	昭和62年度	3 位村田 光弘	19位柳沢 光志	(団体 5 位)	25位谷川 勉	44位高田 隆二	
44	昭和63年度				21位谷川 勉		
45	平成元年度	17位若林 弘章	20位小笠原博文		1 位村田 光弘	21位谷川 勉	(団体 3 位)
46	平成 2 年度	18位若林 弘章	19位松田 訓		18位小笠原博文	22位谷川 勉	(団体 8 位)
47	平成 3 年度	14位若林 弘章	24位高橋 貴則	(団体 8 位)			
48	平成 4 年度	8 位高橋 稔大	13位小笠原健雄	(団体 4 位)	17位高橋 貴則		
49	平成 5 年度	7 位高橋 稔大	14位小笠原健雄	(団体 5 位)	15位若林 弘章	19位高橋 貴則	(団体 7 位)
50	平成 6 年度	14位小笠原健雄	19位見世 健一	(団体 7 位)	9 位若林 弘章	15位高橋 貴則	(団体 5 位)
51	平成 7 年度	11位小笠原健雄	18位見世 健一	(団体 7 位)	10位高橋 貴則	18位高橋 稔大	(団体 7 位)
52	平成 8 年度	22位見世 健一			7 位高橋 稔大		
53	平成 9 年度	22位坂頂 達也			15位小笠原健雄	17位高橋 稔大	(団体 8 位)
54	平成10年度	10位浪岡 秀	30位坂頂 達也		16位小笠原健雄	18位高橋 稔大	(団体 8 位)
55	平成11年度	13位佐々木亮輔	20位坂頂 達也	(団体 8 位)	15位小笠原健雄	17位高橋 稔大	(団体 7 位)
56	平成12年度	22位木村 亨	27位類家 司		11位小笠原健雄	24位見世 健一	(団体 7 位)
57	平成13年度	11位木村 亨	19位浪岡 樹		棄 権		

フィギュア
FIGURE

東北大会

回	年 度	少年女子		少年男子		成年男子	成年女子
12	昭和57年度	1 位大隅ちはる	2 位山本 佳子		4 位小笠原博文		2 位月館 聖子
13	昭和58年度	1 位大隅ちはる	2 位柳沢美智子				1 位月館 聖子
14	昭和59年度	1 位松沢 妙子	2 位柳沢美智子	1 位村田 光弘	4 位若林 弘章	2 位谷川 勉	1 位月館 聖子
15	昭和60年度	1 位柳沢美智子	2 位松沢 妙子	4 位柳沢 章	5 位若林 弘章	1 位谷川 勉	4 位北村菜穂子
16	昭和61年度	1 位松沢 妙子	2 位関川 幸子	1 位村田 光弘	4 位若林 弘章	1 位谷川 勉	1 位北村菜穂子
17	昭和62年度	2 位山本 佳子	4 位高橋 裕佳	1 位村田 光弘	3 位北村 暁	1 位谷川 勉 2 位高田 隆二	
18	昭和63年度	4 位松橋由香子	7 位松橋 明美	1 位北村 暁	3 位白坂 武史	5 位谷川 勉	1 位柳沢美智子
19	平成元年度	2 位松橋由香子	5 位北村 葉子	2 位北村 暁	3 位小笠原健雄	1 位谷川 勉	
20	平成 2 年度	4 位松橋 明美	3 位北村 葉子	3 位若林 弘章	2 位田村 岳斗		
21	平成 3 年度	1 位北村 葉子	5 位小笠原陽子	2 位若林 弘章	3 位田村 岳斗		1 位松橋由香子 2 位松橋 明美
22	平成 4 年度	3 位橋本あつ子		1 位高橋 稔大	2 位若林 弘章	1 位高橋 貴則	2 位松橋由香子 3 位松橋 明美
23	平成 5 年度	1 位高橋 裕佳	5 位山本 夢子	1 位高橋 稔大	2 位小笠原健雄	1 位高橋 貴則	4 位北村 葉子 6 位松橋 明美
24	平成 6 年度	5 位高橋 裕佳		2 位田村 岳斗	3 位小笠原健雄	2 位高橋 貴則	5 位北村 葉子
25	平成 7 年度	3 位若林 恭葉	6 位木村 貴子	3 位小笠原健雄	5 位見世 健一	1 位高橋 稔大 2 位高橋 貴則	1 位北村 葉子 3 位橋本あつ子
26	平成 8 年度	3 位木村 貴子	4 位渡辺 恵野	2 位浪岡 秀	3 位見世 健一	1 位小笠原健雄 3 位高橋 稔大	4 位橋本あつ子
27	平成 9 年度	3 位木村 貴子	5 位渡辺 恵野	3 位佐々木亮輔	5 位浪岡 秀	1 位小笠原健雄 2 位高橋 稔大	4 位橋本あつ子 5 位向谷地美香子
28	平成10年度	3 位木村 貴子	4 位小笠原牧子	4 位佐々木亮輔	5 位木村 亨	1 位小笠原健雄	5 位渡辺 恵野 6 位若林 恭葉
29	平成11年度	3 位木村 貴子	4 位小笠原牧子	2 位佐々木亮輔	3 位木村 亨	1 位小笠原健雄	2 位渡辺 恵野 3 位若林 恭葉
30	平成12年度	A 3 位木村 貴子	A 4 位小笠原牧子	A 3 位木村 亨	B 2 位鈴木 達也		
31	平成13年度	A 1 位小笠原牧子	A 2 位松本 幸絵	A 2 位木村 亨	4 位浪岡 樹		3 位木村 貴子



東北中学校大会

(AはAクラス
BはBクラス
CはCクラス)

回	年 度	女 子				男 子		
4	昭和57年度	1 位松沢 妙子	2 位柳沢美智子			1 位村田 光弘		
5	昭和58年度	1 位松沢 妙子	3 位関川 幸子			1 位村田 光弘		
6	昭和59年度	2 位佐藤 光代	4 位山本 佳子			1 位村田 光弘	3 位柳沢 光志	
7	昭和60年度	2 位山本まゆみ	5 位松橋 明美			1 位小笠原博文		
8	昭和61年度	A 1 位松橋由香子	2 位松橋 明美	6 位山本まゆみ	B 1 位北村 葉子			B 2 位松田 訓
9	昭和62年度	B 2 位松橋 明美	3 位北村 葉子	4 位山本まゆみ		B 2 位若林 弘章	C 2 位松田 訓	3 位木村 匠
10	昭和63年度	B 1 位北村 葉子		C 1 位松本 早苗		B 1 位若林 弘章	C 1 位松田 訓	
11	平成元年度	B 2 位高橋 裕佳		C 1 位橋本あつ子		A 1 位若林 弘章	B 1 位高橋 稔大	2 位村井 直弥
12	平成 2 年度	B 2 位高橋 裕佳		C 1 位橋本あつ子	2 位山本 夢子	A 1 位高橋 稔大	2 位白坂 武史	B 1 位小笠原健雄
13	平成 3 年度	A 1 位山本 夢子	2 位高橋 裕佳			A 1 位高橋 稔大	2 位小笠原健雄	3 位白坂 武史
14	平成 4 年度	A 1 位山本 夢子	C 1 位小笠原陽子	2 位渡辺 恵野	3 位石橋 智恵	A 1 位田村 岳斗	2 位小笠原健雄	3 位白坂 武史
15	平成 5 年度	A 5 位小笠原陽子	C 2 位向谷地美香子	3 位工藤加奈子	5 位三本木 瞳	A 2 位田村 岳斗	B 1 位見世 健一	
16	平成 6 年度	C 1 位工藤加奈子	4 位三本木 瞳	6 位河村 和香		A 2 位田村 岳斗		
17	平成 7 年度	B 2 位木村 貴子	7 位小池真知子	8 位河村 和香	C 5 位下沢 理沙			
18	平成 8 年度	B 3 位木村 貴子	小池真知子	C 3 位佐藤 優子	4 位松尾 裕江 5 位下沢 理沙	B 1 位浪岡 秀	3 位坂頂 達也	
19	平成 9 年度	A 2 位木村 貴子	B 1 位小笠原牧子 2 位松本 幸絵	C 1 位松尾 裕江	2 位佐藤 優子 3 位柴田 祐里	A 1 位佐々木亮輔	3 位浪岡 秀	B 2 位坂頂 達也
20	平成10年度	B 2 位小笠原牧子	4 位松本 幸絵 5 位佐藤 優子	C 1 位松尾 裕江	2 位坂頂みなみ 3 位柴田 祐里	A 1 位佐々木亮輔	2 位浪岡 秀	B 1 位浪岡 樹
21	平成11年度	A 3 位小笠原牧子	B 2 位松本 幸絵	3 位坂頂みなみ	C 4 位尾形 百合	A 1 位佐々木亮輔	3 位木村 亨	
22	平成12年度	B 3 位日澤 夏希	C 3 位川守田絢子	5 位屋敷いずみ		A 1 位浪岡 樹	2 位木村 亨	B 6 位鈴木 達也
23	平成13年度	B 6 位日澤 夏希	10 位屋敷いずみ					



フィギュア
FIGURE

東北高校大会

回	女 子				男 子		
平成元年 1回							
2年 2回							
3年 3回	A 2位北村 葉子				2位若林 弘章	3位松田 訓	4位高橋 貴則
4年 4回	A 1位高橋 裕佳		C 1位小野 明子	2位松本 早苗	1位高橋 稔大	2位若林 弘章	
5年 5回	A 2位山本 夢子	5位高橋 裕佳	B 1位若林 恭葉 4位橋本あつ子	6位小野寺紀子 C 3位伊藤 房子		男A 1位高橋 稔大	2位小笠原健雄
6年 6回	A 5位若林 恭葉	B 4位小野寺紀子	C 1位檜沢 志乃	5位松野美由紀		1位小笠原健雄	3位見世 健一
7年 7回	A 7位若林 恭葉	8位山本 夢子	B 3位小笠原陽子 4位工藤加奈子	5位向谷地美香子 C 1位三本木 瞳		A 4位小笠原健雄	5位見世 健一
8年 8回	B 2位渡辺 恵野	4位向谷地美香子 5位石橋 智恵	C 3位渡辺 珠江	4位松野美由紀	A 2位見世 健一		
9年 9回	B 2位渡辺 恵野	3位石橋 智恵	4位川守田景子	5位工藤加奈子			
10年 10回	A 3位木村 貴子	B 2位小池真知子			B 2位坂頂 達也		
11年 11回	A 3位木村 貴子	B 1位佐藤 優子	C 2位松尾 裕江		A 2位浪岡 秀	B 2位坂頂 達也	3位類家 司
12年 12回	4位木村 貴子	5位小笠原牧子	B 2位佐藤 優子 3位坂頂みなみ	4位松尾 裕江 6位松本 幸絵	A 4位浪岡 秀	2位類家 司	
13年 13回	A 4位小笠原牧子	B 2位松本 幸絵	3位川守田絢子	4位松尾 裕江	A 3位木村 亨 B 2位類家 司	4位浪岡 樹 3位鈴木 達也	6位浪岡 秀

北日本フィギュアスケート競技大会

回	年 度	場 所	女 子		男 子	
12	昭和57年度	日 光	1 位 関川 幸子			
13	昭和58年度	金 ケ 崎			1 位 村田 光弘	
14	昭和59年度	金 ケ 崎	1 位 柳沢美智子	3 位 大隅ちはる		
15	昭和60年度	金 ケ 崎	1 位 松沢 妙子			
16	昭和61年度	金 ケ 崎	5 位 松橋 明美	6 位 松橋由香子	1 位 村田 光弘	
17	昭和62年度	金 ケ 崎	3 位 北村 葉子	4 位 松橋由香子		J 1 位 北村 暁
18	昭和63年度	金 ケ 崎		J 2 位 橋本あつ子		J 2 位 松田 訓
19	平成元年度	仙 台		J 2 位 若林 恭葉		J 2 位 北村 暁
20	平成2年度	山 形	3 位 山本 夢子	5 位 高橋 裕佳	1 位 若林 弘章	2 位 高橋 稔大
24	平成6年度	秋 田			1 位 小笠原健雄	
25	平成7年度	八 戸			1 位 田村 岳斗	
28	平成10年度	山 形	4 位 木村 貴子		1 位 田村 岳斗	
30	平成12年度	青 森	4 位 小笠原牧子		3 位 浪岡 秀	

全国高校スケート競技選手権大会



回	年 度	女 子			男 子		
34	昭和59年度	12位柳沢美智子					
35	昭和60年度	13位大隅ちはる	14位松沢 妙子	18位柳沢美智子	17位柳沢 光志		
		学校対抗女子 1 位光星学院高等学校					
36	昭和61年度	9 位松沢 妙子	20位山本 佳子		1 位村田 光弘	18位柳沢 光志	
					学校対抗男子 2 位八戸南高校		
37	昭和62年度	30位山本 佳子	49位庭 真由美	51位木津谷美穂子	1 位村田 光弘	22位小笠原博文	24位柳沢 光志
					学校対抗男子 2 位八戸南高校		
38	昭和63年度	A 30位松橋由香子	31位山本まゆみ	36位山本 佳子	18位小笠原博文		
		学校対抗女子 3 位八戸商業高校					
39	平成元年度	A 23位松橋 明美		B 5 位松橋由香子	4 位小笠原博文	6 位松田 訓	
40	平成2年度	A 19位北村 葉子	22位松橋 明美	29位松橋由香子	A 9 位若林 弘章	12位高橋 貴則	B 4 位松田 訓
41	平成3年度	A 19位北村 葉子			A 7 位若林 弘章	13位松田 訓	17位高橋 貴則
42	平成4年度	A 21位高橋 裕佳			A 7 位高橋 稔大	A 9 位若林 弘章	
43	平成5年度	A 10位若林 恭葉	23位高橋 裕佳	34位山本 夢子	A 6 位高橋 稔大	10位小笠原健雄	
		学校対抗女子 1 位聖ウルスラ学院高等学校					
44	平成6年度	A 18位若林 恭葉	26位高橋 裕佳	32位山本 夢子	A 10位小笠原健雄	18位見世 健一	
		学校対抗女子 2 位聖ウルスラ学院高等学校			学校対抗男子 5 位八戸工大第一高等学校		
45	平成7年度	A 22位若林 恭葉	30位山本 夢子	C 1 位工藤加奈子		A 5 位小笠原健雄	21位見世 健一
		学校対抗女子 3 位聖ウルスラ学院高等学校			学校対抗男子 3 位八戸工大第一高等学校		
46	平成8年度	B 3 位渡辺 恵野	20位向谷地美香子	25位工藤加奈子		A 19位見世 健一	
		学校対抗女子 4 位聖ウルスラ学院高等学校					
47	平成9年度	B - 1 20位工藤加奈子	21位川守田景子	B - 2 2 位渡辺 恵野	B - 2 5 位小池真知子	18位石橋 智恵	
48	平成10年度	A 35位木村 貴子	B 5 位小池真知子		B 男子 4 位坂頂 達也		
49	平成11年度	A 18位木村 貴子	B 13位佐藤 優子	C 4 位松尾 裕江 14位小池真知子	A 15位浪岡 秀	B 5 位坂頂 達也	13位類家 司
50	平成12年度	A 24位木村 貴子	B 11位松尾 裕江	13位松本 幸絵	A 2 位佐々木亮輔	B 11位類家 司	
51	平成13年度	A 12位小笠原牧子	B 4 位松本 幸絵	13位川守田絢子 17位松尾 裕江	A 18位木村 亨	20位浪岡 秀樹 25位浪岡 樹	B 1 位類家 司 10位鈴木 達也

フィギュア
FIGURE

全国中学校スケート競技大会

回	年 度	女 子				男 子		
1	昭和55年度							
2	昭和56年度	4位柳沢美智子	9位松沢 妙子	8位関川 幸子	9位庭 久美子			
3	昭和57年度			2位大隅ちはる		B 1位村田 光弘	C 3位柳沢 光志	
4	昭和58年度	3位松沢 妙子				A 1位村田 光弘	C 6位柳沢 光志	
5	昭和59年度			B 6位佐藤 光代	9位山本 佳子	A 1位村田 光弘	C 6位柳沢 光志	
6	昭和60年度			B14位山本まゆみ			C 8位小笠原博文	
7	昭和61年度			B13位山本まゆみ	25位松橋由香子			
8	昭和62年度			B 9位山本まゆみ		B 4位若林 弘章	C 5位松田 訓	
9	昭和63年度			B 9位北村 葉子		B 4位若林 弘章	C12位松田 訓	
10	平成元年度			B18位高橋 裕佳		A 4位若林 弘章	B 1位高橋 稔大	3位村井 直弥
11	平成 2 年度			B15位高橋 裕佳		A 2位高橋 稔大	11位白坂 武史	B 1位小笠原健雄
12	平成 3 年度	A 8位高橋 裕佳	9位山本 夢子			A10位白坂 武史	16位小笠原健雄	男子B 3位見世 健一
13	平成 4 年度	A 7位山本 夢子				A 4位田村 岳斗	6位小笠原健雄	8位白坂 武史
14	平成 5 年度	B38位小笠原陽子	42位渡辺 恵野	48位下村日咲絵		A 1位田村 岳斗	B 1位見世 健一	
15	平成 6 年度	B22位渡辺 恵野	26位石橋 智恵	31位下村日咲絵		A 3位田村 岳斗		
16	平成 7 年度	B10位木村 貴子	35位河村 和香	37位小池真知子				
17	平成 8 年度	B10位木村 貴子				B 1位浪岡 秀		
18	平成 9 年度	A 7位木村 貴子	B21小笠原牧子	35位松本 幸絵		A 4位佐々木亮輔	7位浪岡 秀	B11位坂頂 達也
19	平成10年度	B 9位小笠原牧子	13位松本 幸絵	28位佐藤 優子		A 4位佐々木亮輔	7位浪岡 秀	B 1位木村 亨
20	平成11年度	A11位小笠原牧子	B16位松本 幸絵	29位坂頂みなみ		A 7位佐々木亮輔	15位木村 亨	
21	平成12年度	B22位日澤 夏希				A11位木村 亨	17位浪岡 樹	B10位鈴木 達也
22	平成13年度	B12位日澤 夏希	33位尾形 百谷	45位屋敷いずみ				

白鷗ライオンズ杯
FIGURE

青森県小学生フリー大会種目優勝者



回	年 度	女子Aクラス	女子Bクラス	男子Aクラス	男子Bクラス
1	昭和51年度	高 橋 亜紀子			
2	昭和52年度	大 隅 ちはる			
3	昭和53年度	大 隅 ちはる			
4	昭和54年度	大 隅 ちはる	庭 久美子		
5	昭和55年度	村 田 光 弘	佐 藤 光 代		
6	昭和56年度	村 田 光 弘	レアナ・ナツインスキー		
7	昭和57年度	山 本 佳 子	松 橋 由香子		
8	昭和58年度	佐 藤 光 代	加 地 久 恵		
9	昭和59年度	山 本 まゆみ	佐 藤 晃 子		
10	昭和60年度	若 林 弘 章	木 村 匠	Cクラス 工 藤 真 理	
11	昭和61年度	若 林 弘 章	松 本 早 苗		
12	昭和62年度	高 橋 裕 佳	小笠原 陽 子	北 村 暁	
13	昭和63年度	高 橋 裕 佳	小野寺 紀 子	北 村 暁	
14	平成元年度	山 本 夢 子	小笠原 陽 子	北 村 暁	
15	平成 2 年度	狹 守 由 花	石 橋 智 恵	田 村 岳 斗	
16	平成 3 年度	小笠原 陽 子	下 村 日咲絵	田 村 岳 斗	
17	平成 4 年度	木 村 貴 子	小 池 真知子	浪 岡 秀	
18	平成 5 年度	木 村 貴 子	小笠原 牧 子	佐々木 亮 輔	
19	平成 6 年度	木 村 貴 子	佐 藤 優 子	浪 岡 秀	
20	平成 7 年度	佐々木 亮 輔	浪 岡 樹		
21	平成 8 年度	小笠原 牧 子	日 澤 夏 希	佐々木 亮 輔	
22	平成 9 年度		日 澤 夏 希	浪 岡 樹	Cクラス 鈴 木 達 也
23	平成10年度	日 澤 夏 希	尾 形 百 合		Bクラス 松 森 国 益
24	平成11年度	日 澤 夏 希	中 村 綾 乃	松 森 国 益	
25	平成12年度		中 村 紋 歌		Cクラス 小笠原 健 介
26	平成13年度	中 村 紋 歌	坂 本 ゆき乃	今 田 智 也	小笠原 健 介

青森県フィギュアスケート選手権大会

FIGURE

☆第1回～7回は㊶㊷㊸に分かれていたが、第8回より選手権は、A・Bクラス別となり小学生は小学生選手権へと移行し、第12回より男女別になる

青森県フィギュアスケート選手権大会

(高校の部)

(中学校の部)

回	年 度	1 位	2 位	3 位	1 位	2 位	3 位
1	昭和46年度	伊倉 紀子	岩崎百合子	工藤 賀子			
2	昭和47年度	前田 博子	田中 光子	島脇美保子	小坂 春代	村井恵美子	小笠原雅子
3	昭和48年度	小坂 春代	前田 博子	小笠原雅子	淡路 敬子	佐々木継子	石橋 裕美
4	昭和49年度	小笠原雅子	小坂 春代	高橋 雅子	佐々木継子	大石 尚江	津久家寿子
5	昭和50年度	小坂 春代	小笠原雅子	佐々木継子	津久家寿子	佐々木誠子	高橋奈緒子
6	昭和51年度	佐々木継子	大石 尚江	佐々木誠子	津久家寿子	松田 有美	月館 聖子
7	昭和52年度	津久家寿子	佐々木誠子		月館 聖子	下館由理佳	
8	昭和53年度	(シニア、3級以上) 小笠原雅子	津久家寿子		(ジュニア、1、2級) 月館 聖子	佐々木美香	大坂 明美
9	昭和54年度	(Aクラス) 月館 聖子	津久家寿子		(Bクラス) 松沢 妙子	村田 光弘	佐々木美香
10	昭和55年度	松沢 妙子	村田 光弘	大隅ちはる	庭 久美子	庭 真由美	柳沢 光志
11	昭和56年度	村田 光弘	柳沢美智子	松沢 妙子	細井 真人	松橋 明美	柳沢 光志
12	昭和57年度	1位村田 光弘(男)	1位松沢 妙子(女)		松橋由香子		
13	昭和58年度	小笠原博文 松沢 妙子	柳沢美智子	大隅ちはる	松橋 明美	山本 佳子	庭 久美子
14	昭和59年度	柳沢 光志 松沢 妙子	柳沢美智子	大隅ちはる	木津家美穂子	山本 佳子	松橋 明美
15	昭和60年度	若林 弘章 柳沢美智子	柳沢 光志 松沢 妙子	関川 幸子	松橋由香子	北村 葉子	
16	昭和61年度	村田 光弘 松沢 妙子	若林 弘章 松橋 明美	木村 匠 山本 佳子	北村 葉子	高橋 裕佳	伊藤 房子
17	昭和62年度	村田 光弘 北村 葉子	松田 訓 山本 まゆみ	白坂 武史 山本 佳子	高橋 裕佳	橋本あつ子	春日 恵
18	昭和63年度	若林 弘章 松橋由香子	北村 松橋 松橋 明美	松田 訓 高橋 裕佳	橋本あつ子	山本 夢子	若林 恭葉
19	平成元年度	若林 弘章 松橋 明美	北村 松橋 松橋由香子	高橋 北村 松橋 明美	山本 夢子	橋本あつ子	若林 恭葉
20	平成2年度	高橋 稔大 北村 葉子	田村 岳斗 松橋由香子	高橋 貴則 高橋 裕佳	山本 夢子	若林 恭葉	橋本あつ子
21	平成3年度	田村 岳斗 北村 葉子	高橋 貴則 若林 恭葉	小笠原健雄 高橋 裕佳	小野 明子	松本 早苗	武部 葉子
22	平成4年度	高橋 稔大 高橋 裕佳	田村 岳斗 山本 夢子	小笠原健雄 橋本あつ子	渡辺 恵野	石橋 智恵	木村 貴子
23	平成5年度	高橋 稔大 若林 恭葉	田村 岳斗 山本 夢子	小笠原健雄 高橋 裕佳	木村 貴子	工藤加奈子	向谷地美香子
24	平成6年度	小笠原健雄 若林 恭葉	見世 健一 山本 夢子	浪岡 秀 渡辺 恵野	木村 貴子	工藤加奈子	小池真知子
25	平成7年度	小笠原健雄 木村 貴子	見世 健一 若林 恭葉	渡辺 恵野	佐々木亮輔 小笠原牧子	浪岡 樹 工藤加奈子	吉田 真澄 佐藤 優子
26	平成8年度	佐々木亮輔 木村 貴子	見世 健一 小笠原牧子	浪岡 秀 渡辺 恵野	浪岡 樹 佐藤 優子	木村 亨 松本 幸絵	坂頂 達也 三本木 瞳
27	平成9年度	佐々木亮輔 木村 貴子	浪岡 秀 小池真知子	渡辺 恵野	木村 亨 佐藤 優子	浪岡 樹 松尾 裕江	三本木 瞳
28	平成10年度	佐々木亮輔 木村 貴子	浪岡 秀 小笠原牧子	松本 幸絵	木村 亨 日澤 夏希	浪岡 樹 松尾 裕江	松森 国益 坂頂みなみ
29	平成11年度	木村 亨 木村 貴子	小笠原牧子	佐藤 優子	松森 国益 日澤 夏希	鈴木 達也 松尾 裕江	川守田絢子
30	平成12年度	木村 亨 木村 貴子	浪岡 秀 小笠原牧子	佐藤 優子	鈴木 達也 松尾 裕江	類家 司 日澤 夏希	川守田絢子
31	平成13年度	木村 亨 小笠原牧子	浪岡 秀 日澤 夏希	浪岡 樹 佐藤 優子	鈴木 達也 中村 紋歌	類家 司 川守田絢子	尾形 百合

青森県小学生フィギュアスケート選手権大会

FIGURE

青森県フィギュアスケート選手権大会

小学校の部(1～7)

回	年 度	A 1 位	B 1 位		
1	昭和46年度				
2	昭和47年度	津久家 寿 子			
3	昭和48年度	津久家 寿 子			
4	昭和49年度	高 橋 亜紀子			
5	昭和50年度	高 橋 亜紀子			
6	昭和51年度	高 橋 さをり			
7	昭和52年度	高 橋 亜紀子	(以上で青森県選手権は分かれ別々の大会に)		
8	昭和53年度	佐々木 美 香			
9	昭和54年度	佐々木 美 香	B 1 位庭 久美子		
10	昭和55年度	佐々木 美 香	細 井 真 人		
11	昭和56年度	村 田 光 弘	レアナ・ナツインスキー		
12	昭和57年度	山 本 佳 子	松 橋 由香子		
13	昭和58年度	佐 藤 光 代	北 村 葉 子		
14	昭和59年度	山 本 まゆみ	佐 藤 晃 子		
15	昭和60年度	若 林 弘 章	春 日 恵		
16	昭和61年度	若 林 弘 章	若 林 恭 葉	(県小学生選手権18回から男女別)	
17	昭和62年度	高 橋 裕 佳	小野寺 紀 子	男子A 1 位	男子B 1 位
18	昭和63年度	高 橋 裕 佳	小野寺 紀 子	北 村 暁	
19	平成元年度	山 本 夢 子	小笠原 陽 子	北 村 暁	
20	平成2年度	武 部 葉 子	石 橋 智 恵	田 村 岳 斗	見 世 健 一
21	平成3年度	小笠原 陽 子	工 藤 加奈子	田 村 岳 斗	浪 岡 秀
22	平成4年度	下 村 日咲絵	小 池 真知子	浪 岡 秀	
23	平成5年度	木 村 貴 子	村 田 ひさ江	浪 岡 秀	吉 田 真 澄
24	平成6年度	木 村 貴 子	佐 藤 優 子	浪 岡 秀	坂 頂 達 也
25	平成7年度	佐 藤 優 子	五 戸 理 恵	佐々木 亮 輔	木 村 亨
26	平成8年度	小笠原 牧 子	日 澤 夏 希	佐々木 亮 輔	鈴 木 達 也
27	平成9年度	日 澤 夏 希	尾 形 百 合	浪 岡 樹	大 塚 博 明
28	平成10年度	日 澤 夏 希	井 村 愛 梨	松 森 国 益	
29	平成11年度	日 澤 夏 希	中 村 紋 歌	松 森 国 益	織 笠 修 行
30	平成12年度	中 村 紋 歌		小笠原 健 介	
31	平成13年度	太 田 真 樹	谷 川 奈穂美	今 田 智 也	木 村 真 人

県中学校体育大会冬季スケート競技会優勝一覧表



競 技	別	年 度	第30回（S54年）	第31回（S55年）	第32回（S56年）	第33回（S57年）
		年月日	1980. 1. 21	1981. 1. 21	1982. 1. 3	1983. 1. 3
ス ピ ー ド	男 子	500m	鳥谷 彰（長者中） 44″ 27	沼沢 博文（長者中） 43″ 75（C R）	東 寿幸（百石中） 44″ 71	留目 雅明（小中野中） 43″ 00（C R）
		1000m		男子は1000mは 32回大会より新設	夏堀 尚治（明治中） 1′ 32″ 38	柳町 一徳（大館中） 1′ 26″ 11（C R）
		1500m	成田 博一（下田中） 2′ 24″ 24	米田 昌弘（根城中） 2′ 15″ 18（C R）	夏堀 尚治（明治中） 2′ 21″ 32	柳町 一徳（大館中） 2′ 15″ 44
		3000m	江渡 昭（下田中） 4′ 58″ 68（C R）	米田 昌弘（根城中） 4′ 49″ 45（C R）	下村 信也（下長中） 4′ 54″ 33	武山 靖（大館中） 4′ 45″ 19（C R）
		5000m	五十嵐 勉（長者中） 8′ 38″ 25	百目木 仁（明治中） 8′ 08″ 45（C R）	下村 信也（下長中） 8′ 36″ 55	武山 靖（大館中） 7′ 57″ 90（C R）
		2000m R	内沢、南館、五十嵐、鳥谷 長者中チーム 3′ 09″ 78（C R）	山田、百目木、夏堀、三浦 明治中チーム 3′ 09″ 37（C R）	リレーは32回大会 より廃止	
		総 合	長 者 中	根 城 中	明 治 中	大 館 中
ス ピ ー ド	女 子	500m	市沢千賀子（長者中） 51″ 08	倉内 留美（百石中） 42″ 28	倉内 留美（百石中） 50″ 39	助川安芸子（第二中） 50″ 00
		1000m	市沢千賀子（長者中） 1′ 41″ 77（C R）	沢向 美幸（明治中） 1′ 40″ 11	伊藤 弘子（明治中） 1′ 44″ 49	樋口 元子（根城中） 1′ 42″ 50
		1500m	佐々木寿子（百石中） 2′ 47″ 10	佐々木寿子（百石中） 2′ 32″ 09（C R）	中野 真紀（百石中） 2′ 39″ 49	小軽米智子（根城中） 2′ 30″ 31（C R）
		3000m	佐々木寿子（百石中） 5′ 48″ 95	中野 真紀（百石中） 5′ 42″ 10	小軽米智子（根城中） 5′ 31″ 81（C R）	小軽米智子（根城中） 5′ 14″ 71（C R）
		2000m R	板橋、久保田、福田、市沢 長者中チーム 3′ 34″ 05	中野、倉内、馬場、佐々木 百石チーム 3′ 31″ 24（C R）	リレーは32回大会 より廃止	
		総 合	下 田 中	百 石 中	根 城 中	根 城 中
スピード男女総合		下 田 中	百 石 中	根 城 中	根 城 中	
フ ィ ギ ュ ア	男 子	個人A				村田 光弘（鯨中）
		個人B				
		個人C				
		総 合				鯨 中
フ ィ ギ ュ ア	女 子	個人A	須藤 和枝（大館中）	柳沢美智子（白銀中）	大隅ちはる（第二中）	大隅ちはる（第二中）
		個人B				
		個人C				
		総 合	第 一 中	第 二 中	白 銀 中	第 二 中
アイスホッケー		長 者 中	長 者 中	長 者 中	第 二 中	

競 技	別	年 度	第34回（S58年）	第35回（S59年）	第36回（S60年）	第37回（S61年）
		年月日	1984. 1. 9	1985. 1. 8	1986. 1. 13	1987. 1. 12
ス ピ ー ド	男 子	500m	和山 雅幸（三戸中） 44″ 60	上久保達彦（百石中） 43″ 20	村崎 匡裕（百石中） 43″ 70	村崎 匡裕（小中野中） 41″ 94（C R）
		1000m	田中 利典（大館中） 1′ 31″ 80	小笠原広文（根城中） 1′ 28″ 90	村崎 匡裕（百石中） 1′ 32″ 30	村崎 匡裕（百石中） 1′ 30″ 91
		1500m	後村 直希（第二中） 2′ 17″ 70	小笠原広文（根城中） 2′ 18″ 30	金藤 力（根城中） 2′ 18″ 40	日ヶ久保勇二（百石中） 2′ 17″ 21
		3000m	松田 仁（第二中） 4′ 46″ 70	佐々木秀樹（百石中） 4′ 45″ 70	出町 正明（根城中） 5′ 00″ 40	大西 友則（根城中） 4′ 41″ 74（C R）
		5000m	松田 仁（第二中） 8′ 05″ 00	小笠原徳夫（下長中） 8′ 24″ 80	出町 正明（根城中） 8′ 53″ 60	大西 友則（根城中） 8′ 19″ 19
		2000m R				
		総 合	第 二 中	百 石 中	根 城 中	根 城 中
ス ピ ー ド	女 子	500m	寺崎 由紀（根城中） 48″ 60	寺崎 由紀（根城中） 47″ 50	小野寺恭子（三戸中） 47″ 80	山下 博恵（根城中） 46″ 88（C R）
		1000m	樋口 元子（根城中） 1′ 40″ 60	寺崎 由紀（根城中） 1′ 39″ 80（C R）	小野寺恭子（三戸中） 1′ 45″ 00	山下 博恵（根城中） 1′ 42″ 15
		1500m	小軽米智子（根城中） 2′ 29″ 20（C R）	樋口 元子（根城中） 2′ 32″ 40（C R）	佐々木直子（根城中） 2′ 26″ 60	小野寺郁子（根城中） 2′ 36″ 83
		3000m	小軽米智子（根城中） 5′ 01″ 50（C R）	樋口 元子（根城中） 5′ 16″ 3	佐々木直子（根城中） 5′ 40″ 10	斎藤あかね（根城中） 5′ 22″ 47
		2000m R				
		総 合	根 城 中	根 城 中	根 城 中	根 城 中
スピード男女総合		34回大会よりスピード 男女総合廃止				
フ ィ ギ ュ ア	男 子	個人A	村田 光弘（鯨 中）	柳沢 光志（白銀中）	小笠原博文（下長中）	松田 訓（第三中）
		個人B				
		個人C				
		総 合	鯨 中	白 銀 中	下 長 中	第 三 中
フ ィ ギ ュ ア	女 子	個人A	松沢 妙子（是川中）	佐藤 光代（大館中）	山本まゆみ（是川中）	松橋 明美（第一中）
		個人B				
		個人C				
		総 合	第 二 中	大 館 中	第 二 中	大 館 中
アイスホッケー		第 二 中	根 城 中	第 二 中	下 長 中	

県中学校体育大会冬季スケート競技会優勝一覧表（続き）



競 技	別	年 度	第38回（S62年）	第39回（S63年）	第40回（H元年）	第41回（H2年）
		年月日	1988. 1. 7	1989. 1. 9	1990. 1. 9	1991. 1. 7
ス ピ ー ド	男 子	500m	小林 貴之（六戸中） 42″ 09	小林 正憲（六戸中） 43″ 42	小林 正憲（六戸中） 41″ 44	須藤 聡（長者中） 43″ 71
		1000m	小林 貴之（六戸中） 1′ 27″ 27	小林 正憲（六戸中） 1′ 27″ 09	小林 正憲（六戸中） 1′ 27″ 59	若林 誠之（下長中） 1′ 29″ 61
		1500m	竹内 洋介（六戸中） 2′ 16″ 34	小笠原淳悦（根城中） 2′ 19″ 80	佐藤 大士（下長中） 2′ 17″ 89	小笠原国治（下長中） 2′ 17″ 40
		3000m	下村 隆史（根城中） 4′ 59″ 55	後藤 準（根城中） 4′ 43″ 09	後藤 準（根城中） 4′ 39″ 42	大光 新一（百石中） 4′ 46″ 11
		5000m	下村 隆史（根城中） 8′ 35″ 23	柏崎 勇一（下田中） 8′ 52″ 57	後藤 準（根城中） 7′ 55″ 02	小芝 直彦（根城中） 8′ 22″ 15
		2000m R				
		総 合	六 戸 中	根 城 中	下 長 中	百 石 中
ス ピ ー ド	女 子	500m	山下 博恵（根城中） 46″ 54（C R）	小野寺郁子（根城中） 48″ 64	遠藤 百恵（下田中） 47″ 83	遠藤 百恵（下田中） 47″ 22
		1000m	斉藤あかね（根城中） 1′ 40″ 09	小野寺郁子（根城中） 1′ 39″ 67	成田 亜希（百石中） 1′ 36″ 98	遠藤 百恵（下田中） 1′ 37″ 10
		1500m	斉藤あかね（根城中） 2′ 33″ 32	沼館 章子（百石中） 2′ 39″ 87	沼館 章子（百石中） 2′ 32″ 95	河原木美恵子（下長中） 2′ 37″ 67
		3000m	小野寺郁子（根城中） 5′ 25″ 39	山崎 聡子（根城中） 6′ 26″ 09	沼館 章子（百石中） 5′ 23″ 39	河原木美恵子（下長中） 5′ 27″ 82
		2000m R				
		総 合	根 城 中	根 城 中	百 石 中	百 石 中
スピード男女総合						
フ ィ ギ ュ ア	男 子	個人A	若林 弘章（第三中）	若林 弘章（第三中）	若林 弘章（第三中）	高橋 稔大（下長中）
		個人B				
		個人C				
		総 合	第 三 中	第 三 中	第 三 中	下 長 中
フ ィ ギ ュ ア	女 子	個人A	山本まゆみ（是 川）	北村 葉子（小中野中）	高橋 裕佳（江陽中）	山本 夢子（東 中）
		個人B				
		個人C				
		総 合	長 者 中	長 者 中	江 陽 中	東 中
アイスホッケー			第 二 中	第 二 中	長 者 中	大 館 中

競技	別	年 度	第42回（H 3 年）	第43回（H 4 年）	第44回（H 5 年）	第45回（H 6 年）
		年月日	1992. 1. 7	1993. 1. 7	1994. 1. 10	1995. 1. 7
スピード	男子	500m	若林 誠之（下長中） 42″ 64	藤ヶ森誠司（百石中） 41″ 44（大会タイ）	藤ヶ森誠司（百石中） 41″ 71	遠藤 真也（下田中） 41″ 09（C R）
		1000m	伊藤 貴徳（百石中） 1′ 30″ 15	藤ヶ森誠司（百石中） 1′ 25″ 01（C R）	志賀 諭（三戸中） 1′ 25″ 41	遠藤 真也（下田中） 1′ 23″ 85（C R）
		1500m	北向 哲也（下田中） 2′ 20″ 72	北向 哲也（下田中） 2′ 10″ 92（C R）	大里 崇（百石中） 2′ 10″ 73（C R）	佐藤 精二（下田中） 2′ 11″ 44
		3000m	堀川 大志（百石中） 4′ 47″ 96	堀川 大志（百石中） 4′ 30″ 94（C R）	大里 崇（百石中） 4′ 27″ 05（C R）	袴田 憲司（下田中） 4′ 39″ 03
		5000m	堀川 大志（百石中） 8′ 03″ 64	堀川 大志（百石中） 7′ 42″ 42（C R）	伊勢 俊一（百石中） 7′ 46″ 70	袴田 憲司（下田中） 8′ 08″ 16
		2000m R				
		総 合	百 石 中	百 石 中	百 石 中	下 田 中
スピード	女子	500m	成田 亜希（百石中） 46″ 34	川尻 貴子（六戸中） 46″ 97	十日市理恵（第一中） 47″ 87	慶長 文子（第二中） 45″ 91（C R）
		1000m	成田 亜希（百石中） 1′ 35″ 62	川尻 貴子（六戸中） 1′ 34″ 29（C R）	十日市理恵（第一中） 1′ 40″ 46	慶長 文子（第二中） 1′ 35″ 03
		1500m	日ヶ久保美樹（百石中） 2′ 35″ 02	栗林しのぶ（第二中） 2′ 32″ 44	栗林しのぶ（第二中） 2′ 29″ 45（C R）	浜中 喜子（根城中） 2′ 29″ 05（C R）
		3000m	小笠原美智子（下長中） 5′ 23″ 28	藤ヶ森祐子（百石中） 5′ 22″ 70	栗林しのぶ（第二中） 5′ 08″ 15（C R）	浜中 喜子（根城中） 5′ 00″ 22（C R）
		2000m R				
		総 合	百 石 中	六 戸 中	第 二 中	第 二 中
スピード男女総合						
フィギュア	男子	個人A	高橋 稔大（下長中）	田村 岳斗（第二中）	田村 岳斗（第二中）	田村 岳斗（第二中）
		個人B			見世 健一（長者中）	
		個人C			田口 晋（湊 中）	田口 晋（湊 中）
		総合	下 長 中	第 二 中	第 二 中	第 二 中
フィギュア	女子	個人A	高橋 裕佳（江陽中）	若林 恭葉（第二中）	渡辺 恵野（横内中）	渡辺 恵野（横内中）
		個人B			工藤加奈子（東 中）	小池真知子（三沢一中）
		個人C			檜澤 志乃（第二中）	村田ひさ恵（剣吉中）
		総 合	江 陽 中	大 館 中	大 館 中	大 館 中
アイスホッケー			長 者 中	大 館 中	第 二 中	第 二 中

県中学校体育大会冬季スケート競技会優勝一覧表（続き）

競 技	別	年 度	第46回（H 7年）	第47回（H 8年）	第48回（H 9年）	第49回（H10年）
		年月日	1996. 1. 7	1997. 1. 9	1998. 1. 7	1999. 1. 7
ス ピ ー ド	男 子	500m	山村 知弘（長者中） 42″ 29	梅津 義正（根城中） 41″ 00（C R）	小松 智嗣（長者中） 44″ 76	小松 智嗣（長者中） 42″ 47
		1000m	柳町 享（明治中） 1′ 25″ 29	梅津 義正（根城中） 1′ 26″ 00	杉本 太一（明治中） 1′ 30″ 97	小松 智嗣（長者中） 1′ 26″ 35
		1500m	柳町 享（明治中） 2′ 12″ 77	柳町 博行（明治中） 2′ 19″ 73	佐藤 鉄也（下田中） 2′ 12″ 08	杉本 太一（明治中） 2′ 09″ 64（C R）
		3000m	坂下 努（明治中） 4′ 37″ 41	村崎 高夫（下田中） 4′ 30″ 25	北村 長一（根城中） 4′ 36″ 62	杉本 太一（明治中） 4′ 27″ 17
		5000m	坂下 努（明治中） 7′ 46″ 88	村崎 高夫（下田中） 8′ 26″ 41	東 健太郎（第二中） 8′ 00″ 68	村住 駿介（根城中） 8′ 10″ 76
		2000m R				
		総 合	下 田 中	根 城 中	第 二 中	明 治 中
ス ピ ー ド	女 子	500m	柏崎 友美（下田中） 48″ 88	大里 聡子（百石中） 49″ 05	大里 聡子（百石中） 49″ 39	小向 祐子（百石中） 47″ 62
		1000m	沼端 瞳（百石中） 1′ 43″ 63	松倉 泉（是川中） 1′ 40″ 45	大里 聡子（百石中） 1′ 38″ 91	小向 祐子（百石中） 1′ 36″ 42
		1500m	浜中 喜子（根城中） 2′ 23″ 73（C R）	林 陽華（百石中） 2′ 26″ 95	林 陽華（百石中） 2′ 26″ 99	林 陽華（百石中） 2′ 25″ 34（C R）
		3000m	浜中 喜子（根城中） 5′ 17″ 63	林 陽華（百石中） 5′ 15″ 13	林 陽華（百石中） 5′ 13″ 20	林 陽華（百石中） 5′ 11″ 91
		2000m R				
		総 合	百 石 中	百 石 中	百 石 中	百 石 中
スピード男女総合						
フ ィ ギ ュ ア	男 子	個人A			佐々木亮輔（第三中）	浪岡 秀（第二中）
		個人B		浪岡 秀（第二中）	坂頂 達也（湊 中）	木村 亨（第二中）
		個人C	坂頂 達也（湊 中）		類家 司（白銀中）	類家 司（白銀中）
		総 合	湊 中	第 二 中	第 三 中	第 二 中
フ ィ ギ ュ ア	女 子	個人A	木村 貴子（第二中）	木村 貴子（第二中）	木村 貴子（第二中）	小笠原牧子（第二中）
		個人B	下澤 理沙（白銀南中）	佐藤 優子（東 中）	佐藤 優子（東 中）	松尾 裕江（第三中）
		個人C	野田 恵（湊 中）	宮内佳代子（大館中）		川守田絢子（長者中）
		総 合	第 二 中	第 二 中	第 二 中	長 者 中
アイスホッケー			第 二 中	第 一 中	第 一 中	第 一 中



競 技	別	年 度	第50回（H11年）	第51回（H12年）	第52回（H13年）
		年月日	2000. 1 . 8	2001. 1 . 11	2002. 1 . 8
ス ピ ー ド	男 子	500m	松橋 広大（明治中） 41″ 01	高橋 聡太（根城中） 41″ 01	佐々木隆行（根城中） 41″ 94
		1000m	小松 智嗣（長者中） 1′ 24″ 44	高橋 聡太（根城中） 1′ 25″ 84	石岡 昭博（長者中） 1′ 25″ 98
		1500m	杉本 太一（明治中） 2′ 05″ 95大会新	松尾 和明（根城中） 2′ 10″ 85	石岡 昭博（長者中） 2′ 12″ 08
		3000m	杉本 太一（明治中） 4′ 28″ 48	松尾 和明（根城中） 4′ 49″ 15	大久保和充（長者中） 4′ 35″ 64
		5000m	藤ヶ森一輝（百石中） 7′ 47″ 41	柏崎 藤太（下田中） 7′ 57″ 27	吉本 圭翼（六戸中） 8′ 17″ 41
		2000m R			
		総 合	根 城 中 31点	根 城 中 58点	根 城 中 24点
ス ピ ー ド	女 子	500m	日ヶ久保麻衣子（百石中） 47″ 23	松尾 佳枝（根城中） 47″ 80	松尾 佳枝（根城中） 47″ 95
		1000m	遠藤奈々子（下田中） 1′ 36″ 11	松尾 佳枝（根城中） 1′ 43″ 01	和田和香菜（三戸中） 1′ 41″ 39
		1500m	寺沢 一恵（明治中） 2′ 29″ 77	遠藤奈々子（下田中） 2′ 28″ 76	大久保あゆみ（根城中） 2′ 29″ 99
		3000m	寺沢 一恵（明治中） 5′ 18″ 79	遠藤奈々子（下田中） 5′ 20″ 67	大久保あゆみ（根城中） 5′ 14″ 94
		2000m R			
		総 合	明 治 中 33点	下 田 中 30点	根 城 中 23点
スピード男女総合					
フ ィ ギ ュ ア	男 子	個人A	木村 亨（第二中）	浪岡 樹（第二中）	
		個人B	鈴木 達也（湊 中）	鈴木 達也（湊 中）	
		個人C	該当者なし	該当者なし	
		総 合	第 二 中 3点	第 二 中 5点	
フ ィ ギ ュ ア	女 子	個人A	小笠原牧子（第二中）	日澤 夏希（第三中）	日澤 夏希（第三中）
		個人B	柴田 佑里（長者中）	大嶋 美輝（三条中）	尾形 百合（根城中）
		個人C	市川 美井（第三中）	鳴海 知佳（甲田中）	八木田舞子（八戸東中）
		総 合	長 者 中 22点	第 三 中 15点	第 三 中 15点
アイスホッケー		下 長 中	第 一 中	第 一 中	

青森県小学生スピードスケート500m大会（2002年より小学生大会）記録

種 目	回	会 場	氏 名	所 属	記 録
4 年女子 500m	第 1 回	八 戸	小笠原 美智子	下長小学校	52" 77
5 年男子 500m	第 2 回	八 戸	伊 勢 秀 一	百石小学校	53" 65
5 年女子 500m	第 9 回	八 戸	遠 藤 奈々子	木内々小学校	49" 81
5 年男子 500m	第 8 回	八 戸	小 松 智 嗣	函南小学校	48" 39
6 年女子 500m	第10回	八 戸	遠 藤 奈々子	木内々小学校	49" 60
6 年男子 500m	第 6 回	八 戸	梅 津 義 正	田面木小学校	45" 79

A B A杯 長根ゴールドスプリント競技会

歴代優勝者

性 別	年	回	氏 名	所 属	総合得点
男 子	7	1	北 村 長 一	根 城 小	157.90
	8	2	小 松 智 嗣	函 南 小	157.76
	9	3	小 松 智 嗣	函 南 小	147.77
	10	4	高 橋 聰 太	根 城 小	153.71
	11	5	石 岡 昭 博	長 者 小	154.80
	12	6	吉 本 圭 翼	折 茂 小	154.54
	13	7	東 達 彦	白 山 台 小	160.00
	14	8	木 村 佳 憲	多 賀 小	156.75
女 子	7	1	小 向 祐 子	甲 洋 小	166.35
	8	2	林 陽 華	百 石 小	163.95
	9	3	中 田 智 子	田 面 木 小	159.56
	10	4	遠 藤 奈々子	木 内 々 小	161.74
	11	5	馬 場 真理子	木 内 々 小	168.62
	12	6	松 尾 佳 枝	江 南 小	162.78
	13	7	大久保 あゆみ	根 城 小	159.47
	14	8	川 崎 由 佳	城 下 小	161.76

青森県対栃木県小学生スピードスケート交歓会 大会記録

種 目	年	会 場	氏 名	所 属	記 録
5 年女子 500m	1997	八 戸	遠 藤 奈々子	青森・木内々	50" 46
5 年男子 500m	2002	日 光	阿久津 真之助	栃木・所野	46" 02
6 年女子 500m	1986	日 光	小野寺 郁 子	青森・三戸	47" 50
6 年男子 500m	1997	八 戸	小 松 智 嗣	青森・函南	45" 80
5 年女子 1000m	1997	八 戸	遠 藤 奈々子	青森・木内々	1' 45" 19
5 年男子 1000m	2002	日 光	阿久津 真之助	栃木・所野	1' 35" 65
6 年女子 1000m	1986	日 光	小野寺 郁 子	青森・三戸	1' 39" 00
6 年男子 1000m	2000	日 光	中 村 聖 也	青森・木内々	1' 34" 14

青森県対苫小牧さわやかスポ少スピードスケート交歓会 大会記録

A. シングルトラックレース記録

《第 1 回（平成 3 年度）～第 6 回（平成 8 年度・平成12年度）》

学 年	男 女	距 離	記 録	氏 名	所 属	回
5 年	女 子	500m	49" 13	小野寺 未 夏	苫・北光	5
5 年	男 子	500m	47" 84	佐々木 裕 剛	苫・早来	10
6 年	女 子	500m	46" 35	脇 田 麻 美	苫・厚真	10
6 年	男 子	500m	44" 90	梅 津 義 正	青・田面木	3
5 年	女 子	1000m	1' 37" 97	小野寺 未 夏	苫・北光	5
5 年	男 子	1000m	1' 40" 94	皆 川 翔 平	苫・糸井	5
6 年	女 子	1000m	1' 33" 55	脇 田 麻 美	苫・厚真	10
6 年	男 子	1000m	1' 35" 62	加 藤 連	苫・厚真	10
5 年	男 子	1500m	2' 37" 97	金 子 悟 志	苫・泉野	2
6 年	男 子	1500m	2' 27" 05	柳 町 亨	青・明治	2

B. ダブルトラックレース記録

《第 7 回（平成 9 年度）～第 9 回（平成11年度）・第11回（平成13年度）》

学 年	男 女	距 離	記 録	氏 名	所 属	回
5 年	女 子	500m	47" 35	脇 田 麻 美	苫・厚真	9
5 年	男 子	500m	46" 37	木 村 佳 憲	青・多賀	11
6 年	女 子	500m	47" 48	橋 本 亜 弥	苫・早来	11
6 年	男 子	500m	43" 41	佐々木 裕 剛	苫・早来	11
5 年	女 子	1000m	1' 38" 70	脇 田 麻 美	苫・厚真	9
5 年	男 子	1000m	1' 35" 19	竹 田 翔 平	苫・早来	11
6 年	女 子	1000m	1' 39" 54	佐 藤 文 美	苫・連合	8
6 年	男 子	1000m	1' 35" 46	中 村 聖 也	青・木内々	9

県内大会記録一覧

青森県選抜(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	37" 91	西岡和哉	吉田産業業	34	2000/11/28	八戸
1000m	1' 17" 81	加藤勝広	吉田産業業	34	2000/11/29	八戸
1500m	1' 58" 70	石岡	守吉田産業業	32	1998/11/22	盛岡
3000m	4' 07" 54	澤田一樹	吉田産業業	33	1999/11/23	盛岡
5000m	7' 10" 50	伊勢俊一	八戸プラザホテル		2001/12/19	

県スプリント(男子)

種目	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	37" 59	西岡和哉	吉田産業業	27	2001/01/03
1000m	1' 14" 50	西岡和哉	吉田産業業	27	2001/01/03
スプリント総合	150.025	西岡和哉	吉田産業業	27	2001/01/03
	37" 59-1' 14" 50-37" 65-1' 15" 07				2001/01/04

県ジュニアスプリント(男子)

種目	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	40" 21	梅津義正	根城中学校	16	1997/01/18
1000m	1' 21" 40	後藤準	八戸西高校	10	1991/02/11
スプリント総合	163.565	後藤準	八戸西高校	10	1991/02/11
	40" 97-1' 21" 40-41" 01-1' 21" 77				1991/02/12

県選手権(男子)

種目	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	37" 36	西岡和哉	吉田産業業	53	2001/02/10
1500m	1' 57" 74	石岡	守吉田産業業	52	2000/02/22
5000m	7' 08" 22	石岡	守吉田産業業	50	1998/02/10
10000m	14' 41" 97	石岡	守吉田産業業	50	1998/02/11
総合	164.933	石岡	守吉田産業業	50	1998/02/10
	38" 52-7' 08" 22-1' 58" 48-14' 41" 97				1998/02/11

国体予選(成年男子A)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	38" 40	村崎匡裕	東洋大 学	46	1990/12/29
1000m	1' 19" 08	戸田金作	吉田産業業	46	1990/12/30
1500m	2' 03" 03	石岡	守吉田産業業	54	1998/12/12
5000m	7' 23" 30	田名部幸夫	日本文明シャッター	37	1982/01/09
10000m	15' 48" 70	田名部正人	根城中学校教員	39	1984/01/08

青森県選抜(女子)

2001/12/11 現在						
距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	44" 20	細越篤子	三八五貨物	17	1983/12/21	八戸
1000m	1' 29" 75	川尻貴子	吉田産業業	32	1998/11/23	盛岡
1500m	2' 11" 90	川尻貴子	吉田産業業	31	1997/12/09	八戸
3000m	4' 31" 16	濱中喜子	八戸市庁	33	1999/11/23	盛岡

県スプリント(女子)

種目	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	43" 79	橋本曜	八戸東高校	17	1991/02/13
1000m	1' 27" 37	川尻貴子	吉田産業業	24	1998/01/12
スプリント総合	176.185	川尻貴子	吉田産業業	24	1998/01/11
	44" 19-1' 29" 00-43" 81-1' 27" 37				1998/01/12

県ジュニアスプリント(女子)

種目	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	45" 55	慶長文子	第二中学校	14	1995/01/14
1000m	1' 32" 53	中田智子	根城中学校	18	1999/02/10
スプリント総合	186.665	濱中喜子	根城中学校	15	1996/02/13
	46" 63-1' 33" 26-47" 00-1' 36" 15				1996/02/14

県選手権(女子)

種目	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	43" 92	川尻貴子	吉田産業業	50	1998/02/10
1500m	2' 15" 03	濱中喜子	八戸市庁	52	2000/02/22
3000m	4' 40" 72	川尻貴子	吉田産業業	50	1998/02/10
5000m	8' 02" 67	濱中喜子	八戸市庁	52	2000/02/22
総合	185.568	濱中喜子	八戸市庁	52	2000/02/21
	44" 87-4' 44" 53-2' 15" 03-8' 02" 67				2000/02/22

国体予選(成年女子A)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	45" 30	細越篤子	三八五貨物	39	1984/01/07
1000m	1' 32" 41	川尻貴子	吉田産業業	53	1998/01/04
1500m	2' 17" 82	川尻貴子	吉田産業業	53	1998/01/03
3000m	4' 39" 43	濱中喜子	八戸市庁	55	1999/12/12

東北大会記録一覧

成年(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	38″ 48	湯 田 淳	秋 田	27	1997/12/26	八戸
1000m	1′ 16″ 79	湯 田 淳	秋 田	26	1996/12/27	秋田
	1′ 16″ 79	湯 田 淳	秋 田	27	1997/12/27	八戸
1500m	1′ 58″ 99	大 内 智 則	福 島	28	1998/12/27	盛岡
3000m	4′ 11″ 39	平 間 茂 英	岩 手	27	1997/12/26	八戸
5000m	7′ 17″ 78	小 笠 原 裕 太	青 森	30	2000/12/25	郡山

高校(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	38″ 73	加 藤 条 治	山 形 中 央 高 校	12	2000/12/24	郡山
1000m	1′ 17″ 11	加 藤 竜 也	山 形 中 央 高 校	12	2000/12/25	郡山
1500m	1′ 57″ 55	高 橋 雄 哉	八 戸 商 業 高 校	12	2000/12/23	郡山
3000m	4′ 17″ 35	大 里 崇	八 戸 商 業 高 校	8	1996/12/28	秋田
5000m	7′ 16″ 52	東 健 太 郎	八 戸 商 業 高 校	12	2000/12/25	郡山

中学校(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	40″ 71	加 藤 竜 也	山 形 第 六 中 学 校	19	1997/12/25	八戸
1000m	1′ 21″ 15	高 橋 聡 太	根 城 中 学 校	22	2000/12/25	郡山
1500m	2′ 04″ 68	杉 本 太 一	明 治 中 学 校	21	1999/12/24	山形
3000m	4′ 26″ 95	堀 川 大 志	百 石 中 学 校	14	1992/12/28	八戸
5000m	7′ 43″ 87	下 村 将 嘉	根 城 中 学 校	22	2000/12/25	郡山

N H K 杯県高校(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	年度	期 日	開催地
500m	39″ 24	山 村 知 弘	八 戸 商 業 高 校	H10	1998/11/22	盛岡
1000m	1′ 19″ 04	北 村 長 一	八 戸 商 業 高 校	H11	1999/11/23	盛岡
1500m	1′ 59″ 99	高 橋 雄 哉	八 戸 商 業 高 校	H12	2000/11/28	八戸
3000m	4′ 14″ 40	伊 勢 秀 一	百 石 高 校	H 9	1997/12/10	八戸
5000m	7′ 21″ 38	小 笠 原 裕 太	八 戸 商 業 高 校	H11	1999/11/23	盛岡

県高校総体(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	38″ 23	山 村 知 弘	八 戸 商 業 高 校	51	1998/12/12
1000m	1′ 19″ 49	遠 藤 真 也	八 戸 商 業 高 校	50	1997/12/15
1500m	2′ 00″ 78	高 橋 雄 哉	八 戸 商 業 高 校	54	2001/12/08
5000m	7′ 18″ 89	東 健 太 郎	八 戸 商 業 高 校	53	2000/12/17
10000m	15′ 18″ 24	袴 田 憲 司	百 石 高 校	50	1997/12/14
2000mR	2′ 40″ 01	小笠原・後藤・蛭名・河村	八 戸 西 高 校	45	1992/12/21

成年(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	44″ 24	五 十 嵐 環	秋 田	20	1990/12/26	盛岡
1000m	1′ 27″ 96	川 尻 貴 子	青 森	27	1997/12/27	八戸
1500m	2′ 11″ 66	濱 中 喜 子	青 森	30	2000/12/23	郡山
3000m	4′ 49″ 13	若 林 育 子	秋 田	21	1991/12/28	秋田

高校(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	43″ 59	東 海 林 円	山 形 中 央 高 校	11	1999/12/25	山形
1000m	1′ 27″ 96	東 海 林 円	山 形 中 央 高 校	10	1998/12/26	盛岡
1500m	2′ 16″ 33	根 城 七 恵	八 戸 商 業 高 校	12	2000/12/23	郡山
3000m	4′ 44″ 44	鈴 木 め ぐ み	八 戸 商 業 高 校	8	1996/12/28	秋田

中学校(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日	開催地
500m	44″ 84	佐 藤 宝	秋 田 ・ 飯 島 中 学	21	1999/12/25	山形
1000m	1′ 30″ 47	佐 藤 宝	秋 田 ・ 飯 島 中 学	21	1999/12/26	山形
1500m	2′ 23″ 12	小 笠 原 千 晶	見 前 南 中 学 校	22	2000/12/23	郡山
3000m	4′ 57″ 64	濱 中 喜 子	根 城 中 学 校	16	1994/12/28	山形

N H K 杯県高校(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	年度	期 日	開催地
500m	44″ 22	川 尻 貴 子	光 星 学 院 高 校	H 7	1995/11/28	八戸
1000m	1′ 29″ 82	濱 中 喜 子	光 星 学 院 高 校	H 9	1997/12/10	八戸
1500m	2′ 12″ 36	濱 中 喜 子	光 星 学 院 高 校	H 9	1997/12/09	八戸
3000m	4′ 47″ 50	根 城 七 恵	八 戸 商 業 高 校	H11	1999/11/23	盛岡

県高校総体(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	44″ 16	大 久 保 歌 澄	八 戸 高 校	47	1994/12/17
1000m	1′ 29″ 88	川 尻 貴 子	光 星 学 院 高 校	48	1995/12/16
1500m	2′ 12″ 45	濱 中 喜 子	光 星 学 院 高 校	51	1998/12/12
3000m	4′ 47″ 66	濱 中 喜 子	光 星 学 院 高 校	50	1997/12/15
2000mR	3′ 04″ 32	川尻・岡田・吉田・成田	光 星 学 院 高 校	47	1994/12/18

高校新人戦(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	39" 80	遠 藤 真 也	八 戸 商 業 高 校	38	1997/02/13
1000m	1' 20" 70	北 村 長 一	八 戸 商 業 高 校	41	2000/02/20
1500m	2' 00" 94	高 橋 雄 哉	八 戸 商 業 高 校	41	2000/02/19
5000m	7' 25" 52	伊 勢 秀 一	百 石 高 校	38	1997/02/13
10000m	15' 20" 03	村 崎 高 夫	八 戸 商 業 高 校	39	1998/02/14
2000mR	2' 46" 95	山村・古川・坂下・村崎	八 戸 商 業 高 校	39	1998/02/14

八戸市中学校(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	41" 11	松 橋 広 大	明 治 中 学 校	23	1999/12/08
1000m	1' 22" 10	杉 本 太 一	明 治 中 学 校	23	1999/12/09
1500m	2' 11" 16	杉 本 太 一	明 治 中 学 校	23	1999/12/08
3000m	4' 38" 87	坂 下 努	明 治 中 学 校	19	1995/12/
5000m	7' 50" 35	坂 下 努	明 治 中 学 校	19	1995/12/

上北地方中学校(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	44" 15	昆 聖	下 田 中 学 校	50	1999/12/08
1000m	1' 23" 45	佐 藤 精 二	下 田 中 学 校	46	1995/12/
1500m	2' 10" 81	佐 藤 精 二	下 田 中 学 校	46	1995/12/
3000m	4' 35" 53	藤 ケ 森 一 輝	百 石 中 学 校	50	1999/12/09
5000m	7' 57" 70	藤 ケ 森 一 輝	百 石 中 学 校	50	1999/12/08

青森県中学校(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	41" 00	梅 津 義 正	根 城 中 学 校	47	1997/01/09
1000m	1' 23" 85	遠 藤 真 也	下 田 中 学 校	45	1995/01/07
1500m	2' 05" 95	杉 本 太 一	明 治 中 学 校	50	2000/01/08
3000m	4' 27" 05	大 里 崇	百 石 中 学 校	44	1994/01/10
5000m	7' 42" 42	堀 川 大 志	百 石 中 学 校	43	1993/01/07
2000mR	3' 09" 37	山田・百目木・夏堀・三浦	明 治 中 学 校	31	1981/01/21

中学新人戦(男子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	43" 48	小 松 智 嗣	長 者 中 学 校	36	1999/02/07
1000m	1' 23" 75	杉 本 太 一	明 治 中 学 校	36	1999/02/07
1500m	2' 09" 47	杉 本 太 一	明 治 中 学 校	36	1999/02/07
3000m	4' 44" 53	村 住 駿 介	根 城 中 学 校	36	1999/02/07
5000m	8' 01" 02	村 住 駿 介	根 城 中 学 校	36	1999/02/07

高校新人戦(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	44" 68	慶 長 文 子	八 戸 西 高 校	38	1997/02/13
1000m	1' 31" 93	慶 長 文 子	八 戸 西 高 校	38	1997/02/13
1500m	2' 19" 10	根 城 七 恵	八 戸 商 業 高 校	41	2000/02/19
3000m	4' 54" 16	根 城 七 恵	八 戸 商 業 高 校	41	2000/02/20
2000mR	3' 08" 80	大里・根城・柏崎・吉	八 戸 商 業 高 校	41	2000/02/20

八戸市中学校(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	46" 56	慶 長 文 子	第 二 中 学 校	18	1994/12/
1000m	1' 34" 91	慶 長 文 子	第 二 中 学 校	18	1994/12/
1500m	2' 22" 71	濱 中 喜 子	根 城 中 学 校	19	1995/12/
3000m	5' 03" 70	濱 中 喜 子	根 城 中 学 校	18	1994/12/

上北地方中学校(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	47" 74	日 ケ 久 保 麻 衣 子	百 石 中 学 校	50	1999/12/08
1000m	1' 36" 91	日 ケ 久 保 麻 衣 子	百 石 中 学 校	50	1999/12/09
1500m	2' 30" 33	林 陽 華	百 石 中 学 校	47	1996/12/
3000m	5' 15" 91	林 陽 華	百 石 中 学 校	49	1998/12/10

青森県中学校(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	45" 91	慶 長 文 子	第 二 中 学 校	45	1995/01/07
1000m	1' 34" 29	川 尻 貴 子	六 戸 中 学 校	43	1993/01/07
1500m	2' 23" 73	濱 中 喜 子	根 城 中 学 校	46	1996/01/07
3000m	5' 00" 22	濱 中 喜 子	根 城 中 学 校	45	1995/01/07
2000mR	3' 31" 24	中野・倉内・馬場・佐々木	百 石 中 学 校	31	1981/01/21

中学新人戦(女子)

距離	記 録	氏 名	所 属	回数	期 日
500m	48" 22	日 ケ 久 保 麻 衣 子	百 石 中 学 校	36	1999/02/07
1000m	1' 37" 50	日 ケ 久 保 麻 衣 子	百 石 中 学 校	36	1999/02/07
1500m	2' 26" 39	中 田 智 子	根 城 中 学 校	36	1999/02/07
3000m	5' 19" 38	中 田 智 子	根 城 中 学 校	36	1999/02/07

リンク記録(八戸市長根運動公園スケートリンク)

男子

2002/2/17 現在

種目	記録	氏名	所属	大会名	期日
500m	37" 03	加藤 将司	三協精機	全日本実業団	2002/02/16
1000m	1' 14" 50	西岡 和哉	吉田産業	青森県スプリント	2001/01/03
1500m	1' 54" 99	今井 裕介	山梨学院大学	全日本選手権	1998/12/23
3000m	4' 08" 37	澤口 一樹	吉田産業	青森県選抜	2000/11/29
5000m	6' 52" 33	白幡 圭史	コクド	全日本選手権	1998/12/22
10000m	14' 26" 85	白幡 圭史	コクド	全日本選手権	1998/12/23
2000mR	2' 31" 23	井上・塚原・浜道・黒岩	日本大学	日本学生	1990/12/24
スプリント 総合	150.025	西岡 和哉	吉田産業	青森県スプリント	2001/01/03
					2001/01/04
中総合	167.746	野本 繁小	海高校	全日本 Jr. 総合	1998/01/31
					1998/02/01
総合	161.906	野明 弘幸	長野県体育協会	全日本選手権	1998/12/22
					1998/12/23

女子

種目	記録	氏名	所属	大会名	期日
500m	40" 46	清水 知美	富士急行	全日本実業団	2002/02/17
1000m	1' 22" 51	清水 知美	富士急行	全日本実業団	2002/02/16
1500m	2' 08" 07	田畑 真紀	富士急行	全日本選手権	1998/12/23
3000m	4' 25" 99	田畑 真紀	富士急行	全日本選手権	1998/12/22
5000m	7' 41" 80	妹尾 栄里子	王子製紙	全日本選手権	1998/12/23
2000mR	2' 50" 48	野崎・山本・田中・島崎	三協精機	全日本実業団	1994/01/07
スプリント 総合	167.395	橋本 聖子	富士急行	全日本スプリント	1991/01/12
					1991/01/13
中総合	179.023	妹尾 栄里子	王子製紙	全日本 Jr. 総合	1998/01/31
					1998/02/01
総合	175.442	田畑 真紀	富士急行	全日本選手権	1998/12/22
					1998/12/23



第49回 国民体育大会フィギュア入賞者勢揃い

本県選手の最高記録

男子500m

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	35" 42	西岡和哉	吉田産業	オーバルファイナル	2001/03/18	カルガリー
県高校記録	37" 62	山村知弘	八戸商業高校	全国高校	1999/01/22	エムウエーブ
県中学記録	38" 70	松橋広大	明治中学校	全国中学校	2000/02/08	エムウエーブ

男子1000m

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	1' 10" 63	西岡和哉	吉田産業	オーバルファイナル	2001/03/17	カルガリー
県高校記録	1' 16" 44	坂下努	八戸商業高校	全国高校	1999/01/23	エムウエーブ
県中学記録	1' 19" 06	杉本太一	明治中学校	全国中学校	2000/02/09	エムウエーブ

男子1500m

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	1' 49" 76	澤口一樹	吉田産業	オーバルファイナル	1999/03/21	カルガリー
県高校記録	1' 56" 43	伊勢秀一	百石高校	W杯選考会	1997/11/02	エムウエーブ
県中学記録	1' 59" 72	杉本太一	明治中学校	全国中学校	2000/02/08	エムウエーブ

男子3000m

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	4' 01" 15	石岡守吉	吉田産業	サマークラシック	2000/08/11	カルガリー
県高校記録	4' 07" 91	伊勢秀一	百石高校	カントリーマッチ	1998/02/28	ミルウォーキー
県中学記録	4' 19" 14	藤ヶ森一輝	百石中学校	全国中学校	2000/02/09	エムウエーブ

男子5000m

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	6' 37" 52	澤口一樹	吉田産業	ワールドカップ	2000/01/30	カルガリー
県高校記録	6' 59" 32	小笠原裕太	八戸商業高校	全国高校	1999/01/24	エムウエーブ
県中学記録	7' 24" 00	橋康広	下田中学校	全国中学校	2000/02/08	エムウエーブ

男子10000m

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	13' 52" 20	澤口一樹	吉田産業	オーバルファイナル	1999/03/21	カルガリー
県高校記録	14' 19" 69	小笠原裕太	八戸商業高校	全国高校	1999/01/23	エムウエーブ
県中学記録	15' 28" 49	伊勢俊一	百石中学校	青森県選手権	1994/02/17	長根リンク

男子2000mR

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県高校記録	2' 38" 06	遠藤・金沢・藤ヶ森・大久保	八戸商業高校	全国高校	1996/01/23	伊香保ハイランド
県中学記録	3' 09" 37	山田・百目木・夏堀・三浦	明治中学校	青森県中学校	1981/01/21	長根リンク

男子（スプリント総合）

2001/12/11 現在

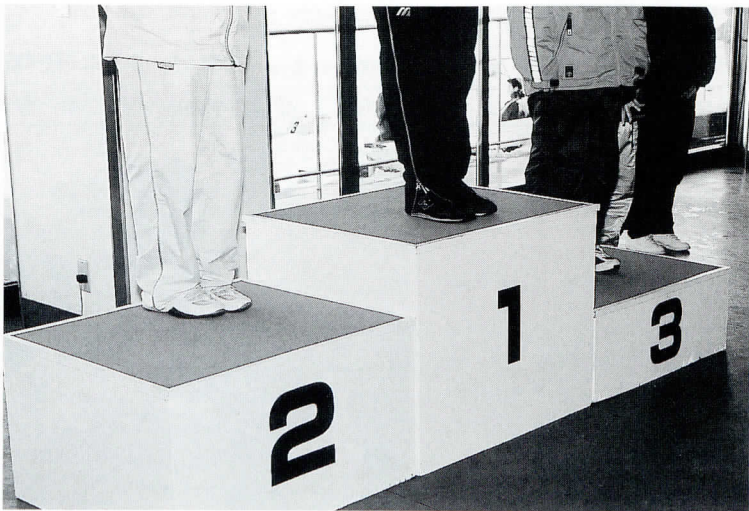
種別	総合得点	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	142.515	西岡和哉	吉田産業	オーバルファイナル	2001/03/17	カルガリー
					2001/03/18	
県高校記録	155.845	藤ヶ森誠司	八戸商業高校	全日本Jr. スプリント	1997/02/10	セイコーオーバル
					1997/02/11	
県中学記録	164.695	杉本太一	明治中学校	青森県Jr. スプリント	2000/01/03	長根リンク
					2000/01/04	

男子（中総合）

種別	総合得点	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	163.141	伊勢秀一	専修大学	全日本 Jr. 総合	1999/01/13	伊香保ハイランド
					1999/01/14	
県高校記録	166.093	坂下努	八戸商業高校	全日本 Jr. 総合	1999/01/13	伊香保ハイランド
					1999/01/14	
県中学記録						

男子（総合）

種別	総合得点	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	155.383	澤口一樹	吉田産業	オーバルファイナル	1999/03/20	カルガリー
					1999/03/21	
県高校記録	169.962	伊勢秀一	百石高校	青森県選手権	1998/02/10	長根リンク
					1998/02/11	
県中学記録	180.056	伊勢俊一	百石中学校	青森県選手権	1994/02/16	長根リンク
					1994/02/17	



本県選手の最高記録

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	42" 80	濱中喜子	光星学院高校	全日本 Jr. 総合	1999/01/13	伊香保ハイランド
県高校記録	42" 80	濱中喜子	光星学院高校	全日本 Jr. 総合	1999/01/13	伊香保ハイランド
県中学記録	45" 17	成田亜希	百石中学校	青森県選手権	1992/02/09	長根リンク

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	1' 25" 05	川尻貴子	吉田産業	全日本実業団	1997/12/14	セイコオーバル
県高校記録	1' 25" 87	濱中喜子	光星学院高校	全日本 Jr. 総合	1999/01/14	伊香保ハイランド
県中学記録	1' 31" 25	遠藤奈々子	下田中学校	全国中学校	2000/02/09	エムウェーブ

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	2' 07" 98	濱中喜子	光星学院高校	全国高校	1999/01/24	エムウェーブ
県高校記録	2' 07" 98	濱中喜子	光星学院高校	全国高校	1999/01/24	エムウェーブ
県中学記録	2' 19" 12	濱中喜子	根城中学校	全国中学校	1996/02/08	郡山

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	4' 26" 35	濱中喜子	光星学院高校	全国高校	1999/01/23	エムウェーブ
県高校記録	4' 26" 35	濱中喜子	光星学院高校	全国高校	1999/01/23	エムウェーブ
県中学記録	4' 56" 50	林陽華	百石中学校	全国中学校	1999/02/06	岩手県営

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	7' 51" 87	栗林しのぶ	日本体育大学	浅間選抜	1999/12/04	浅間国際
県高校記録	8' 16" 41	濱中喜子	光星学院高校	青森県選手権	1998/02/11	長根リンク
県中学記録	8' 28" 11	濱中喜子	根城中学校	青森県選手権	1996/02/16	長根リンク

種別	記録	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県高校記録	2' 56" 63	岡田・藤ヶ森・吉田・川尻	光星学院高校	全国高校	1996/01/23	伊香保ハイランド
県中学記録	3' 31" 24	中野・倉内・馬場・佐々木	百石中学校	青森県中学校	1981/01/21	長根リンク

女子（スプリント総合）					2001/12/11	現在
種 別	総合得点	氏 名	所 属	大 会 名	期 日	開 催 地
県 記 録	176.185	川 尻 貴 子	吉 田 産 業	青森県スプリント	1998/01/11	長 根 リ ン ク
		44" 19-1' 29" 00-43" 81-1' 27" 37			1998/01/12	
県高校記録	178.005	川 尻 貴 子	光 星 学 院 高 校	全日本Jr.スプリント	1995/02/03	岩 手 県 営
		44" 57-1' 29" 51-44" 73-1' 27-90			1995/02/04	
県中学記録	186.665	濱 中 喜 子	根 城 中 学 校	青森県Jr.スプリント	1996/02/13	長 根 リ ン ク
		46" 63-1' 33" 26-47" 00-1' 36" 15			1996/02/14	

種別	総合得点	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	174.322	濱中喜子	光星学院高校	全日本 Jr. 総合	1999/01/13	伊香保ハイランド
			42" 80-2' 09" 32-1' 25" 87-4' 32" 89		1999/01/14	
県高校記録	174.322	濱中喜子	光星学院高校	全日本 Jr. 総合	1999/01/13	伊香保ハイランド
			42" 80-2' 09" 32-1' 25" 87-4' 32-89		1999/01/14	
県中学記録						

種別	総合得点	氏名	所属	大会名	期日	開催地
県記録	186.770	川尻貴子	吉田産業	青森県選手権	1998/02/10	長根リンク
			43" 92-4' 40" 72-2' 15" 29-8' 29" 68		1998/02/11	
県高校記録	188.925	成田亜希	光星学院高校	青森県選手権	1995/02/12	長根リンク
			44" 31-4' 48" 20-2' 17" 01-8' 29-12		1995/02/13	
県中学記録	195.030	濱中喜子	根城中学校	青森県選手権	1996/02/15	長根リンク
			46" 99-5' 01" 10-2' 21" 14-8' 28" 11		1996/02/16	





▲元会長 熊谷義雄氏と
市体協会長 上田善四郎氏



▲故岡岡義雄前理事長 岡沼・松浦氏



▲参与
板橋敏夫氏 理事武山忠雄氏



▲元会長 秋山卓二郎氏



▶編集の中心となった顧問赤澤正敏氏と故沼館健二前会長



▲現会長の神山公佑氏（右から二人目）

▼左から
西館・立花・橋本氏



▲故照井利男氏・故沼館健二氏・矢田氏



▲蜷子・田名部・宮沢・山崎氏

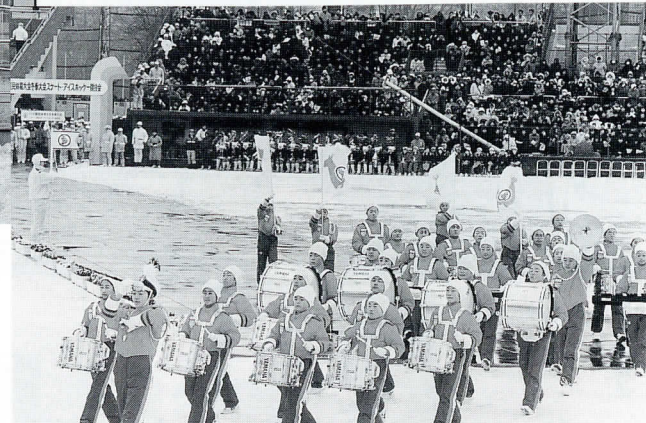
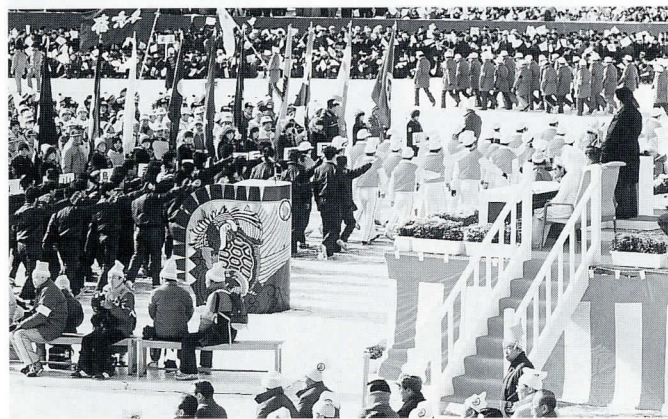
▼故慶長菊也氏と石橋・上村・松本氏



MEMORIES

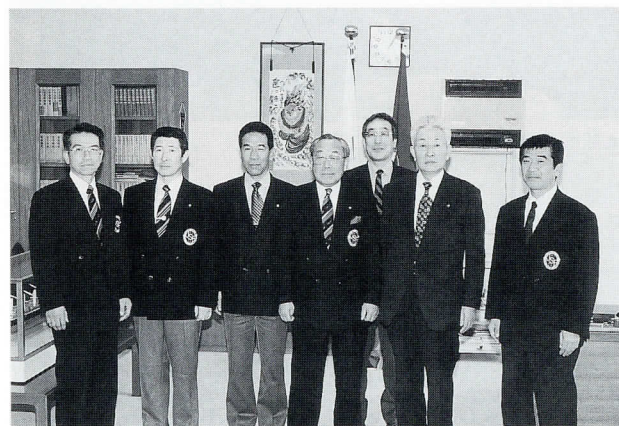
第48回 国民体育大会冬季大会 スケート競技

競技役員団



▲開会式での江南小鼓隊

▼長野五輪へ出発前に中里市長を訪問する沼館会長（中央）



▲世界選手権で

沼館会長を偲ぶ

▼前会長 30年来的友人（ドイツ）スターターと再会
（世界距離別 選手権レセプションで2000. 3. 6）



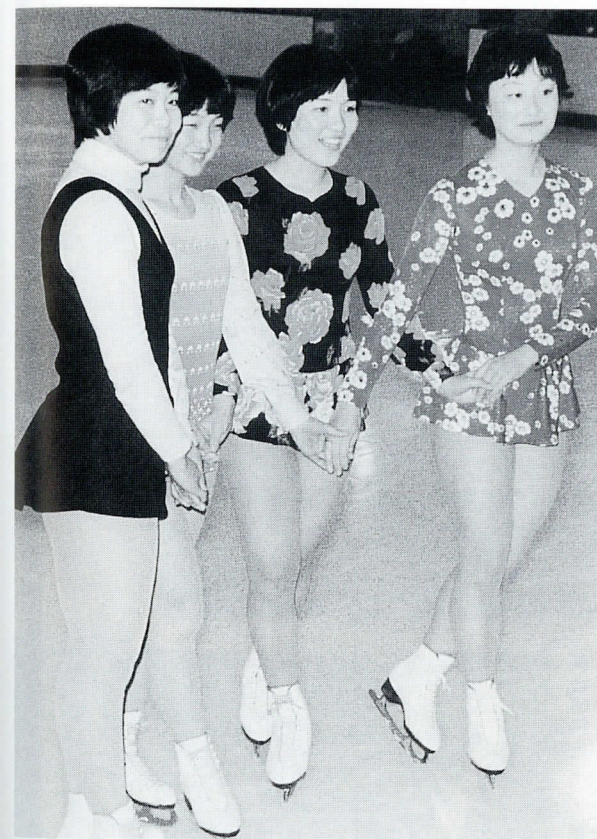
▼1998/ 2 長野五輪 沼館会長と星野仁氏



MEMORIES



▲昭和45年頃の長根Aリンクで



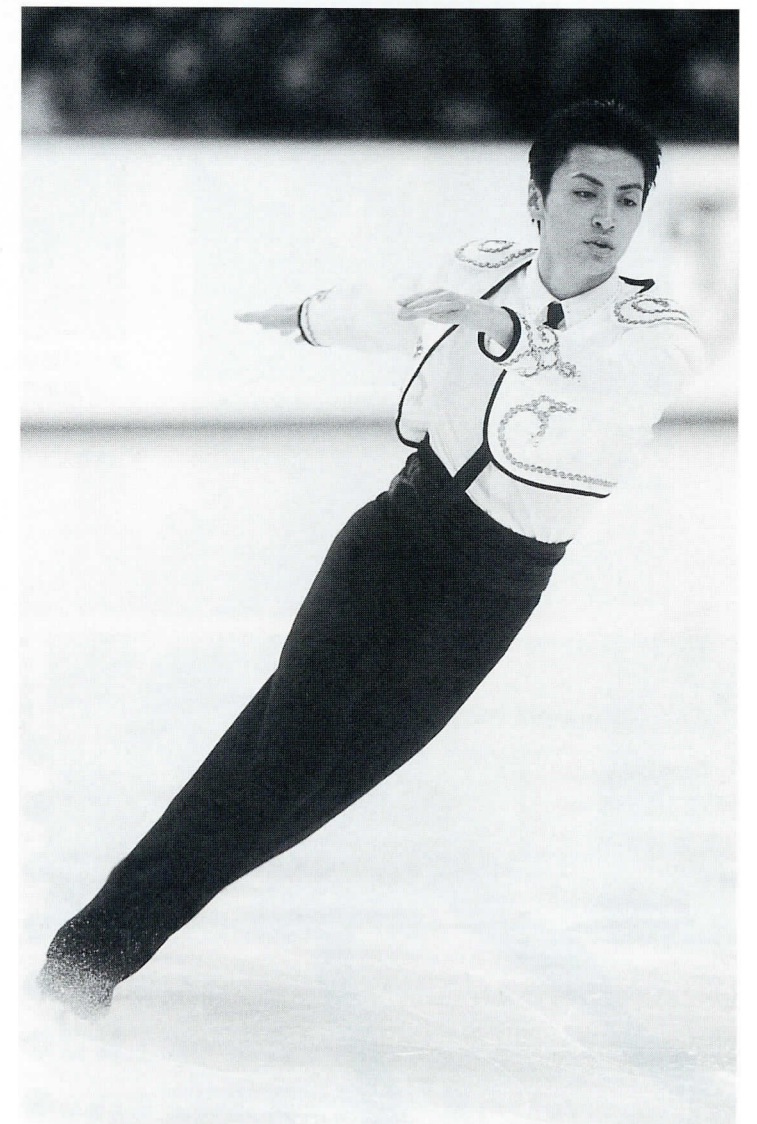
▲昭和51年八戸国体四人娘
左から石橋路子、佐々木継子、小笠原雅子、小坂春代



▲40回国体 規定課題を滑る松沢妙子 昭和60年 1月



松本 栄氏 満90才（卒寿） 祝賀会
伊藤 武氏 スポーツ功労者賞

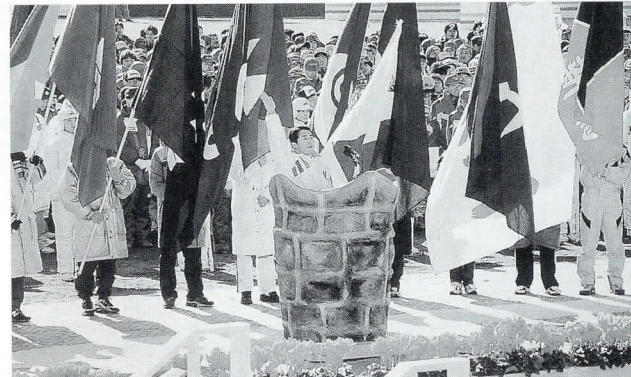
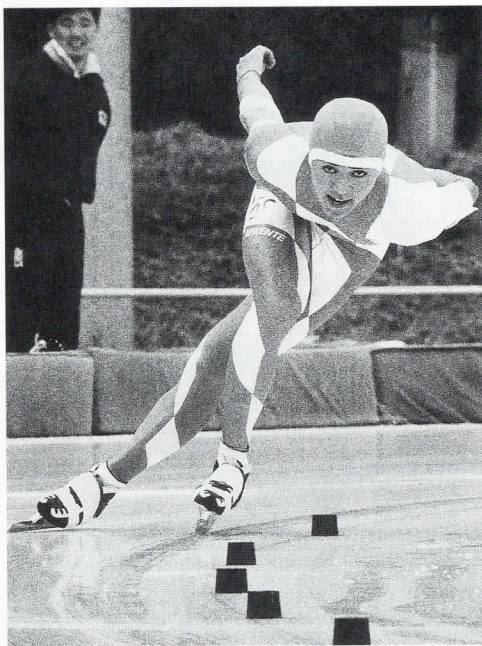


▲田村岳斗

歓迎 第55回 国民体育大会冬季大会 スケート競技会
アイスホッケー



▶小笠原広文



▲八戸国体宣誓
戸田金作

▶金濱康光



▶田名部正人



あの日あの頃



八戸国体（40回 60. 1. 29）競技役員団入場風景

- 特別寄稿70
- 寄稿文72
- 大会開催思い出76
- 海外特別強化合宿88
- 選手思い出93
- 監督・コーチ思い出103
- これまでの各賞受賞者一覧109



青森県スケート連盟元会長
石橋富士保

「想 い 出」

青森県スケート連盟（八戸スケート協会）75年の年輪を刻まれたこと、誠にありがとうございます。八戸市の長根リンクを中心に青森県の顔として、数々の栄光と業績を上げられ、日本のスケート競技の発展に尽された先輩各位に深く敬意を表します。

昭和22年1月戦後の混乱を乗り越って、第1回国民体育大会冬季大会スケート競技会が長根リンクで開催され、その翌23年に青森県スケート連盟が結成されて、青森県体育協会に加盟し全国組織の一員となったときに、私も理事に選任されました。その後理事長を経て昭和48年に青森県アイスホッケー連盟が独立したのに伴い、秋山会長から副会長を命ぜられ、昭和54年に秋山会長が勇退されて会長を務めて参りました。昭和60年次期会長に若林繁先生を選任していただき退任することが出来ましたが、不幸にして先生が病魔に倒れたので、役員の皆さんと相談して又会長をお引き承けした次第です。

平成5年に適任である沼館健二先生に会長をお願いして、漸く退任させて貰いました。長い間役員として皆さんのお世話になり、又選手諸君とともに楽しく過ごさせていたゞきありがとうございました。

有名な長根リンクも環境の変化で、毎年思うように結氷せず、滑走は勿論各種大会が全く出来ない状態となり、連盟として止むなく氷を求めて転々とした運営が続く苦難の時代がありましたが、関係者のご努力により昭和44年12月10日に長根スピードリンクのパイピング化が完成し、スケートのメッカと呼ばれることになったことは誠に喜ばしいことでありました。

昭和57年日光国体アイスホッケー競技で宿敵北海道を破り、1位となりトロフィーの授与を代表で受けたこと、又平成2年盛岡国体でスケート競技で2位、天皇杯で3位となったこと等々、競技上の感激がいくつもあって、忘れられない思い出が沢山あります。

平成13年11月1日 記

長根リンクの思い出

●副会長

伊藤 武

私がスケート連盟の一員としてフィギュアスケートに関係して、もう約40年となりますが、全く月日の経つのは早いものだと思います。

その始まりは、昭和37年第17回国民体育大会八戸大会のフィギュア計算係として、八戸商業高校珠算部の女生徒を引率して、お手伝いしたのがきっかけでした。

「当時のフィギュア競技は、コンパルソリーとフリーとがあり、コンパルソリーにはその種目により難易度に応じた係数が定められ、得点に難易係数をかけ、2課題の合計点で席次が与えられる仕組みでした。例を挙げると、カーブエイトのフォワードは係数1で、バックは係数2であり、ループはフォワードが係数3で、バックは係数4でした。このようなことは、今ではフィギュアの関係者でも知らない人が多いほど古い規則となりました。これが契機となって、松本先生を長として、高橋富士男さんと私の3人がフィギュア部門の役員として登録されました。」

選手のいないフィギュアの役員として過ごすこと4年にして、昭和41年1月長根Aリンクのパイピングが完成し、同年2月には八戸フィギュア愛好会が松本（当時久保栄）先生を会長として発足し、フィギュアの指導が始まりました。翌年から本格的な活動が行われて、参加会員も100名を超えて盛況となり、私は専ら初心者指導

に当り、両手間隔で3列位に並ばせて、用意の姿勢をとらせ、笛の合図でスタートさせ、折り返しの方では八田さんや赤坂先生の大声の注意が聞こえてくるというような練習風景であったと思います。その頃、強く印象に残っていることがあります。それはAリンクで行われたデモンストレーションです。どのようないきさつがあったかは覚えておりませんが、秋田県フィギュア審判の菅原さんの双子の兄弟（小学校2年位）が、カッコーワルツなどポピュラーな曲にのって1分間位それぞれ踊ってフリーの演技をしました。それは何とも可愛らしく技術的にはまだ幼稚なものではありましたが、吾々に強烈な刺激を与えました。これならやれるという思いと、このタイプの練習が大切なんだと教えられました。その後は、練習形式も前半はコンパル（図形）で、後半はフリー（音楽）が定着したわけです。

昭和45年12月には、第26回八戸国民体育大会にフィギュア選手を是非参加させようということになり、東京から佐藤信夫コーチを招き、工藤賀子（八東高）岩崎百合子（白菊高）の2人を特訓してもらうことになりました。早朝と夕方の1日2回、5日間の練習でしたが、私は早朝練習につきあいました。それはなかなか厳しい練習で、毎回2人のどちらかが泣き出すほどでした。翌昭和46年1月には2人の頑張りや佐藤コーチのおかげで、無事に第26回八戸国体フィギュア少年女子部門に青森県代表として参加することができました。

この国体開催を記念して、市民スケート大会が企画されたり、根城中・第二中・小中野中など中学校にフィギュアクラブができて、初めて中体連大会にフィギュア競技が設けられ、学校対抗の得点稼ぎのために、よちよち歩きの者まで、強引に出されたりしておりました。



その後昭和47年1月に、第1回青森県フィギュア選手権大会が開催され、伊倉紀子（八東高）がチャンピオンとなりました。この選手はフィギュア関係者待望のバッチテスト3級で、彼女のアクセルジャンプをみて頼もしく思ったものでした。当時は国体もインターハイも3級が出場の基準となっていました。この時には小学生・中学生とも記録はありません。第2回選手権大会からは、高校・中学・小学校のチャンピオンが決定し記録があります。以後第7回大会まではこの形式が続き第8回県選手権大会からシニアとジュニアの2部門となり、小学校は第8回小学校大会として独立して行われ、現在まで回を重ねてきているわけです。

その後男子の選手が出てきましたが、数年間は女子の中で対等に競技させたものです。それから男子部門を設け、更に細分化されて現在に至っております。

男子の選手といえば、青森県フィギュア界にとって特筆されるべき人がおります。それは小学生をつれて各種大会を回られた松本先生が、「本番のジャンプで絶対に転ばない強い選手がいる。」といつも感心して話していた村田光弘君です。彼は全国中学校やインターハイなどで華々しい活躍をし、遂にはオリンピック選手となり、現在はプロとして活躍しております。

「それから昭和52年第32回八戸国体では、私は放送主任として、選手の紹介・得点の読み上げ、競技の進行などアナウンサーとして働きました。しかしその後、どこかの大会もアナウンサーは女子だけとなりました。」

思えば一昨年、八田芳朗氏・赤坂茂先生と続いて亡くなられ、長い間公私共に世話になったことを心から感謝し、連盟フィギュア部として盛花をお供えし、悲しいお別れをしました。ところが昨年夏には、あの元気な沼

館会長が突然亡くなられ、一報を受けた時は、本当に信じられませんでした。なにせ長根リンク管理棟と一緒に会議をして、1ヶ月と経っていなかったのです。

諸行無常・実にこの世の儚さを思い知らされ、感慨無量であります。

合掌・御冥福をお祈りします。

終りに、フィギュア愛好会発足以来続いている長根リンクでのフィギュア練習会の練習を、今シーズンも元気な子供たちと見続けられることに感謝し、筆をおかせて戴きます。

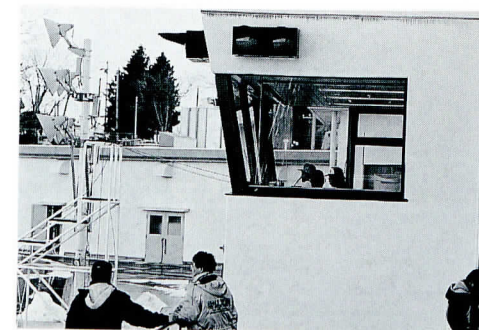
ショートトラック 第二黎明期の頃の思い出

●スピード副委員長

金子 晋三

青森県で最初にショートトラックで競技が行われたのは、昭和42年のシーズンであったと先輩方から聞いております。400mリンクはまだ天然氷の時で、今では氷のなくなった、通称Aリンクのパイピング工事が完成したのを記念して競技を行ったということでした。参加選手は全員アウトトラック用のスケートで試合に臨んだということです。今から考えると当時の選手はすごいテクニックを持っていたものだと感心いたします。翌年の昭和44年には待望の400mリンクのパイピング工事が完成したので、ホッケーリンクでの競技はこれ以降は中断していたようでした。

昭和63年頃から日本スケート連盟の会議の中に、ショー



トトラック競技をスケート国体に取り入れたいという話が出ていたようです。もしショートトラック競技が国体種目になった場合、当時、青森県にはショートトラック競技で戦える選手が1人もいないという事態に陥るといふ心配がありました。どういう経緯で私がショート担当になったのかわかりませんが、平成2年のシーズンが終わるとき、沼館健二先生から「金子、おまえがショートを担当して、まずショートトラックの普及をしろ。」というお言葉があり、私がその役目をするようになりました。ちょうど南部山アイスアリーナがその年の3月末に仮オープンし、通年で練習する環境ができたのも一つのチャンスになりました。

どうせやるなら普及だけでなく、強化も目的にしたらどうだろうということで、矢田邦子さん、菊池秀司さん、河原木浩さん、中田敏彦さん、三浦清隆さんら、当時、成年B・Cの国体選手に指導の役目をお願いし、小学生・中学生のスケート部員に声をかけ、八戸スケートクラブという学校体育とは別のクラブをつくりました。この八戸スケートクラブの選手を中心に、夏から氷の上で練習することになりました。当時の選手で成年までスケートを続けた選手には、慶長文子、河原木美恵子、栗林しのぶ、金沢諭の各選手の名前が思い出されます。その後、このクラブから育った選手がインターハイ、インカレ、国体等の大会で活躍したことは記憶に残っていることと思います。

練習だけではなく、試合をしなければ選手の励みにならないので、何とか試合をしようじゃないかということになりました。現理事長の山口広道さんにこのことを相談したところ、「青少年の健全育成を図る」ということで八戸城北ライオンズクラブが全面的にバックアップし

て下さることになりました。また、三浦清隆さんが奔走し、練習や試合で使うヘルメットを寄贈して下さいるスポンサーを見つけて下さったこともショートの試合開催の引き金になりました。

第1回八戸城北ライオンズクラブ杯争奪ショートトラック競技会は平成2年11月3日、南部山アイスアリーナで行われました。この第1回大会では、ショートトラック用の安全マットがまだなく、長根リンクで使っていた古いコーナーマットを2段に積み重ねて使いました。安全マットの運搬には、スケートに深い理解のある八戸きのこ社長坂上征接さんから会社のトラックをお借りし、夏には長根リンクから南部山へ、11月の末には南部山から長根リンクへと運んだものでした。選手もショートトラック用のスケートがない人は、アウトトラック用のスケートに、ロックだけはショートトラックのロックをつけて試合に出ました。このアイディアは、神奈川相模原クラブの今井三郎さんから教えて頂いたものです。

第1回青森県ショートトラックスピードスケート選手権大会は平成3年3月23日～24日新井田インドアリンクで行われました。この大会は、小学生から大学生まで同じカテゴリーで行いました。何しろ参加選手が少なかったのです。男子14名、女子7名。(今であれば、あちこちからお叱りを頂戴したことでしょう。)当時の言い訳は、狭いリンクで滑るテクニックがなければ、小学生も大人も同じだからということでした。この大会には、河原木徳友、河村育麻、小笠原秀郎、河原木智幸、佐々木謙二の男子選手が参加。女子では田畑佐知子、斉藤あかね、慶長文子の選手の名前がプログロムに見られます。

ショートトラックにかかわって手こずったことは、ショート用の安全マットを八戸市から買っていただくことでし



た。市に要望書を提出して買っていただいたわけですが、けっして安い買い物ではないので、必要性を強調するのに、相当苦しい言い訳をしました。市でも安全マットの必要性を認め購入して下さいました。安全マットの搬入・検収の時、東京女子体育大学スケート部監督の富田先生ご夫妻がメーカーの方に同行され、マットの使用法等をご指導下さいました。このときは何と言っているかわからないほど嬉しかったこと、ただ、本物のマットを運んだとき、やたらに重かったこと、これを練習の度に入れ入れるのは小・中学生には重すぎるなァと感じたことを思い出します。このときはマットを買っていただいた嬉しさばかりで、その後に大変なことが起こることは想像することができませんでした。

安全マットを買っていただいた後、平成5年に八戸冬季スケート国体が開催されました。国体の準備も万端遺漏なく進み、開会式を待つだけになったある日、当時の富岡義雄理事長から大変なことになった、と言われました。

「あんだがショート用の安全マット買ってけろって要望書出したべ。」

「要望書さあんだウソ書いだべ。それで教育委員会だの、市役所の国体事務局がカンカンになってら。」

「開会式が終わってから、ショートトラックの模擬レースでもエキシビジョンでも、何でもいながら長根のホッケーリンクでやれって頭がら湯気だしてら、大変だよ、大ごとになってらよ。」

今思い出しても富岡さんには大変なご迷惑をお掛けしたものと、ひたすらお詫びするだけです。このことがなければ、まだまだご健在で活躍されていたことでしょう。

青森県のショートトラックの発展には、山梨学院大学

スケート部監督の川上隆史先生のお力を忘れてはならないと思います。川上先生には2年間に渡って八戸に来ていただきました。1年目は、南部山のリンクが出来たことで、夏に山梨学院大学の学生と一緒に合宿練習をして下さいました。川上先生は自らリンクに立たれ、コーナークワーク技術、エッジ・ロックの使い方等、八戸の選手に懇切丁寧な指導をして下さいました。また、夜には私たちのために、ショートトラック競技のルール講習会の講師もやって下さいました。

2年目は八戸東アイスアリーナもオープンしており、今度はそちらで合宿を行いました。2年目の時も、八戸プラザホテルでショートトラック競技のルール講習会をやって頂きました。この2回に渡る講習会のおかげで、アウトトラックのルールとショートトラックのルールの違いが、だいぶ理解できるようになりました。

ショートトラック用の安全マットが新井田のリンクに設置されてから、東北ショートトラックの大会も是非やりたい、という機運が出てきました。あちこちでやると言っても大変なので、八戸でやれということになり、何とか開催までに漕ぎ着けました。東北大会の開催に漕ぎ着けるまでは、宮城県スケート連盟の佐々木遵先生、山形県に加藤氏、岩手県スケート連盟会長工藤祐信先生、松橋浩幸氏、熊谷元氏、後には秋田県スケート連盟の宮崎金一氏のご理解と多大な御協力があったことを申し上げて、ショートトラック競技第2黎明期の回想とさせて頂きます。



大会開催思い出

思い出の記

●フィギュア委員長
高橋富士男

子供の頃、冬は長根リンクでスケート遊びをしていた。「金ゲタ」、「コーラスケート」、タビにサナダひもでむすび滑っていた。八商に入って父から革靴にスピードエッジがついたスケート買ってもらった時はうれしかった。

26年第1回インターハイは長野県千野市で行われた。八戸から多くの選手が蓼科高原に合宿し氷をもとめて湖で練習した楽しい思い出だ。大会は暖気の為、全競技が出来なかったと思う。小生500mに出場した。国体は26年27年28年出場した。社会人になってから役員として活動していた。37年頃の国体前の総会に会長の石橋富士保氏、沼館健二氏立合で「高橋君、フィギュアスケートに手伝ってくれないか」と云われた。理由は「フィギュアを強化して北海道、長野県に国体で勝つため」と云われた。フィギュアの若返りをするということでもあった。小生、フィギュアについて見たこともなく、どんな競技かも知らなかった。まず国体のお手伝いをして大会運営について、競技方法について勉強した。

選手作りは大変であった。少しは滑べるがフィギュアスケートを見たことがない女子高校生にコンパルソリスケートの特訓、寒風のアウトドアに除雪しながら諸先輩の松本氏、八田氏らの指導である。ホッケー、スピードの大先輩達が呼んでくれた佐藤信夫コーチ、1泊2日の日程で手を取り足を取りの指導であった。これがフィギュ

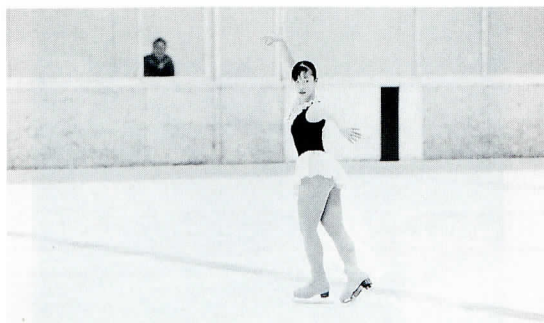
アスケートの基礎となった。

選手強化は日大OBの照井、富岡さんの力で日大鶴ヶ岡高校フィギュア監督菊地次郎氏の指導を受けた。東京で春休み1週間、夏休み2週間位の合宿を2～3年続けた。強化費が少ないのでアパートを借り自炊生活しながら1日6～8時間の練習をした。又、市の有力者の協力で江古田の学生寮を利用して強化合宿の基礎を作った選手は小笠原、小坂、佐々木等。

審判について、小生フィギュアスケートをやったことがないので「コンパルソリ」の課題のむずかしさが理解出来ない。又フリースケーティングの「テクニカルメリット」「プレゼンテーション」の基準がわからないことでもやんだ。

初めて全国大会の審判に挑戦したのは第2回全国中学校札幌大会で冷汗の毎日であった。そこで勉強したことが自信となり、国体審判常連となった。楽しくジャッジ出来るようになった、近年他県の若い審判が多くなって来た。本県の審判も全国大会に積極的に参加して欲しい。審判は多くの経験とルールの勉強が大切である。フィギュアスケートは長い間ホッケー、スピードから見ればお荷物的に思われていたが10数年前から国体の総合点で毎年活躍している。県内大会は八戸だけでなく青森市、三沢市でも行っている。これはフィギュア人口を多くする為の企画であります。各リンクでフィギュアスケート教室を開き小さい時から遊びの中でスケートを身につけたい。特に男子スケーターを多く作り出したい。全日本選手権出場選手を作るには、一年中練習出来るインドアリンクがぜひ必要であります。

(日本スケート連盟評議員(フィギュア部代表))
日本スケート連盟フィギュア委員



大会開催思い出

国体

●レフェリー

林 弘

第55回国体のレフェリーという重責に長い間、気の重い日が続きましたが、開会式が終わりレースに入ると落ち着きが戻りマイペースで競技進行出来たと思います。

5日間の日程の中で一番困ったのは、氷が溶ける事でしたが国体の競技はタイムを競うのではなく着順と責任先頭の勝負なので選手に危険がなければ同じ条件だという考えでタイムテーブル通り進行しました。

レースで一番印象に残っているのは、成年男子10000m予選で12名中11名を2周遅れの失格にしたという前代未聞のレースでした。この種目は、次回からは無くなる種目なので失格した選手達は気の毒でした。リレーなど失格が多かったが全体的には抗議は少なく、記者達に質問される事もなく問題の少ない大会でした。

後で考えてみると頼りないレフェリーなので各部署の主任を中心に競技役員全員が一致団結して頑張ったから大成功に終わった大会だと思います。競技役員にもその他の関係者にも心から感謝しています。

(スピード委員長)



1998 全日本ジュニア

●レフェリー

橋本 恭二

八戸市で第1回大会の産声をあげた全日本ジュニアスピードスケート選手権大会が6年ぶりに八戸市開催となった。

天気は前日から荒れ模様で心配したが、予想通り朝から小雪がちらつき始めた。

最初の種目である男女の500mは大会新記録も出るなど何とか順調に進行できたが、スプリントの1000mが後半になると降雪が激しく暗くなってきた。照明をつけてもらい役員や補助員で除雪しながら続行したが、もう限界と思った。風も出てきて中断を余儀なくされたのが2時30分。

アシレフの林さんと相談後、コミテイの工藤祐信先生から「レフェリーの判断でいい」との助言も得て、1時間様子を見ることにした。競技役員を集めて天気情報を報告して今後の進め方を確認し、上空を見上げて待つこととした。じたばたしてもどうにもならないのでひとまずコーヒープレークを決め込む。

西の空にやや明るさが見えてきたところで整氷員との打合せ。「雪がやんでから30分あれば競技可能」とのことで、4時に再開にこぎつけることができてほっとしたのを覚えている。

翌日は前日の荒天がうそのような快晴に恵まれて無事

大会開催思い出

に大会を終えた。

国体その他かなりの数の全国大会の審判は経験したが、初めてレフェリーという大役、いろいろ強烈な印象を残して終わった。
(副理事長)

1998 全日本選手権

●レフェリー

橋本 恭二

第67回全日本スピードスケート選手権大会は好天に恵まれて、リンクコンディションも最高だった。

長根リンクは記録の出ないリンクとの悪評があったのだが、どうしてどうして、出るは出るはの記録ラッシュの大会だった。

男女500mを除く中長距離6種目に48ものリンクレコードを数えた。

女子1500m以上3種目、25人もの選手が、特に5000m決勝進出の12名全員がリンクレコードだった。

男子も、1500mと5000mでそれぞれ10人、10000mでも3人が記録するなど、各選手のレベルアップはもちろんのこと、「滑る」リンクの印象を強くした。これは大会期間中風速1メートル以下に、気温4度前後と安定していたのに加え整氷員の皆さんの努力で好コンディションが保たれたものだ。

地元吉田産業から石岡、澤口両選手が出場して健闘したが、世界選手権代表の3位までは届かず、4位と5位に甘んじ残念だった。

大会中、国内外の情報に長じている、吉田産業の戸田監督から、競技運営にかかわる各監督コーチの声が逐一耳に入り、参考にする点多々あって感謝することしきりだった。

亀岡寛治、盛田征甫両コミテীর感想は「好コンディションがいい記録を生み、競技役員のチームワークが大会を成功させた。」とお誉めの言葉があった。

「青ス連万歳」と叫びたかった。
(副理事長)



大会開催思い出

インターハイ開催

●事務局

田名部和彦

八戸で開催されたインターハイは昭和27年度の第2回大会を皮切りに、通算で10回（うち分離開催は2回）に上る。国体も数多く開催されており、まさしく「氷都八戸」と呼ぶにふさわしい。開催にあたっては、歴代の県高体連スケート部長及びスケート委員長のご尽力があったことはいうまでもないが、特に、スケート委員長を長年勤められた故沼館先生は、本県スケート界のみならず、全国高体連スケート専門部の発展にも大きく寄与された。先生が退職の年のインターハイは山梨で開催された。スターター用の赤いユニフォームを着て、ピストルを高く掲げているところを写真に撮り、退職記念に贈呈させていただいたところ、たいへん喜んでおられた姿が今でも目に浮かぶ。一方、本県選手の活躍をみると、後にカルガリーのオリンピックに出場した金濱選手を始め、インターハイの入賞者は数多くいる。最後に本県開催11回目となる、平成16年度のインターハイが、八戸と三沢市で開催されることが決定している。

全日本実業団

●レフェリー

林 弘

平成8年12月に八戸で第36回全日本実業団の大会が開催されました。スピード委員長になって初の全国大会であり、経験のない大会事務局やレフェリーの重責で何ヶ月も前から不安と自信の無さで名誉とか誇りなどは全然感じなかった様に思います。

開会式中里市長のあいさつの後、緊張してレフェリー指示で何を話したのか覚えていませんがとにかく一生懸命やりますと選手宣誓みたいな事を言ったと思います。

監督会議に入ってから落ち着いたきて、王子製紙の監督とエントリーの事で多少やりとりがありましたが何とか納めた様に思います。翌日からレースに入りましたが気温が高いのとリンクの冷凍力が弱いので氷の表面が乾かずスタートの時間を決めるのに苦労しました。

2日目は男女3000mとリレーでは氷が濡れたままレースを強行しましたが、男女3000mとで4つのリンクレコードが生まれました。何より良かったと思うのは地元の吉田産業チームが2年連続で男子総合優勝した事です。

(スピード委員長)



あの日あの頃
大会開催思い出

インカレ

●レフェリー

木村 三男

氷都八戸というネーミングは、八戸の厳しい冬を象徴することばです。その厳しい気象条件があるからこそ、早くから天然氷のアウトドアリンクができ、長根から数々の選手が育っていきました。しかし、アウトドアリンクゆえの苦労は、現在も続いております。

私が、レフェリーを務めた1996年のインカレも、八戸の厳しい気象条件に振り回された大会でした。1日目は雨。2日目は風。3日目は雪。この大会を目指し、練習を重ねてきた選手たちの努力を無駄にするわけにいきません。何とかして氷を滑走できる状態にしたい、記録は出ないだろうがレースは実施したいという気持ちでいっぱいでした。レフェリーの役目をそっちのけで本部と整氷作業の間を行き来していたため、どんな選手が出場し、どんな記録が残ったかは正直なところ、ほとんど記憶に残っておりません。八戸にもインドアスピードリンクがあればなど、冬を迎えるたびに思っております。

(副理事長)



東北大会と私の思い出

●競技部長

小向 力

昭和53年12月の第8回東北大会の思い出を紹介したい。百石高校に中山富男選手がいた。抜群の脚力とバランスの取れた体。短距離も長距離も滑る彼の力には驚かされた。

この大会のリレーで彼は第一カーブ出口で転倒しフェンスに激突した。ドスンという大きな音である。骨折したなと思い駆け寄る途中に彼は起き上がった。バトンを離すことなく立ち上がり、再スタートしたのである。次の走者へバトンをつなぐ事に集中し、レースを途中で止めることもなく滑った事は忘れられない思い出である。中山選手は29歳事故により若くして青春の1ページを閉じてしまった。故人となった彼から学んだことは、力を出し切り悔いが残らないようにすること。また、レースの結果が人生まで変えてしまう影響がある事である。

スケートをとおして多くの選手・関係者との出会いが私の財産となっており、自分の人生に大いに役立っていることに感謝したい。

あの日あの頃
大会開催思い出

栃木との交歓会

●副会長

山田 清

小雪さらさら白山嵐

長根リンクをスケートで行けば
踊る姿に月の影

“人並みの練習では、人並みにしかなれない” 長根リンクへ行くたびに、浅坂先輩の言葉が今でも心に残っています。

指導者の育成と、小・中学生のスケート普及と強化を目標に頑張った昭和50年以降…

青森県対栃木県小学生スピードスケート交歓会、第1回が昭和50年1月26日長根リンクで開催されました。昭和52年には、中学生も参加し、第6回まで続きました。指導者では、現在でも、橋本恭二、南館義美氏が活躍し事業推進に尽力してくれています。

代表選手では、戸田、村崎、村山、小軽米、尾崎元子さん等がいます。スケートに打ち込んで得た忍耐力、精神力が貴重な財産になると信じています。

人生では何度か大きな壁にぶつかるが、挑戦する意欲を持ち続けたいものです。



『ABA杯開催経緯について』

●理事

船田 和栄

長年の懸案であった「小学校低学年の選手育成」についてであった、普及部担当の橋本恭二さんはじめ各委員方々が種々検討中であり、照井利男さんから起爆剤として「冠大会ではどうか」と競技役員室で提案されたと聞きました。その時はあまり気にも留めておりませんでした。他の氷上競技団体は既に冠大会を開催しており、本県スピード競技だけが遅れをとっているとの理由もあり、大会の後援とテレビ放映して頂くということでチビッコ選手達が興味を示し、こちらに目を向けてくれることを望んだ構想であり、ところがその作業が既に進んでおり、その手順として青森朝日放送にお願いするにあたり担当者を紹介して欲しい旨、照井さんより要請されお手伝いすることになりました。当時私が勤務する会社で開局当初よりCM放送をお願いしていた関係上、局の担当者に事情を説明し、お願いしたところご検討下さるとのよいご返事を頂いた経緯がありました。将来へのスケーター育成に寄せる連盟関係者の熱意をご理解頂き、早速後援をお引き受け下さるとのご返事が得られ安堵したのを思い出します。

(理事)

あの日あの頃
大会開催思い出

苦小牧の胸を借りて

●普及部長

橋本 恭二

強い苦小牧の胸を借りて、追い付け追い越せを目標に発足したのが、青森県対苦小牧さわやかスポ少スピードスケート交歓会である。

故富岡義雄氏（当時理事長）と岡沼宏洲氏（現監事）が苦小牧の関係者と話をし、具体的な計画は普及部が進めることになった。

平成3年秋に計画案を作成して苦小牧市を訪れ、早期開催に向けて協議をした。苦小牧スケート連盟の指導委員長である小野寺利光先生をはじめ、金子篤博、吉村勇一、山本雅彦、目黒ひとみ等諸氏と実施計画を検討して、翌年八戸市で第1回の開催となった。

競技はわれわれの予想したとおり、500mも1000mも技術・体力に勝る苦小牧の圧倒的な強さを目の当たりにした。

しかし、競技中や交歓夕食会では親密な話し合いの中で、選手・指導者・保護者とも普及や強化について熱心な話し合いがもたれた。

郷土芸能の「えんぶり」を観賞した後、フェリー埠頭で見送りながら「始めてよかった。有意義だった。」という実感でいっぱいになったのを思い出す。

スポーツ少年団の競技会では、苦小牧に行きたいとか日光に行きたいと励みにしているのもうなずける。



昨年の10回大会を苦小牧で迎え、確実に本県選手のレベルアップが認められたし、この大会経験者から世界の舞台に飛び出した選手もいて、その成果を実感している。

全国中学校スケート大会開催についての思い出

●元理事

沼田 嘉雄

日本スケート連盟と全国中学校体育連盟が共同通信社の後援を得て、第1回全国中学校スケート大会（以後、全中スケート大会）を開催するための準備委員会を橋本甲四郎理事を委員長として発足し、当初は北海道、長野県のいずれかに開催を意図したが、いずれも条件（教育課程問題、3部門同時開催）を満たせず、青森県スケート連盟と県中体連が大会開催を依頼され関係機関との了承を得て開催準備に入ったが、大会迄に1年間の準備期間もなく、相当に急迫したスケジュールの中で日程、開催要項〔参加選手（校）の申し込み手順、各部門選手（チーム）の参加基準〕など文部省・全中・地元関係者との最終準備委員会でも話し合いが難行したが、共に大会開催に向けての達成意欲があっただけに歩み寄りが見られて合意した。その後大会準備も軌道にのり休暇返上での作業が続き相当に困難を極めたが、照井理事長・富岡スピード委員長・風張アイスホッケー連盟理事長（いずれも故人）と松本先生その他方々のご援助・ご助言のおかげで、昭和56年2月3日～5日迄の日程で手づくり

あの日あの頃
大会開催思い出

であります。第1回全中スケート大会が開催され氷都八戸の名を更に高めました。

全中スケート大会は本年度で第22回を迎えますが、これ迄の大会開催には多くの支障がありましたが、関係各位の英知と熱意・努力で困難を打開し、現在に至っております。

今後、全中スケート大会の更なる充実と創立75周年を迎えた青森県スケート連盟の益々のご発展をお祈りいたします。

県スポ少

●普及副部長

南舘 義孝

「ゴートゥー、ザ、スタート。レディー。」

小学生の選手たちがスタートの構えをしています。みんな緊張して、足がカタカタ震え、中には、スケートが滑り出し、スタートラインからスケートが出そうな選手もいます。

第22回青森県スポーツ少年団フェスティバルスケート競技会が開催されました。この大会は、小学生にとってスケートシーズン最初の公式競技会。また、この大会の優秀選手は、対栃木県・対苦小牧の交歓競技会に推薦されるとあって、選手のみならず、監督、保護者も気合いを入れてくる大会でもあります。

この競技会は、平成12年度で第22回を迎えましたが、



第1回・第2回大会に比べ、参加選手が3分の1に減っています。

私は、この長根リンクに、たくさんのチビっ子スケーターが楽しく滑走することを切望しています。また指導者の私たちは、たくさんのスケーターが増えるような「種まき」をしなければならないと痛切に感じています。

子どもたちの競技会

●普及部

橋本 恭二

スケートまつり、そして南部地区500m大会、そして青森県小学生スピードスケート500m大会、今年度から青森県スピードスケート小学生大会に・・・発展。

氷都八戸を象徴するように、昭和20年代後半から「スケート祭り」が行われ、小学生のレースも行われていた。

地元紙のデーリー東北社が主になって、観光協会や教育委員会が関わって開催されてきたようだ。

その後、参加選手が八戸市を中心に三戸郡と上北郡が主なことから、「南部地区小学生500m大会」となって、市の小学校体育研究会が主管した時期もあった。

青森市に県営スケート場ができてから、青森市からも参加したいという声も出たので、青森県スケート連盟が主催して、デーリー東北の全面的な後援で「青森県小学生500m大会」となった。ここまでは参加資格は小学4年生からで部員の多い学校では出場選手が制限されたた

あの日あの頃
大会開催思い出

め、せっかく練習してきても参加できなくて泣いた子もいたと聞く。しかしここ10年来、スケート人口の激減から、普及強化策の見直しが必要になり、参加資格を1年生からと広げようとの声が大きくなり、関係者で協議して要項の改正を見た。種目は1・2年生が300m、3・4年500m、5・6年は500mか1000mの選択制に幅を広げるようになった。

そしてデーリー東北さんの全面のご後援による、「青森県スピードスケート小学生大会」に生まれ変わった。多くの子にレースの機会を与えることでスケート人口の回復を願うのは、連盟のみならず関係者みな同じで、その成果が期待される場所だ。

また小学生のスケート再興に向けて次のような施策を実施している。

- ・チビッコ集まれ！みんなですべろう
(小学校1年生～3年生-200mと300m)
- ・ABA杯長根ゴールドスプリント競技会
(小学生D級以上～300mと500m 2回ずつ)
- ・記録会(パジャテスト) 500m、1000m、1500m
- ・冬のスピードスケート教室(シーズン中15回程度)
- ・栃木県・北海道苫小牧との交歓競技会



地域に支えられた
スケートの思い出

●百石町スケート協会長

佐々木四樓

上北地方の東部気候風土(しばれる)に適応させ、八戸市に対抗できるようにスケートが百石町に定着してきたところ、今を去る28年前の昭和48年8月10日、初代会長の故三浦安男氏が活躍中に、町スケート協会の会則がスケート愛好者によって提案され、役員及び競技者と地域(保護者)の方々が意気統合し当協会が発足され、同年9月に県スケート連盟に加盟しました。

設立当時は、百石中学校の上谷地(上堤と下堤)の、かんがい用水池の沼に天然スケートリンクをつくり、百石中学校スケート部への指導が主でした。指導者と選手は下堤の400mコースづくりで、夏のカヤ刈りから始まって冬季シーズンになると、除雪と水まきがスケート練習の3分の2を占めるという寒気との戦いでした。長い年月が功を奏し、平成4・5年度の全中スケート競技会で百石中学校が2年連続制覇を成し遂げました。現在は、天然リンクが凍結せず八戸市にお世話になり練習を続けております。

あの日あの頃
大会開催思い出

リンク計測並びに
コース設定について

●監事

田名部晃一

青森県スケート連盟75周年衷心よりおめでとうございます。

長根リンクは皆様ご存じの通り、以前は天然リンクで、大会の度トラックを測定し証明書の提出が義務付けられておりました。

現在各地のリンクは殆んど人工整氷スピードリンクの時代で、リンクの改造がなければ1度日本スケート連盟に登録するだけでよいことに改められている。この点は天然リンクとパイピングリンクの違いであります。

しかし、コースの設定は今も以前も変わりありません。この作業には大勢の方々のご協力を得なければ、この設定に長時間かかり、競技がスムーズに行われないことになります。

コースの設定に要する時間は最低4時間から5時間かゝるため、今後設定方法を皆様と一緒に考え、時間の短縮が計られるよう、知恵を拝借したいものです。

最後に皆様方の連盟に対する貢献と当連盟が益々飛躍されることを願ってやみません。



長野オリンピック参加

●理事長

山口 広道

1998年2月7日、第18回オリンピック冬季競技大会が長野市を主会場に16日間にわたり熱戦が展開された、その感動はいまだに冷めやらぬところでございます。

この長野オリンピックは、参加国、役員選手共に史上最大規模の大会となったこともさることながら、多くの子どもの参加、又話題となった3万人以上ものボランティア、このボランティアの貢献がなくては成功はあり得なかったとのことであります。

有難いことに県スケート連盟から6名もの競技役員を拝命頂き、名誉に存ずると共に、この経験を2003年の青森冬季アジア大会に活かそうと今は亡き沼館健二前会長と談を交じたものでした。

沼館先生からご教授頂いた多くのことを糧としながら今後のスケート界発展の為に、尽力をいたしますと共に、今日迄の歴史と伝統を築いてこられた先人先達の方々に満腔の意をもって感謝を申し上げ結びといたします。

あの日あの頃
大会開催思い出

大会の思い出

高橋富士男

2001年10月第31回青森県選手権大会が第6回アジア冬期オリンピック会場県営室内リンクで行われた。第70回全日本選手権大会が大阪なみはやドームで行われ、青森県からペアスケートに小笠原兄弟が第2位「前年優勝」。全日本アイスダンスジュニア選手権に坂頂兄弟が優勝「前年優勝」。オリンピック出場者、フランスアルペールビルに村田光弘、長野オリンピックに田村岳斗、ノービス国際大会で佐々木亮輔優勝。三沢基地アメリカ小学生で毎日長根リンクと合同アイスパレスで練習した「エン」ことレアーナ・ナツインスキーが札幌ユニバーシアードにアメリカ代表で第3位入賞。応援にいった八戸の仲間と喜び合った。歴史ある第1回優勝した伊倉選手のアクセルジャンプを見た時のことは忘れられない想いだ。この大会は参加選手指導した松本、伊藤、故赤坂、故八田氏諸先輩、大会運営の役員の皆様、特に学校の先生方の協力、そして選手の御家族のあたたかい御理解があってこそ出来たのである。これからの選手の育成と強化には通年のインドアリンクがぜひ必要である。（フィギュア委員長）



北日本フィギュア大会

新山奈緒子

北日本フィギュアスケート選手権大会というのは、私の記憶では金ヶ崎の厚生年金センターで行われたサンピアのリンクからです。そこは、ホテルとリンクが一緒に八戸にもそんな施設があればと誰もが言っていたリンクでした。北日本という北関東・東北・北海道の選手が毎年100人以上出場する大会は、国体やインターハイとは違い、年齢も級も上から下までさまざまですので審判する方も大変ですが運営する方も大変だったと思います。青森県でも平成7年度・12年度開催しましたが朝早くから夜遅くまで競技。昨年度の青森県営スケート場では、寒さの戦いでした。放送の係は口が凍え計時の係は手が凍え予定通りに時間は進まず遅れていくというアクシデントがありながら無事終了できました。本当に役員の方々には頭の下がる思いです。おかげで次の東日本大会では寒くはないという言葉の皆様からいただき改良したかいがあったと思っています。関係各位の皆様にお礼を申し上げます。（フィギュア総務部長）

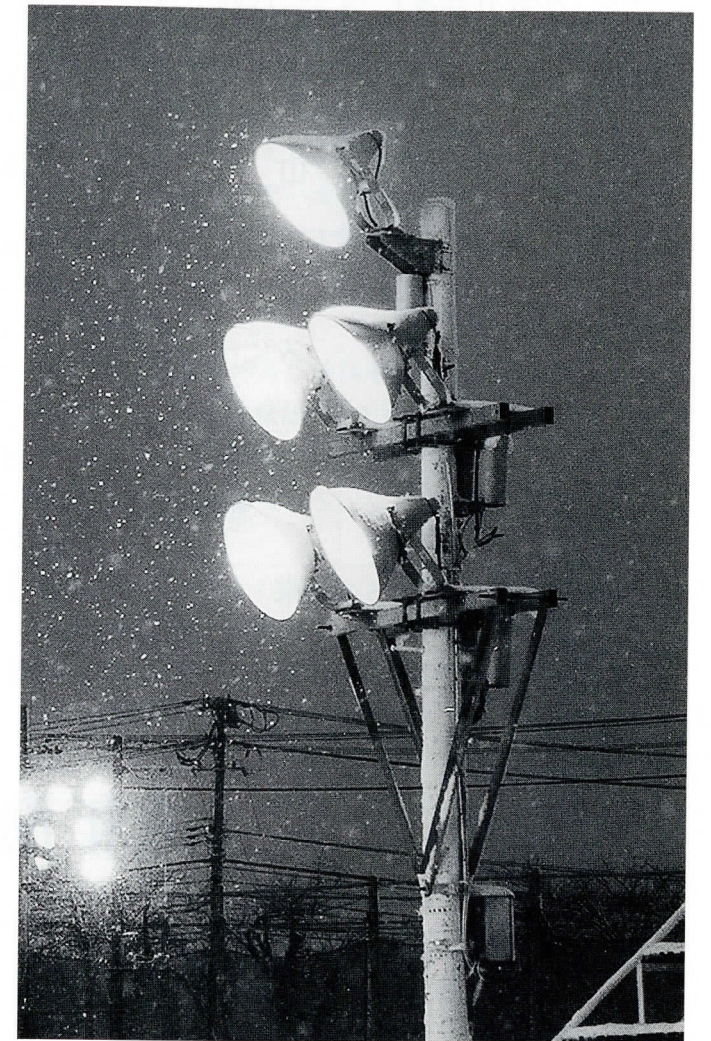
「小学生フリー大会」 誕生の頃

佐々木一男

松本栄氏を中心に「フィギュア愛好会」が結成されたのは、昭和41年頃だと思う。昭和51年9月には八戸で初のインドアとしてゴードー・アイスパレスがオープンし、翌年の「あすなろ国体」のフィギュア競技会場に決定したときは、天候に悩まされ続けた関係者としてホッとしたことを覚えている。

その八戸国体の成年女子の部には高橋富士男監督が愛好会育ちの小笠原雅子（現インストラクター）と小坂春代と共に出場し、三部門そろっての参加を、歴史的出来ごとのように喜んだことも記憶にのこっている。

そのころ「チビッ子が気軽に参加できる競技会がほしい」と要望が高まり、白鷗ライオンズクラブの全面的援助をいただいて誕生したのが「小学生フリー大会」であった。コンパルソリーを除いただけなのに出場者は年々増加し、好評を博する大会となった。昭和57年の第6回大会では、冬季オリンピックに出場した村田光弘君（鮫中）が優勝するなど、選手育成に大きく貢献するような大会にまでなった。（フィギュア副委員長）



スケート競技海外（カナダ・カルガリー）特別強化合宿

実施月日	団長	スタッフ	参加者数
1991（平成3年度） 10／23～11／5	石橋富士保 連盟会長	東 隆・田名部和彦 ・村山 通久・木村 三男	13名
1992（平成4年度） 10／23～11／3	石橋富士保 連盟会長	田名部和彦・佐々木良幸	7名
1994（平成6年度） 8／11～8／22	八西・八商 合同合宿	田名部和彦・東 隆 ・笹原 幸雄	22名
1996（平成8年度） 8／9～8／24	橋本恭二 普及部長	東 隆・佐々木良幸 ・村崎 匡裕・尾崎 光男	31名
1997（平成9年度） 8／6～8／22	山口広道 理事長	東 隆・田名部和彦 ・中野 泰之・前山 廣美	31名
1998（平成10年度） 7／31～8／21	林 弘 スピード委員長	東 隆・佐々木良幸 ・仁科 恭典・古舘 芳昭 ・中田 敏彦・菊池 秀司 ・小田由美子・村崎 匡裕 ・中野 泰之	34名
1999（平成11年度） 7／29～8／20	沼舘健二 連盟会長	東 隆・仁科 恭典 ・村崎 匡裕・田名部和彦 ・成田 昌俊	34名
2000（平成12年度） 7／17～8／15	東 隆 強化委員長	仁科 恭典・管 宏 ・村崎 匡裕	22名
2001（平成13年度） 7／23～8／14	東 隆 強化委員長	仁科 恭典・管 宏 ・村崎 匡裕・大西 友則	20名

成年海外合宿

実施月日	合宿名	スタッフ	参加者数	備考
1995年 10月23日～11月22日	ドイツ：インツェル合宿	戸田 金作	2名	
1996年 10月16日～11月19日	ドイツ：インツェル合宿	戸田 金作	2名	
1997年 7月14日～8月9日	カナダ：カルガリー合宿	戸田 金作	3名	
1998年 7月17日～8月11日	カナダ：カルガリー合宿	成田 昌俊 戸田 金作	4名	
1999年 9月5日～9月27日	カナダ：カルガリー合宿	成田 昌俊 戸田 金作	4名	
2000年 7月25日～8月15日	カナダ：カルガリー合宿	成田 昌俊 戸田 金作	3名	
2000年 10月2日～10月24日	ドイツ：インツェル合宿	戸田 金作	2名	
2001年 7月25日～8月10日	カナダ：カルガリー合宿	成田 昌俊 戸田 金作	2名	

海外合宿の思い出

「カナダ一人旅」

●団長（青森県スケート連盟会長）

石橋富士保

平成5年の八戸国体を目指し、又1人でも多く国際的に通用する選手を育てたいとの、長い間の懸案であった、青森県スケート連盟の海外合宿は、種々の苦難を経て漸く実現し、高校生の選抜チーム10名に実業団の4名を加え団長、監督、コーチ、総務の一行18名は、初めてカルガリーの地を踏むことが出来た。

カルガリーは予想していた通り17：30の気温が－2度から－3度、そして今日の最低は－7度と寒かった。16日と21日に降った小雪が、うっすらと地面をおおって我々選手団を歓迎してくれた。近畿日本の現地ガイド唐鎌さん、そしてかねてから色々と連絡や手配をお願いしていた石川さんの奥さんが空港まで出迎えてくれた。早速バスにてサンボーインホテルに到着、夕食を済ませ石川さんと明日からの行動についての打合せをし、そして全員のミーティングをして第1日目を終了。

23日朝八戸を発って、カナディアン航空の出発時刻の変更で成田発がおくれ、バンクーバーで乗継をして、カルガリーには時差の関係で23日17：00到着となった。全く長い1日であった。

長途の旅と時差との関係等にもかかわらず全員元気で、ホテルに入って漸く落付いて来たのか、段々調子が出て来たようだ、若い人達だからすぐ馴れて来ることでしょ

う。元気で無事合宿の終わることを祈る。

サンボーインホテルはカルガリー大学のすぐそばにあって、更にリンクにも近く、環境等最も良好で合宿所といった感じのホテルである。又山形県の選手も同宿している等スケート選手も大勢いるので、合宿練習にはもってこいの処である。山形県は大学生13名、高校生1名計14名来ているとのこと。

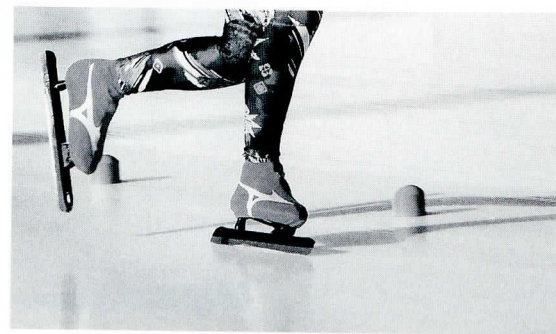
〔10月24日〕

5：00に目が覚める。外は未だ暗い。起きて旅日記をつける。6：30木村総務からモーニングコールを受ける。外は未だ暗い。何時頃に日の出になるのでしょうか。8：00朝食、漸く薄明るくなる。9：30ホテル出発リンクに向かう。

カルガリーのオーバルリンクはオリンピックを開催した有名な400M室内リンクである。その中に入って先ず驚いたことには、その設備の完備していることである。リンクはパイピングしてあることは勿論であるが、エアコンディションが良く外の方が寒い位だ。又付帯設備としてトレーニングルーム等ありとあらゆるものが大学構内と一緒に設置されているのには、只々驚くばかりである。

リンクの関係者に成田で買求めた日本酒を持って挨拶に行く、ガイドの石川さんは「日本式ですね!!」と感心する。

私は4年前に秋山八戸市長と一緒に、このリンクの建設中を見学したことがあった。カルガリー大学の構内にあって、建設主任の方は付近の風致を害さないように、あまり高く建てないよう心掛けているとのことであった。



海外合宿の思い出

そしてリンクには選手ばかりで一般滑走者の姿が見えないのも不思議と云わざるを得ない。いくら国営のリンクでもこれではちっとひどすぎる気がする。

午後は私だけサドルリンクの見学に出掛ける。前回秋山市長と来た時は丘の上からながめたので、是非中に入っで見学したいと頼み、ようやく入ることが出来た。正に感激であった。リンクの大きさは60mに30mであるが、観衆2万人収客できるマンモスドームである。アイスホッケーをやってこのリンクで試合をやることが選手の夢であるような気がした。

〔10月25日〕

短かったカルガリー滞在も終わって今日はバンクーバーに向けて出発である。6:00木村総務からモーニングコールが入り、外は雪模様とのこと、成程よく降っている、別れの雪であろう。

唐鎌さんに空港迄送って貰い、C P 665便にてカルガリーを後にする。

バンクーバーには予定より少しおくれて到着、ガイドの高川さんの出迎えを受けタクシーでホテルに向かう。チェックイン後2人で中華料理の昼食をとる。ボリューム満点であった。ガイドの予定は15:00迄とのことで昼食後「ギヤスタウン」を見学に行く。

前回このタウンをバスで素通りしたので、かねてからゆっくりと、このタウンを見学したいと思っていたが、念願がかなってとてもうれしかった。立派な商店街であり、お客様に対する気配りもよく出来ていると感じた。長さは廿三日町から、三日町迄位のものである。我が三日町もこの位の商店街にならないものかと痛感しながら

ゆっくりと見学した。

THE, PAN, PACIFIC, VANCOUVER HOTELは、海のすぐそばに建っている立派な新しいホテルである。なんでも日本の東急系のホテルとのことである。夕方部屋でゆっくりと休む、出窓に「カモメ」が飛んで来る。なかなか馴れた「カモメ」で人なつこい目付で窓に寄って来る。その内に大きな口ばしで窓をコンコンとつつきはじめた。

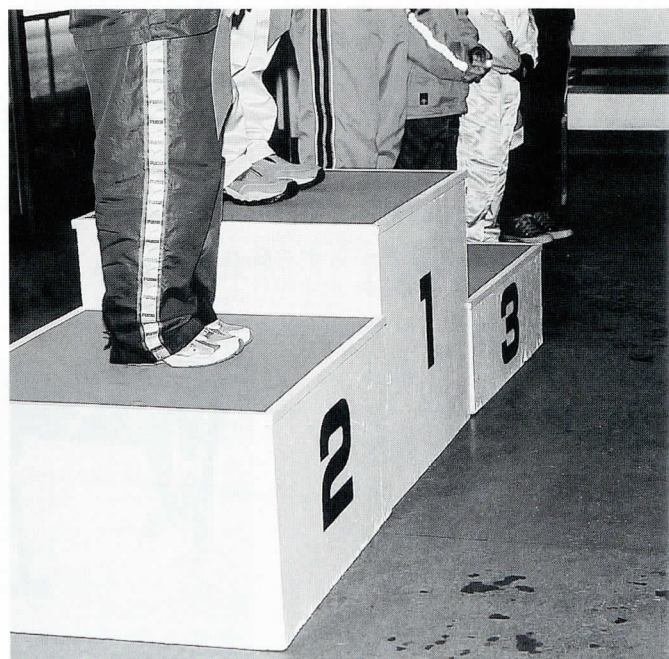
前に誰かが餌をやったのでしょうか、盛んに餌をねだっているようだ?。最初はあまり気にもならずにいたが、段々うるさくなって遂にカーテンを開けてしまった。

夜ホテルの日本レストラン「サントリ」にて、ロブスターの鉄板焼で1杯やってゆっくり休む。

〔10月26日〕

カナダ1人旅の最終日である。バンクーバー空港では、C P -003が調整中とのことで、1時間半遅れで、高川さんに見送られ機中の人となった。

これで成田着も遅れ、東京発の最終「やまびこ」に間に合いそうもない。(元会長)



「海外遠征強化合宿」

1998年(平成10年度) 7/16~8/19

アメリカ コロラドスプリングス

指導者 小笠原雅子

選手 佐々木亮輔 浪岡 秀 浪岡 樹
木村 亨

1999年(平成11年度) 7/15~8/11

アメリカ コロラドスプリングス

指導者 小笠原雅子 河村 恵

選手 小笠原健雄 佐々木亮輔 木村 亨
木村 貴子 小笠原牧子

2000年(平成12年度) 7/14~8/3

アメリカ コロラドスプリングス

指導者 小笠原雅子

選手 小笠原健雄 木村 亨 木村 貴子
小笠原牧子

2001年(平成13年度) 7/15~7/27

カナダ カルガリー

指導者 坂頂 涼江

選手 坂頂みなみ
坂頂 達也

練習は、選手達が本来所持しているレベルの貸切に入ると身動きができなくなる事が予想され、ワンランク下げたレベルでの貸切練習としました。アメリカでは、45分間が1回の貸切時間で、選手達は3回これを滑ります。その他に、陸上トレーニング、バレエ、ジャンプクラス、スピニングクラスのレッスンを消化します。

貸切練習の45分間の間に曲掛けをしなくては意味がないのですが、レッスンを受けている選手が優先で曲を掛けるので、自分達の曲を1回掛けることすら難しい状態でした。アメリカコーチのレッスンは、1日に1人1回(20分間)あれば大変喜ばしいことで、1日1回のレッスンも受けられないこともあります。なぜならば、合宿期間中にアメリカ国内大会や国際大会、そして国外からのオリンピック選手が来ればそちらの方を優先してしまうからです。幸い、今回の合宿の目的であるショートプログラムとフリープログラムを全員が完成させて帰って来ることが出来ました。これも、現地でのコーチの配慮があったからだと思います。そして、選手達がリタイアせず最後まで頑張れたからだと思います。是非、この合宿の頑張りが今シーズンの試合で発揮出来れば良いなと思っております。

浪岡 秀

八戸市立第二中学校出身 光星学院

僕は、アメリカ合宿でシニアのクラスで滑りました。シニアの選手はジュニアの選手よりスピードがあり、その中で一緒に練習できるか不安でした。その中でも、一番の心配はジャンプに移る前の助走でした。

初めのうちは、追い抜かれたりしましたが、何回も飛んでいるうちに、スピードを出すことが恐くなりました。そして、何とかシニアクラスで普通に滑れるようになりました。

アメリカ合宿に行って、シニアクラスで頑張ることができて、良い経験になりました。この経験を生かして滑っていきたいと考えています。

ありがとうございました。

感想

●指導者

小笠原雅子

平成10年7月15日~8月19日までの36日間の合宿でした。

例年の合宿は土曜日に現地入りし体力回復の時間を取るように努めていましたが、今年は、航空チケットが取れなく平日に現地入りしなくてはなりませんでした。そのため、選手の体の疲れが気掛かりでしたが、不安とは裏腹にいつもどおり練習が開始でき良かったと思います。現地のコロラドスプリングスについてアメリカの選手を目にするといつものことながら、アメリカの選手層の厚さに驚かされ、また選手にとっても良い刺激になったと思います。

「海外遠征強化合宿」

浪岡 樹

八戸市立第二中学校出身 光星学院

アメリカ合宿ではジュニアクラスで滑りました。

向こうの選手は練習の始めに自分のテープを、我先に
出しに行きます。そして、自分の曲の間は、本番のよう
に笑顔で演技をしています。

またジャンプに入る前のスピードがあり、姿勢もきれ
いでした。

これらのことを、僕もマスターしてステップアップを
したいと感じた合宿でした。

いろんな選手に会えたし、夏の間に毎日滑る機会をあ
たえていただいたことに感謝します。

木村 亨

八戸市立第二中学校出身 八戸工業大学一高

アメリカの選手を見て驚いたことは、ジャンプだけで
なく表現力もうまかったことです。

「スケーティング時の手の使い方」やジャンプに移る
までのスピード、着氷後の姿勢、どれをとっても素晴ら
しいものでした。またアメリカの選手たちは、おりた後
がとてもすべり足も上がっているの、ぶつかりそうに
なるときもありました。

曲をかけるのもジャンプにいくのも積極的で、スピン
もとても回転がきれいでした。

大変だったのは、アメリカのLessonは20分(25\$ぐら
い)ときまっているので、最初はなれなくてどんどん時
間が過ぎてしまいました。

そういう面で集中力についても勉強になったと思いま
す。ジャンプクラスやスピークラス、パワー、フットワー

クとありましたが、どれもいい勉強になりました。ぼく
たちは毎朝6時におきて23時ごろに寝ていましたが、先
生たちは、もっと早くから起きておそくまであとかたず
けをして、とっても大変だなあと思いました。

1日中リンクの上に立って指導してくれた小笠原先生、
河村先生そして、アメリカへ出してくださった連盟のみ
なさんありがとうございました。

佐々木亮輔

八戸市立第三中学校出身 東北高校

7月14日から8月19日まで、スケートのアメリカ合宿
に行ってきました。練習場所は、「コロラドスプリング
スワールドアリーナ」という所でした。毎日、朝6時ご
ろに起きて6時半に朝食を食べて、リンクに出発でした。
ぼくは、起ききれなくて、いつも先輩に起こされていま
した。そして、初めの練習は、8時10分からで、ほかの国
から、ぼくたちみたいに習いに来ている人もけっこうい
ました。

レッスンは、日本でも習ったこともある、ジャネット
先生やトム先生に教えてもらいました。

アメリカのクラブの人たちは、みんながんばっていて、
じょうずでした。ぼくは、アメリカと日本のレベルは違
うので、うらやましく思いました。アメリカでは学校の
宿題もたいへんだったけど、うまい人たちの見学もでき
てよかったと思いました。見ているうちに、ぼくもあの
ように、になりたいなあと思ったので、集中して練習を
がんばってきました。

この合宿は、充実した楽しい合宿でした。また、この
ために予算を出していただき、本当にありがとうございました。



選手思い出

初めてのパイピングリンク

菊池 秀司

私が高校1年生の時のインターハイで、国体が長野県
軽井沢スケートセンターで行われた。その会場は日本初
のパイピングリンクで、私も県選手団にも初体験であり、
事前の練習といえば長根の天然リンクでのわずか1~2
週間の練習で臨んだレースは氷がよく滑り経験のない程
の高速レースになり選手達は大変戸惑ったと思います。
私の結果はインターハイ6位、国体は5000、10000とも
予選落ちとなり、練習の貯金が尽き果てた感がありまし
た。初めてのパイピングリンクは八戸の氷とは比べもの
にならない程表面が平らで非常に滑り、驚きと感激を覚
えました。この経験は今の子供達がカルガリーの屋内リ
ンクあるいはMウェーブで経験するスピード感だと思い
ます。この様な素晴らしい屋内リンクで1人でも多くの
子供達が練習出来て、日本に限らず世界に羽ばたけるよ
うな施設を一日も早く青森県の八戸に実現していただき
たいと思います。

思 い 出

矢田 邦子 (旧姓佐々木)

創立75周年記念誌に載せる筆を取るとき、いろいろな
ことが思い出される。

思えば小学校の頃から、己に厳しく、余力をもって滑
ることで力をつけることがコツだと知ったとき、私のス
ケート人生が始まった。決して楽しいことばかりではな
かった。

戦後の食糧難時代にトレーニングは勿論、大会前のリ
ンク作り、選手たちで当番を決めて一晩中リンクの監視
をした後レースをしたこと等も忘れることができない、
現在では考えられないことである。

そんな時代に、桧舞台に送り出してくれた今は亡き父
母、そして陰に日向に指導して下さった諸先生、先輩、
協会、リンクサイドで応援して下さった方々に深く感
謝している。

このような客観的に過酷ともいえる自己鍛練の辛さや
苦しさを積極的に栄養として採り入れ、自己の成長の糧
と成し得た体験は、私の人生の土台を築き、現在の生活
に大きなプラスになっている。

今後この体験を子供たちと共に、宝にして持ち続けて
いきたいと思う。

終わりに、青森県スケート連盟のますますの発展と後
輩の活躍を祈りながら筆を置く。



選手思い出

成年選手として

澤口 一樹

「青森県スケート連盟が発足して75年」と聞き、改めて驚きと感動がありました。

多くの人達が積み重ねてこられた一瞬一瞬に、私も参加できたことを嬉しく思います。この地で8年間競技者でいられた事を誇りに思います。会社の全面的なバックアップ、スケート競技を支えて下さった人達や、応援して下さい下さった人達に心から感謝したいと思います。地域に根ざし、世界を目標に続けてきました。県内レースでも全力を尽し、つけもの石のようにどっかり乗っている事が仕事と思っていました。ところが時々それができないことがあり高校生の満面の笑みを見た時は、顔から火が出る思いでありました。良い思い出であります。「がんばってますね」のちょっとした一言や良いタイムが出た時に頂いた拍手がものすごく励みになりました。掛替えのない一瞬一瞬であります。

青森県スケート界が、ますます輝いていくことを、信じています。



「勝利の手」

戸田 金作

「このまま行けば勝てますよ、もう少し引っ張ってください」先頭を滑る選手に後ろから声をかけ背中をおした。

第53回盛岡国体・成年男子B1000m決勝。ノーマークの選手がスタート直後から逃げ出した。この後ろにつけば楽に責任先頭をとれる。そう思い先頭を励まし、速いレース展開を助長した。さらに、展開が速ければ後方で“最後の1本”を狙う北海道・宮脇、長野・宮坂選手の作戦が狂うはずだ。

600m過ぎ、予期せぬ先頭交代が起きた。先頭が急に後方へ下がりだした。このまま行けば自分が先頭に出される。残り400mで先頭になれば“最後の1本”は無理だ。私も意識的に後ろへ2、3番手下がり足の疲労を極力おさえた。その間について宮脇選手がスパートを掛け一気に上位へ駆け上がり、私は4番手へ落とされた。最終コーナーを抜け残り50m。

ここが“最後の1本”。前を滑走する3選手はコースいっぱいに広がり責任先頭ラインへ飛び出した。アッだめだ。前がない、コースをふさがれた。だが、頭で考えるより先にスケートはアウトコースへ走り出していた。一蹴りごとにスピードが増し最後の1本が視界に入った。すると左手がいつのまにかだれかの腰をつかんでいた。

選手思い出

この腰を手すりにして1歩前へ出た。責任先頭最後の1本をとりそのまま1着でゴール。確かに1着で滑り込んだのだから両手でガッツポーズをしたかったが、正式な順位発表まで左手が気になった。

暖冬の3年間

河原木 浩

高1の昭和37年は暖冬で長根リンクの結氷が遅れ、この時から北海道合宿が行われる様になった。大会地帯広で県の合宿と国体予選会をやり、高1で国体のメンバーの1人として選ばれた。当時の選手層からして、これは好運そのものだった。翌年の高2でもやはり北海道釧路に八商単独で合宿に入り、春採湖で毎日滑り込みをやった。正月を釧路で迎えその後帯広へ移動し、毎日氷点下15度前後の気温の中練習をした。合宿が終り青函連絡船で津軽海峡を渡ると生暖かい風を感じ、いやな予感がした。やはり長根リンクは全然凍ってなかった。間近に迫るインターハイ、国体に全く氷上練習が出来ない我々は陸トレを頑張るしかなかった。大会は箱根駒ヶ岳山頂にリンクがあり、初めてのパイピングリンクだった。高3の時も長根の結氷が遅れ、県選抜で釧路唐路湖での合宿があり、湖は油氷で自分の顔が映る透明なすばらしい氷だった。この様な処で練習出来る地元の選手を羨ましく思った。八戸に帰っても思う様に練習が出来なく、我々

八商と八高、光星の3校で長野白樺湖へ合宿に出かけた。この時もチームワーク良く、皆一所懸命練習をした。ひと山越えた城ノ平でのインターハイ、国体で漸く結果を出す事ができ、2人が表彰台に、数名が入賞を果たした。これからは青森県スケート連盟からスーパースターの出現を夢みて頑張りたいと思います。

田んぼのリンクから

小野寺郁子

姉が小学生、私も低学年の頃です。実家三戸の田んぼのリンクへスケート練習に行く姉について行き、そのうちイタズラに姉の後を追いかけていたのがスケートとの出会いでした。父も姉も熱心で、いつからか長根リンクへ通い出します。小学生は夜の選手滑走は出来ないのですが、私は隠れて滑っていました。三戸と八戸を毎日父の車で通い、父に連れられ姉の後を追いかけてから大学を終える迄、本当にスケート三昧でした。三戸の田んぼから八戸へ、八戸から大学へと過ごす中、多くの経験と仲間を得ました。スケートを通じ、父や姉、家族の支え、道しるべとなった指導者先生方、一緒に時を過ごした仲間が私の糧になった事は間違いありません。

スケートあつての私ですから、思い出も数知れず、尽きることなく。



選手思い出

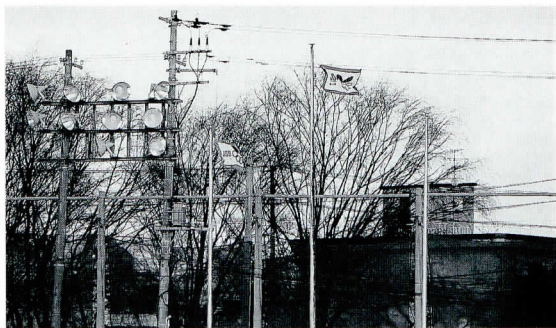
思い出

村崎 匡裕

平成2年1月に岩手県盛岡市で行われた「第45回国民体育大会冬季大会」は私にとって、最高の成績と最高の思い出を残した大会でした。

1500mと1000mに出場した私は誰もが夢見る「優勝」を目指し決勝へ進みました。立て続けにレースが行われる不利な条件の中、1500m決勝では、一か八かの勝負に敗れ5位。疲れも取れず気持ちも切り替えられないまま30分後には1000m決勝。運悪く、私は後半勝負には不利な1コースを抽選してしまい「まずい」と思いました。しかし、同県の浜道選手が8コースを抽選していたのです。前半勝負だった浜道選手は私と同じ事を考え、監督にも内緒で抽選棒を2人で交換してしまったのです。これで「狙える」と思った私は自信を持って8コースに並びスタート。一番後ろから全選手の動きを見ながら滑走、600m通過付近から追い上げ一気にトップまで躍り出て、そのままゴールイン。一度も勝ったことのない堀井選手に勝つことができました。

表彰台の「てっぺん」は言葉では言い表せない最高の気分でした。



苦しかったけど、オリンピック選手

村田 光弘

私がフィギュアスケートを始めたきっかけは長根リンクで練習しているのを見たことからでした。当時男子は1人もいなく練習よりもリンクに積もった雪で遊ぶなど先生方が困っていたのが思い浮かびます。通年のリンクもなく環境がフィギュアのトップの都市と比べあまり良くなかった場所でフィギュア選手としては東北初のオリンピック代表になれたのはスケート連盟や先生方が根気よく指導して下さったおかげだと思います。そのオリンピックですが代表になる前に、右膝の半月板を損傷し何とか代表になることが出来た後も練習も思い通りにいかず出場するまでとても苦しい日々が続きました。しかし、青森から沢山の応援やメッセージが届き、それを力にして精一杯滑ることが出来ました。青森県で育った方々が地元青森はもちろんのこと、全国各地、世界で活躍することを期待し、青森県スケート連盟が今後とも発展する様願っています。

引退？ いやまだ娘が…

谷川 勉

40回八戸国体から、46回大会まで7回フィギュア成年男子に出場させて頂きました。

初出場の国体は、見るのも聞くのも初めてのことばかり、大雪の青森から黒の防寒靴で長根の入場行進に加わったところ「長靴でどこから来た？」と回りの選手に聞かれ、あわてて足元を見るとみんな白のスノトレ、「白は女の靴だべ。」と言って行進を終えました。

45回は後に五輪出場した村田選手と共に参加、大変なプレッシャーの中で「スケートの神様、これで引退しますので、どうか助けて下さい。」と祈りながらリンクに上りました。

続く46回は小笠原博文選手と参加、「今度こそ本当にやめます。」と誓い、地元長野を紙一重でかわし2度目の入賞。やっと引退です。

20年前、青森から八戸まで凍えながら軽自動車練習に通った道を、今は娘二人の練習のため走り続けています。

県スケート界のますますの発展を願って止みません。



選手思い出

私とフィギュア

小笠原雅子

自分の高校時代、国体競技力向上としての指導は青森県は困難でした。東京での強化合宿でこの競技は小さな時から始める事が重要と痛感し、長根のフィギュア愛好会の中にファーストというクラブを設立し高校生ではありませんでしたが、小学生も対象としフィギュアの活動を積極的にしました。日大卒業後もフィギュアのレベル向上に施設と技術指導が重要と思いゴードーアイスパレスのインストラクターになりました。また普及も大切と思いフィギュア発表会を開催しました。現在はゴードーアイスパレスは閉館しましたがGOLDクラブとして選手育成と発表会を公共施設を中心に活動しています。6種類1回転ジャンプも大変な時代もありましたが小学生が3回転ジャンプを跳び、他県からも関心をもたれる青森県となりました。長根時代選手として共に悩んだ小坂春代さんとゴードー時代もインストラクターとし悩み喜びを語り合ってきました。これから公共施設を中心とし新たなインストラクターとしての活動です。数年後どんな、思い出ができるのか楽しみです。

選手思い出

「スケートに魅せられて」

柳沢美智子

スケートに出会ったのは小学校4年生。週1回の教室に通い、全く滑れなかったものがおもしろいように滑れるようになった。出来なかったものが出来るようになったという喜び、そして自信。これこそ私がスケートにはまった最大の理由だ。学校が終わると毎日リンクへ行きスケート靴を履いた。そんなときリンクでいじめにあった。何日かいじめが続いて、私は大好きなスケートをやめることにした。やめて3日目、たまらなくスケートがしたくなりリンクへ。帰りの車の中で父は言った。「いじめられてもいいんだよ。おまえがされていやなことは他の人にしなければいいんだから。」私は心がとても軽くなった。いじめ=悪いこと。いじめを受けたことはとても問題のように思えた。しかし、父はいじめられることは問題ではなく、いじめた場合問題なんだと教えてくれた。スケートは私に学ぶ楽しさ充足感をもたらし、私はますますスケートが与えてくれる魅力に惹かれていった。

GOLDフィギュア
スケートクラブ

小笠原健雄

5才からスケートを始め18才になるまでゴードーアイスパレスでスケートを習ったので思いではたくさんあります。なかでも鮫中3年のとき初めて地元の国体に出場しました。この年は自分にとって最愛の父を亡くした年でした。心の中で、父に自分の最高の演技を贈りたいという一心で大会に臨みました。また、今は亡き親友の高橋稔大君と共に少年男子として出場し入賞を果たしました。そのとき稔大君とがっちり握手した写真が新聞にカラー写真で載ったことは今でも心の支えになっています。

自分にとってスケートは生活の一部であり、ゴードーアイスパレスを通じて成長したと言ってもいいと思います。現在はゴードークラブでフィギュアを始めた妹の牧子とペアを組んで競技をしています。一度日本代表として北京での国際大会にも出場しました。

現在のゴールドフィギュアクラブ（元ゴードーフィギュアクラブ）で昔の話がよくでてゴードーアイスパレスの思い出話で盛り上がります。

選手思い出

フィギュアから学ぶ

北村 葉子

青森県スケート連盟創立75周年、おめでとうございます。

私とフィギュアスケートの関係は、家族で遊びに行った3才頃から始まり、大学を卒業するまでの約19年間、特に大きな怪我もなく続けることが出来ました。

小さい頃の私はとても泣き虫で、小笠原雅子先生に叱られては、スケート靴を脱ぎ捨てGODOアイスパレスから脱走しようとしていました。こんな事も、今ではとても懐かしい思い出です。

選手時代は、とにかく練習、練習の毎日でしたが、フィギュアスケートを通して、様々な事を学び、経験することが出来ました。私にとって「一つの事を最後まで成し遂げた」という達成感が、今はとても大きな成果だったと実感しています。山あり谷ありの選手生活でしたが、最後まで頑張り通せたのは先生・両親をはじめ、周りの方々の支えのお陰だと思っています。本当にありがとうございました。



選手時代を想い

山本 夢子

高校卒業と同時に選手生活を引退後、平成13年8月まで米国で生活をしていましたが、私の生活はスケート靴をはかなくなった事以外は何も変わっていないような気がします。

選手時代の思い出としては、今となっては勝ち負けよりも、そこへ辿り着くまでの経緯や環境をよく思い出します。上達するのが楽しかった小学生時代、本気で全国のトップクラスを目指した中学時代、怪我で苦しい思いをした高校時代。様々な事がありましたが、それらの出来事によって人間的に成長できた事を感謝しています。それと同時に、連盟の方々の暖かい励ましや御心遣、小笠原雅子先生の厳しくも優しい指導、兄弟・姉妹のように育ったクラブの仲間や他県の友人達との友情、そして家族の愛情と協力には感謝してもしきれないほど支えられてきました。

これからも、選手時代に培った強い精神力と友情、そして私を支えて下さった全ての方々への感謝を胸に、頑張りたいと思います。

あの日の頃
選手思い出

私の財産

若林 恭葉

初めてフィギュアスケート靴を履いたのは、3歳の時。それから20年間に渉る選手生活を地元、青森でのまほろば国体に於いて、家族をはじめ、私の選手生活を支えて下さったコーチ、学校・連盟の方々、リンク関係者、そして一緒に練習してきた仲間と御家族の方々のもと、引退試合ができた事は私にとって最高の思い出です。

ベストな演技とはなりませんでしたが、今までの感謝の気持ちを込めて演技させていただきました。温かい御声援ありがとうございました。この場をお借りして心よりお礼申し上げます。

現在はスケートを離れ、社会人として働いておりますが、スケートでの貴重な体験があってこそ今の自分があると深く実感しております。

私にとって、スケートを通しての出会い、経験は一生の財産です。

フィギュアと自分

田村 岳斗

私は青森県八戸市のゴードーアイスパレス（今はなくなっていますが…）で5才の時に初めてフィギュアスケートに出会い、以来17年間、時にはやめたくる事もありますが、なぜか今だにスケートから離れられずにいます。

高校に進学の際、仙台に移り、そこで長野オリンピックに出場しました。今は東京で大学に通いながらの生活で、だんだんと八戸に帰る機会も少なくなりましたが、祖母が元気で八戸で暮らしている事もあり、強く望郷の思いにかられる事があります。

今回青森県スケート連盟が75周年を迎えられるとのこと、お祝いの思いを胸に、2003年のアジア大会には私もぜひ参加できると嬉しく思います。

私とスケート

●選手

伊勢 俊一

スケートを始めたのは、小学校に入る前の年でした。百石町にはスケート愛好会があり、私はその会に入会しました。ローラースケートをしても走ってもいつもビリ



あの日の頃
選手思い出

の方で、あまりの運動神経のなさに、周りの父兄や体育関係者に「君は才能がないからやめた方がいいよ。」と言われたこともありましたが、その言葉がくやしくて、絶対に負けたくないという一心で練習に打ち込み、全中では3位に入賞することができ、高校・大学ではスケートを通して多くの人と出会い、色々なことを学びました。また、青森県に戻って就職し実業団としてこうして今、スケートが趣味から仕事となり、調子が悪くても疲れていても勝たなければいけないという競技者の意識を持ち続けるようになりました。練習環境を提供してくださる連盟や、施設関係者、会社の方々に感謝し、初心を忘れることなく努力し続け、これからも練習に励んでいきたいと思っています。

我がスケート人生

選手

金濱 康光

1988年2月18日、私の競技生活は終止符をうった。

カルガリーオリンピック男子1000m、私は順位、メダルではなく、あるタイムを目標にスタート位置についた。体調は万全、出来る事は全てやった。高速リンクのため、自分の滑りをすれば自己ベストが出る事はわかっていた。ピストルの音と共に勢い良くスタート、いつものコーナーいつものストレート、緊張感は無く自然と集中していた。自分の滑りをチェックしながら、それまで習得した全て

を出しきった。ゴールをして大歓声が初めて耳に飛び込んできた。これがオリンピック…

目標のタイムを出すことは出来なかったが悔やむ気持は無く、体の奥から満足感が湧き、ここまでやったという達成感でいっぱいであった。それと共に私をこれまで支えてくれた全ての人々に感謝した。決して平坦な道ではなかった、挫折も数回あった。その度に支え、応援してくれる人がいた。長根リンクで戦った仲間、青森県スケート連盟の方々、監督、コーチ、家族、…。多くの人に支えられ、このスポーツの祭典の舞台に立っている自分に気がついた。“目標とは結果よりもその過程が大切である”スケートが私に教えてくれた教訓である。1つの夢が目標となり、その目標に向かって日々邁進出来たことを幸せに思う。オリンピックオーバルの大歓声の中、日の丸と五輪を胸に私は堂々とスケート靴を脱いだ。これが私のオリンピックそしてスケート人生である。

氷都・八戸の長根っ子達が、それぞれの目標を持ち、頑張る姿をこれからも応援していきたい。

スケートの思い出

●選手

田名部正人

小学校時代

木村勝城先生と出会いスケートを履かされて滑った。「スケートやるなら国体くらい出ねばだめだぞ」と言わ



あの日あの頃
選手思い出

れたことは今でも忘れられない。

石堂の沼や高館の沼によく通った。当時、冬期間は私にとってはスケートくらいしか遊ぶものがなくて、休みの日などは仲間と1日中沼で過ごしていた。喉が渇くとスケートで氷に穴をあけて水を飲んでた。長根リンクに遊びに行くと人の多さにびっくり。人で氷が見えなかった。そしてみんな早かった。

中学校時代

夏は陸上部で走り高跳。冬はスケート部に入部して、遅いながらも大会に出ていた。スケートの大会では転倒ばかりしていて困った選手だった。

夏の合宿は国体の強化のため実施されていて当時は沼田嘉雄先生と武山忠雄先生が指導に当たっていた。両先生の次に中体連スケート専門部を担当したが自分がこの仕事を受け継ぐ前の15年間は2人で頑張ってきたのかと驚く。と同時に指導者の育成の重要性を痛感する。

高校時代

高校進学時には東隆先生と出会い百石高校に進学、本格的にスケートの指導を受けた。インターハイには1年生から参加し山梨大会の1500mでは決勝に進み9位、2年生の八戸大会では1500mで6位、3年生の伊香保大会では3位。国体にも1年生から参加したが相変わらず転倒ばかりで涙をのむこと数え切れない。52年あすなろ国体の大舞台でも決勝で2種目転倒して故出町嘉明さんを悔しがらせた苦い思い出がある。

大学時代

高校の恩師の東隆先生の母校、日本体育大学に進学、第一学生寮に入寮。「えっさっさ」で人間を変えられた。

1年生では寮生活の厳しさ、合宿生活のつらさから練習もままならず、結果は出なかった。2年生以降はそのストレスを一気に発散、長距離で記録を残した。

教員として帰郷

根城中学校に赴任。当時は生徒と一緒に滑る事が選手育成と信じて目標とする30歳まで国体に参加しながら生徒と練習を続けた。反面、実業団や全日本出場など職場と生徒を省みず遠征した自分に反省。

引退後12年間、スケート経験者が教員になって八戸に戻るようお願い、選手育成を続けるが、教員をはじめ連盟役員としても地元に戻ってスケートに携わるものが少ないのが悩みである。試行錯誤の時代はまだまだ続きそうである。



あの日あの頃
監督・コーチ思い出

『作戦変更・臨機応変』

●第40回はちのへ国体成年男子監督

船田 和栄

「あすなろ国体」以来8年ぶりの地元開催ということで“天皇杯得点を”合言葉に指導に専念していた。ある日突然、慶長菊也さんから食事に誘われ、その席で私に成年男子の監督をやる様に云われお引き受けすることにしました。また、各選手とのムードづくりに心を砕いた思い出があります。大会は田名部選手（根城中教員）の選手宣誓で始まり、日本の一線級が揃って出場した見ごたえのある大会となりました。競技では500mで金浜選手（専大）がサラエボ五輪銀メダルの北沢選手（北海道）を抑え優勝、田名部選手が5000mでも教え子らの声援を受けて五輪代表の今村選手（長野）を振り切り優勝、そして1500mではレース直前に戸田選手（専大）より作戦変更の提案があり、コーチゾーンを離れて協議OKを出す…レース終了まで不安であった。結果は金浜選手が優勝、戸田選手が3位に入賞。北海道の監督より「青森は強えなー」と声を掛けられて一瞬応答に戸惑った記憶があります。競技では北海道に次ぐ得点を獲得することができたのも、選手団の一致団結による努力があったればこそと思っています。

「思いつくまま」

●第32回国体成年女子監督

岡沼 宏洲

史上初の完全国体第32回あすなろ国体を成功させるには選手の活躍が重要であり、監督を1年前に内定し選手強化にあたった。

成年女子は選手3名で得点が確実なりレーメンバーの補充が最初の仕事であった。結婚し引退した大野先生に無理を承知でお願いしご主人からも了解を得メンバーを確保した。

当時監督は分業制でレース全体をチェックする富岡氏、第1カーブ入口で紙に書いた矢印（責任先頭を取りに行け）等のサインで指示を出す出町氏、コーチングゾーンでは出町の指示を確認し他県監督の情報を得適切なアドバイスを送る慶長氏・佐々木氏、第2カーブ出口でレースの状況を知らせる私と5人であった。

500mで見事なレース展開で優勝した宮古選手が1000mでも8位、また大野選手の加わった2000mは5位と4人は大健闘であった。

あれから24年選手といっしょになり国体を成功させるため、一生懸命汗を流し選手強化にあたった仲間3人は、この世にいない。合掌



監督・コーチ思い出

「選手達の健闘」

●第55回八戸国体少年女子監督

佐々木良幸

長野オリンピックから全世界のスピードスケート選手が取り入れた、スラップスケートは、日本のジュニアクラスの選手にも大きく影響し、日本記録や中高校記録の更新が目立ち、近年になくレベルが高い国体を迎えた。

このような状況の中で、第55回八戸国体が開催された。青森県の高校生は、中学生の頃から強化した選手であった。カナダ国カルガリー市において、氷上合宿を重ね、選手強化を図って臨んだ国体でもあった。

少年少女は、八戸商業高校の選手を中心に選考し、私が目標とした10点を獲得することが出来た。全国から見れば青森県の選手は力不足のところがあったが、高校1・2年生が主力選手であった為、今後の活躍を期待出来るものであった。地元の国体と言うこともあり、声援により普段以上の力を発揮出来たと思います。最後に、氷都八戸から全国並びに世界で活躍する選手が、育つことを祈願いたします。



勝者と敗者そして作戦

●第55回八戸国体少年男子監督

東 隆

第55回国体・八戸大会で少年男子5000mで村崎高夫選手が第2位の成績を残した。

決勝には小笠原裕太選手と出場、レース展開はスタート直後に村崎選手と群馬県小林選手が飛び出し、第2集団を約100mの差をつけた。第2集団の中にいる小笠原選手をトップに出させスピードダウンさせ更に先頭集団との差を広げるための指示をし作戦は成功した。

選手への指示までの時間が50秒位であったがとても長く感じた。村崎を上位入賞させるためのレース展開の指示を受けた小笠原の気持ち、二人のご両親の顔が脳裏をかすめとても悩み苦しい思いでの決断であった。

二人は良き同僚・ライバル・信頼関係であり、小笠原の敗者があったからこそ村崎の2位という成績を残すことが出来た。国体はこのような作戦が度々使われその度、力があっても敗者にまわる選手の家族の方々に申し訳ないと思い自分の心を痛めています。

監督・コーチ思い出

全中制覇

●下田中コーチ

成田 博一

この度、青森県スケート連盟75周年の節目に私のような若輩者が、寄稿できる機会を得たことを心から感謝申し上げます。

私たち下田中学校が全国中学校スケート大会で優勝したのは、平成6年のことでした。

開催地は、群馬県伊香保スケートセンターです。私個人的には高校3年の国体で、「スケートをやめよう」と決意した場所であり、選手達にしては、平成4、5年と百石中学校さんが2連覇後の、青森県3連覇のプレッシャーと、敵地での試合となりました。

試合が始まり、全て思いどおりにはいかないものの、主力選手は順当に決勝に進み最終日を残して強豪、長野川上中学校との点差は8点。最終日、決勝進出延べ5種目中、全種目入賞で川上中に5点差をつけ大逆転勝利。

目的を成し遂げた選手達の笑顔と、応援して下さった父兄の嬉し涙は、今でも脳裏に残っています。リンクの上の茶店で白馬山麓を見て歌った下田中学校校歌は最高でした。



うちの学校日本一

●光星学院高等学校フィギュアスケート部顧問

津久家安子

「優勝ですよ」—そう新聞記者の方から告げられた時、選手たちの手には、すでに八戸への帰りの切符が握られていました。

昭和60年、栃木県今市市で行われた、第34回インターハイ・フィギュアスケート女子の部、初の団体優勝を遂げました。

フィギュアスケートのメンバーは3人。部として認められたのは、その時の3年生が1年生の時というまだ生まれたばかりの部でした。

彼女たちが氷の上に立たない日はありません。試合では、ジャンプ・スピンと難しい技をこなす彼女たちも、練習では尻もちの数々。激しい練習の後、流れ出る汗、それは一粒のダイヤよりも美しく、また何ものにも代えがたい青春の情熱の結晶であり、こうした努力を一曲の中に実らせ、昭和61年、第35回インターハイで堂々の2年連続優勝を飾ることが出来ました。

青森県フィギュアスケート界の発展のためにも努力と精進を続け、伝統の基盤を堅めつつあります。

多くの方にお世話になりました。

心よりお礼申し上げます。

監督・コーチ思い出

百石中学校全国大会優勝の思い出

●百中元コーチ

木村 真也

昭和57年から平成6年まで13年間、地元百中のコーチとして、スケート協会前会長（故）三浦安男氏に依頼され、当時馬場勝彦部長、以下25名の部員と顧問新山教頭先生と指導にあたる事になりました。

自分の中学時代は、全国大会などはなく、東北大会が最大の大会でしたので、はじめて全国大会（富士急ハイランド）に参加した時はレベルの高さにびっくりしました。

特に北海道や長野県の選手は、地元青森の高校生のレベルに近く、体も大きく見えました。腰の低さと、スケティングの大きさすべての動作に無駄がなくすばらしいものでした。そして、約5年間、当時三協精機の選手だった戸田君や、ジャスコに所属していた金浜君の紹介で、黒岩彰氏、ミズノの浜谷さん、今村さんなどと知り合い、指導方法など自分なりに勉強しました。

それに、昔から伝統の（故）三浦安男氏スパルタ式トレーニングを加え、毎年が全国へ向けての挑戦でした。

そして、平成4年山形県での全中をむかえ、男子5000mで堀川が第1位、伊勢が第3位と男子の部でだんとつ1位となり、マスコミの人々が騒ぎはじめて、自分も優勝の2文字を意識しはじめました。

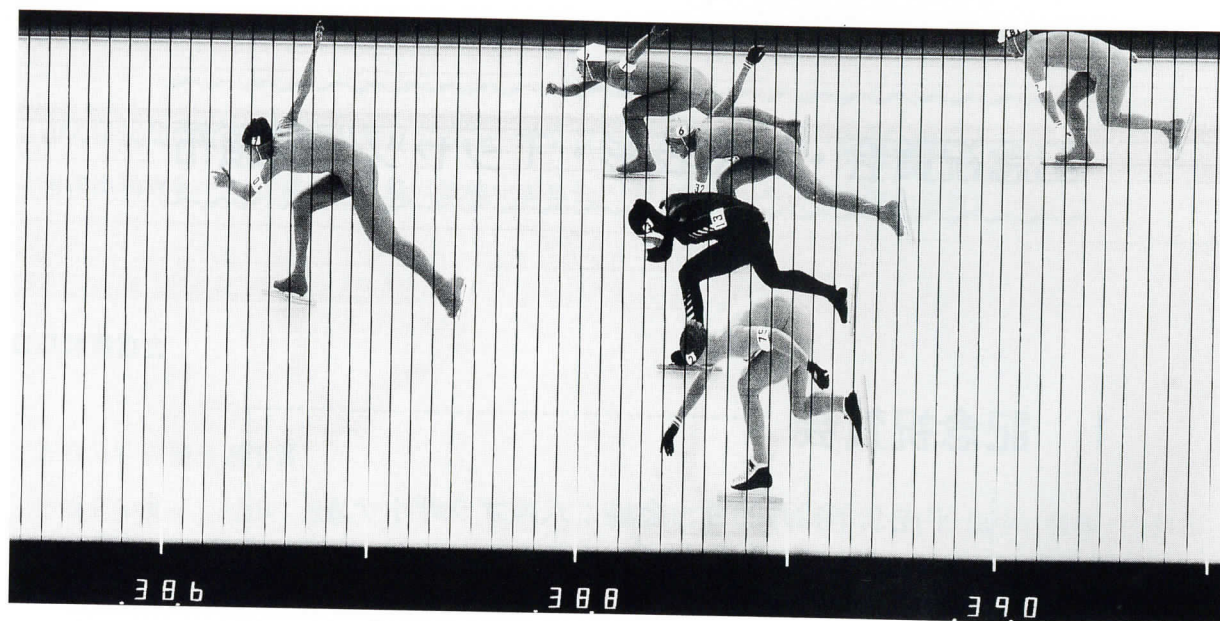
今、振り返りまして、当時の事を考えますと先達、父兄、選手、そしてコーチの一体とした力が大切だと思います。

飛 翔

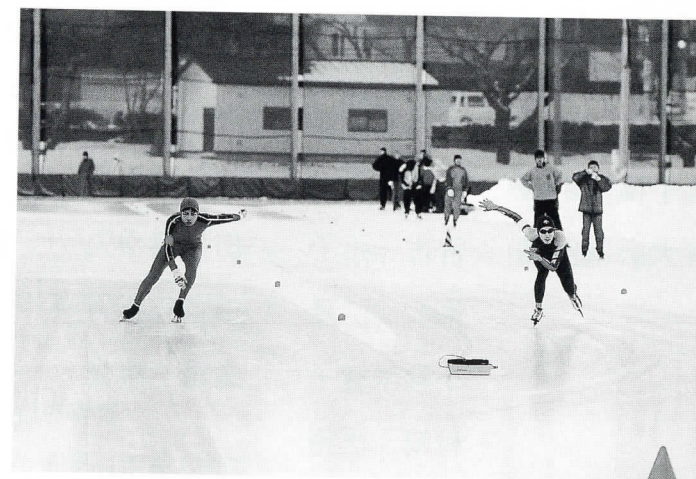
●元八戸聖ウルスラ学院高等学校スケート部顧問

伊藤 猛雄

その時は、稲妻のように突然やって来た。競技場の記録掲示板に張られた最終成績表の1番上に、八戸聖ウルスラ学院高等学校の校名があった。選手達は歓声をあげ、泣き、抱きあい、たがいの健闘を称え喜びを分かちあった。第43回（平成6年1月）全国高等学校スケート競技選手権大会フィギュア競技女子団体優勝の瞬間だった。勝者は高橋裕佳、若林恭葉、山本夢子の17才のトリオ。氷点下の鉄のように堅い氷上で、ほとんど防寒を無視したようなコスチュームで滑走、ジャンプを繰り返し、全身は傷つき、極限状態にあった。主将高橋裕佳の母は病床にあり、危篤の一報が来しだい帰八させる用意をしての練習だった。本人は不安をおくびにもださず練習をこなし、リーダーの役割をこなした。真にスポーツに打ち込んだ者だけがなし得る術である。母のもとに駆け付け、勝利を報告し、感謝を伝えるために、神は娘と母に1日を与えてくれたのだった。1年生の若林恭葉はベストテン入りを果たした。



第40回 八戸国体500m決勝写真判定（先頭 金濱康光）



65周年記念事業(祝賀会・表彰者)

記念祝賀会・記念表彰・Tシャツ作成頒布

1 記念祝賀会

平成2年12月20日 会場：八戸プラザホテル

- 次第
- 1. 会長あいさつ
 - 2. 来賓祝辞
 - 3. 表彰
 - 4. 乾杯

2 表彰

功 労 者	秋山皐二郎	若林 繁		
全日本選手権(種目優勝)	田名部正人	田名部幸夫		
国民体育大会(種目優勝)	宮古 正子	田名部幸夫	中田 敏彦	
	東 隆	田名部正人	戸田 金作	
	小軽米智子	金濱 康光	村田 光弘	
	村崎 匡裕			
日本学生氷上(種目優勝)	田名部正人	金濱 康光		
全 国 高 校(種目優勝)	光星学院高校(F団体)	八戸南高校(F団体)		
	村田 光弘			
全国中学校(種目優勝)	柳町 一徳	村田 光弘	小軽米智子	
オリンピック出場	金濱 康光			

これまでの各賞受賞者一覧

1. 日本スケート連盟

- (1) 70周年記念表彰 沼舘 健二 (故人-前会長) 山田 清 (現副会長)
- (2) 国体出場表彰 東 隆 (現強化委員長) 菊池 秀司 (現強化委員)

2. 青森県体育協会

(1) 青森県特別優秀選手賞

平成2年度	村田 光弘	村崎 匡裕	小笠原広文	平内 紀行	田中 利典	戸田 金作
平成3年度	大向 将之	浜道 隆寛	小笠原広文	鈴木 孝俊	田中 利典	戸田 金作
平成4年度	村田 光弘	浜道 隆寛				
平成5年度	浜道 隆寛					
平成6年度	浜道 隆寛	後村 文範	若林 恭葉	山本 夢子		
平成7年度	成田 亜希	澤口 一樹	菊地 正信	戸田 金作		
平成8年度	澤口 一樹	菊地 正信	戸田 金作	鈴木 孝俊	濱中 喜子	
平成9年度	澤口 一樹	戸田 金作	鈴木 孝俊	袴田 憲司	工藤 範秋	平内 紀行
	伊勢 俊一	伊勢 秀一	浪岡 秀			
平成10年度	澤口 一樹	戸田 金作	鈴木 孝俊	石岡 守	伊勢 俊一	藤ヶ森誠司
	栗林しのぶ	大里 崇	伊勢 秀一	小笠原牧子	小笠原健雄	
平成11年度	澤口 一樹	戸田 金作	鈴木 孝俊	石岡 守	加藤 勝広	大里 崇
	栗林しのぶ	濱中 喜子				
平成12年度	該当者なし					
平成13年度	坂頂みなみ	坂頂 達也	石岡 守	澤口 一樹	加藤 勝広	西岡 和哉
	小笠原健雄	小笠原牧子	矢田 邦子			

(2) 青森県優秀スポーツ指導者賞

平成10年度	尾崎 光男 (百石高校監督)
平成11年度	村崎 匡裕 (光星学院高校監督)
平成13年度	戸田 金作 (吉田産業監督)

75周年記念事業

記念式典・祝賀会・記念誌発刊・連盟旗制定

記念式典

- 1. 開式のことば
- 1. 物故者への黙祷
- 1. 主催者挨拶
- 1. 創立75周年記念表彰
- 1. 謝辞
- 1. 来賓祝辞
- 1. 閉式のことば

記念祝賀会

- 1. 開式のことば
- 1. あいさつ
- 1. 来賓紹介
- 1. 来賓祝辞
- 1. 乾杯
- 1. 祝宴
- 1. 閉式のことば

記念事業実行委員会

実行委員会（理事全員で組織）

◎顧問

（会長）神山 公佑 （副会長）山田 清 伊藤 武 川口 修平
（会計理事）立花八十二 田名部晃一 岡沼 宏洲

◎委員長（理事長）山口 広道

○副委員長（総務委員長）南館 義美 （総務副委員長）佐々木四樓
（庶務会計）新山奈緒子 （副理事長）村越喜四郎

＜総務・式典部＞

- ◎（副理事長）木村 三男
- （フィギュア委員長）高橋富士男
- 河原木 浩 佐々木良幸
- 管 宏 小笠原博文
- 川原 義広 船田 和栄
- 矢田 邦子 柏崎 勝徳
- 田名部正人

＜記念誌作成部＞

- ◎（副理事長）橋本 恭二
- （スピード委員長）林 弘
- 田名部和彦 西館 良一
- 昆 賀子 武山 忠雄
- 小向 力 戸田 金作
- 宮沢 孝一 東 隆
- 橋本 伸

創立75周年記念表彰名簿

◆感謝状

（敬称略）

（株）吉田産業	代表取締役社長	吉田 誠 夫
（株）八戸プラザホテル	代表取締役社長	神山 公 佑
八戸三八城ライオンズクラブ	代表取締役社長	江刺家 正 一
八戸城北ライオンズクラブ	代表取締役社長	長谷川 清
八戸白鷗ライオンズクラブ	会 長	大崎 孝 二
近畿日本ツーリスト（株）八戸支店	八戸支店長	高山 文 雄
東急観光（株）	八戸支店長	太細 正 志
日本放送協会青森放送局	局 長	福士 良 太
青森朝日放送（株）	代表取締役社長	渡辺 芳 彦
（株）デーリー東北新聞社	代表取締役社長	新山 博 昭
（株）東奥日報社	代表取締役社長	佐々木 高 雄

◆功 労 者

青森県スケート連盟	名誉会長	石橋 富士保
青森県スケート連盟	顧問	赤澤 正 敏
青森県スケート連盟	参 与	先川原 慶 三
青森県スケート連盟	参 与	板橋 敏 夫
青森県スケート連盟	参 与	風間 鉄 次
青森県スケート連盟	参 与	横田 浩 一
青森県スケート連盟	参 与	岩見 秋 夫
青森県スケート連盟	参 与	山崎 猛
青森県スケート連盟	参 与	松崎 徹
青森県スケート連盟	参 与	堀 徳 郎
青森県スケート連盟	前 会 長	（故）沼館 健二
青森県スケート連盟	前 副 会 長	（故）照井 利男
青森県スケート連盟	前 副 会 長	（故）赤坂 茂
青森県スケート連盟	前 理 事 長	（故）富岡 義雄
青森県スケート連盟	参 与	（故）桑原 哲男
青森県スケート連盟	参 与	（故）仁科 東男

◆優秀選手賞（平成3年以降）

スピード	浜 道 隆 寛
スピード	大 向 将 之
スピード	袴 田 憲 司
スピード	伊 勢 秀 一
スピード	工 藤 範 秋
スピード	伊 勢 俊 一
スピード	成 田 亜 希
スピード	石 岡 守
スピード	澤 口 一 樹
スピード	加 藤 勝 広
スピード	戸 田 金 作
スピード	田 中 利 典
スピード	村 山 通 久
スピード	菊 池 正 信
スピード	鈴 木 孝 俊
スピード	平 内 紀 行
スピード	西 岡 和 哉
スピード	藤ヶ森 誠 司
スピード	栗 林 しのぶ
スピード	大 里 崇
スピード	矢 田 邦 子

フィギュア	村 田 光 弘
フィギュア	田 村 岳 斗
フィギュア	小笠原 牧 子
フィギュア	小笠原 健 雄
フィギュア	坂 頂 みなみ
フィギュア	坂 頂 達 也

第17回リレハンメル冬季オリンピック出場	9年以降
第46回軽井沢国体成年男子B優勝	
第20回全日本ジュニア男子5000m優勝	
第52回釧路団体少年男子5000m・第53回国体10000m優勝	
第52回釧路国体少年男子1000m優勝	
第46回全国高校男子1000m優勝	
1996世界ジュニア出場	
世界スピード選手権オランダ1998、ノルウェー1999出場	
第4回韓国冬季アジア大会出場	
第4回韓国冬季アジア大会出場	
第53回国体男子B500m、1000m優勝	
第30回全日本実業団男子2000mリレー優勝	
第31回全日本実業団男子2000mリレー優勝	
第35回全日本実業団男子2000mリレー優勝	
第36回全日本実業団男子2000mリレー優勝	
第36回全日本実業団男子2000mリレー優勝	
第39回全日本実業団男子2000mリレー優勝	
第21回全日本ジュニアスプリント部門総合優勝	
全日本学生 5000m優勝	
全日本学生 10000m優勝	
第2回全日本マスターズ競技会500m、1000m優勝	

第16回アルペールビル冬季オリンピック出場	
第18回長野冬季オリンピック出場	
全日本ジュニアフィギュアペア優勝	
全日本ジュニアフィギュアペア優勝	
全日本ジュニアフィギュアアイスダンス優勝	
全日本ジュニアフィギュアアイスダンス優勝	

会員(公認審判員)名簿

氏 名	郵便番号	現 住 所	審 判 等
●特別専門委員			
神 山 公 佑	039-1161	八戸市大字河原本字八太郎9-3	
山 田 清	039-1164	八戸市下長一丁目18-9	名誉
伊 藤 武	031-0022	八戸市大字糠塚字前谷地17	(フィギュア) B級・TD級・BS級
川 口 修 平	031-0833	八戸市大久保字町道15-31	
●スピード専門委員(委員長・部長)			
山 口 広 道	039-2242	八戸市多賀台四丁目3-1	第1種
南 館 義 美	039-1167	八戸市大字沢里字沢里山16-54	第1種
林 弘	031-0001	八戸市大字類家字縄手下7	第1種(N. I N)
東 隆	039-2231	上北郡百石町字下谷地48-135	(百石町協会) 第1種
橋 本 恭 二	031-0021	八戸市長者二丁目8-11	第1種(N. I N)
河原本 浩	039-1161	八戸市大字河原本字高館4	第1種(N)
田名部 和 彦	039-1165	八戸市石堂二丁目29-15	第1種(N)
小 向 力	039-2124	上北郡下田町字境田56-1	(百石町協会) 第1種(N)
河 村 由美子	031-0003	八戸市田面木字田面木平54-540	第2種
●八戸市スケート協会(会長 橋本 恭二)			
石 井 俊 徳	031-0023	八戸市是川五丁目11-10	
伊 藤 哲 也	031-0081	八戸市柏崎六丁目30-14 三菱レイヨン社宅A-103	第2種
江 渡 光 夫	031-0813	八戸市大字新井田字丑鞍森38-28	第1種
岡 沼 宏 洲	031-0073	八戸市大字売市字売市32-12	第1種
小笠原 徳 男	039-1161	八戸市大字河原本字千刈田35-1	第2種
大 坂 廣	031-0071	八戸市沼館二丁目16-3	第2種
尾 崎 裕 造	031-0071	八戸市沼館二丁目4-1	第2種
尾 崎 光 男	039-1104	八戸市田面木字田面木平4-12	第1種
大 西 友 則	039-1166	八戸市根城字梨子木14-1	第2種
小野寺 郁 子	039-1166	八戸市根城字馬場頭2-3 2 f F	
大 向 将 之	031-0073	八戸市売市右水門下8-42	
風 間 鉄 次	039-1166	八戸市根城二丁目22-11	第1種
風 間 康 洋	039-1166	八戸市根城二丁目22-11	第1種
金 子 晋 三	031-0022	八戸市大字糠塚字蟹沢24-14	第1種
金 浜 康 光	039-1167	八戸市沢里字鍋久保40-7	第2種
管 宏	039-1102	八戸市一番町一丁目3-6	第1種(N)
加 藤 勝 広	031-0054	八戸市稲荷町6-3	
川 村 洋	039-1104	八戸市田面木字法霊林4-9 レッドハイムA-201	第2種
菊 池 秀 司	031-0081	八戸市柏崎一丁目16-22	第1種
木 村 三 男	039-1167	八戸市大字沢里字下沢内51-3	第1種(N. I N)
北 川 朝 男	039-1103	八戸市長苗代二丁目6-4	第2種
小 向 猛 彦	039-2241	八戸市大字市川町字船場川原26-1	第1種
佐々木 良 幸	039-1166	八戸市根城八丁目5-4	第1種
笹 原 幸 雄	039-1101	八戸市大字尻内字家口田5-32	第1種
佐々木 則 次	039-1104	八戸市田面木上野道下夕17-4	第2種
佐々木 謙 二	039-1104	八戸市田面木字十文字平6-18	
佐々木 春 雄	039-1166	八戸市根城丹後平35-15	第1種
佐々木 聖 明	036-8092	弘前市城東北二丁目7-5	第2種
澤 口 一 樹	031-0073	八戸市売市字売市1-1 エトワール八戸第一301号	
柴 田 一 則	031-0832	八戸市白銀台五丁目8-18	第1種
杉 本 健 一	031-0001	八戸市類家一丁目4-16	第1種
鈴 木 孝 俊	031-0073	八戸市沢里字湯浅屋新田3-11 県住白山台7-2-1	第2種
立 花 八十二	031-0023	八戸市大字是川字転道平1-27	第1種

会員(公認審判員)名簿

氏 名	郵便番号	現 住 所	審 判 等
田名部 晃 一	031-0002	八戸市大字中居林字綿ノ端17-33	第1種
田名部 正 人	039-1103	八戸市長苗代四丁目3-33	第1種
田名部 昭 仁	031-0002	八戸市大字中居林字綿ノ端17-33	第1種
高 橋 成 豪	031-0073	八戸市大字売市字右水門下8-71 シンボリ川井101号	第1種
高 山 孝 子	039-1518	三戸郡五戸町字下モ沢15-4	第2種
武 山 忠 雄	031-0813	八戸市大字新井田字常光田18-18	第1種
武 山 靖	031-0001	八戸市類家5-21-19 グリーンパークルイケC-201	第2種
戸 田 金 作	031-0031	八戸市大字番町1	第1種
中 村 均	039-2242	八戸市多賀台4-2	第2種
中 村 寿 文	031-0804	八戸市青葉町三丁目28-1	
成 田 昌 俊	039-1166	八戸市大字根城八丁目5-4 根城マンションリベア301号	第1種
中 田 敏 彦	039-1104	八戸市大字田面木字上野平3-3	第1種
橋 山 達 雄	031-0003	八戸市吹上二丁目16-22	
西 館 良 一	031-0001	八戸市類家二丁目6-33	第1種
仁 科 恭 典	039-0815	三戸郡福地村大字福田字あかね5-27	
沼 田 嘉 雄	031-0023	八戸市是川1-9-7	
橋 本 伸	039-1166	八戸市長苗代三丁目6-8	第2種
畑 中 捷 郎	031-0022	八戸市売市字売市46-11	第2種
蛭 子 公 雄	031-0081	八戸市柏崎一丁目10-7	第1種
船 田 和 栄	039-1103	八戸市大字長苗代字内舟渡31-1	第1種 (N)
柏 崎 智 子	039-1511	三戸郡五戸町字鍛冶屋窪上ミ6-1	第2種
松 沢 光 彦	031-0073	八戸市大字売市字下久根37-3	第1種
松 尾 隆 一	039-1166	八戸市根城ヌタゴ13-7	第2種
南 館 義 孝	031-0013	八戸市大字石手洗字油久保6-25	第1種
三 浦 清 隆	031-0023	八戸市是川17-4	第1種
三 浦 光 直	031-0824	八戸市旭ヶ丘9-4	第2種
村 山 通 久	031-0003	八戸市吹上二丁目23-4	第2種
村 崎 匡 裕	039-1161	八戸市大字河原木字左比代16-33	第2種
矢 田 邦 子	031-0003	八戸市吹上六丁目10-9 二十六日町40	第1種
山 崎 義 政	039-1161	八戸市大字河原木字日計上22-1	第1種
山 日 誠 一	031-0071	八戸市沼館三丁目2-8	第2種
吉 田 光 良	031-0001	八戸市田向字間ノ田49-2	第2種

●三戸町スケート協会(会長 宮沢 孝一)

泉 沢 実	039-0141	三戸郡三戸町大字川守田字横道1	第1種
小 嶋 浩 悦	039-0135	三戸郡三戸町八日町26	第2種
志 賀 正 男	039-0132	三戸郡三戸町大字在府町字小路町35	第2種
馬 場 浩 治	039-0105	三戸郡南部町大字沖田面字塚ノ越17-4	第1種
東 寿 幸	039-0134	三戸郡三戸町大字同心町字古間木平24-8	
宮 沢 孝 一	039-0142	三戸郡三戸町久慈町26-4	第1種
宮 沢 則 幸	039-0100	三戸郡三戸町大字梅内字桐萩22-3	第1種

●百石町スケート協会(会長 佐々木四樓)

小 向 力	039-2124	上北郡下田町字境田56-1	(前出)
佐々木 四 樓	039-2204	上北郡百石町一川目三丁目73-1843	第1種
吉 田 修	039-2201	上北郡百石町二川目三丁目22-5	第1種
吉 田 真由美	039-2201	上北郡百石町字後田30-1	第2種
東 隆	039-2231	上北郡百石町字下谷地48-135	(前出)

●下田町スケート協会(会長 柏崎 勝徳)

柏 崎 勝 徳	039-2136	上北郡下田町字中下田104-1	第1種
---------	----------	-----------------	-----

会員(公認審判員)名簿

氏 名	郵便番号	現 住 所	審 判 等
●六戸町スケート協会(会長 川原 義広)			
川 原 義 広	039-2371	上北郡六戸町大字犬落瀬字高見83-3	第1種
松 橋 均	039-2371	上北郡六戸町大字犬落瀬字押込2	第1種
柳 谷 政 宏	039-2371	上北郡六戸町大字犬落瀬字明戸12-8	第1種

●フィギュア専門委員

荒 谷 裕 子	039-1101	八戸市大字尻内町字尻内15-9	T級
伊 藤 武	031-0022	八戸市大字糠塚字前谷地17	(前出)
伊 藤 猛 雄	031-0813	八戸市大字新井田字長塚森16-20	
石 橋 恭 子	031-0804	八戸市青葉一丁目6-13	
小笠原 博文	039-1103	八戸市大字長苗代三丁目22-16	B級・TD級
小 野 明 子	031-0002	八戸市中居林字平11-3	T級
昆 賀 子	031-0001	八戸市類家一丁目5-2	B級
小 坂 春 代	031-0081	八戸市柏崎五丁目5-27	B級
佐々木 一 男	039-1104	八戸市大字田面木字田面木平54-24	
坂 本 佳 子	039-1164	八戸市下長四丁目21-16	T級
白 坂 あつ子	031-0113	三戸郡南郷村大字泉清水字黒坂8-5	T級
高 橋 富士男	031-0001	八戸市類家三丁目11-2	A級・TD級・AS級
谷 川 勉	030-0904	青森市茶屋町11-10	B級
津久家 安 子	031-0071	八戸市沼館一丁目20-38	
外 崎 誠	030-0022	青森市大字浪館字泉川36-17	T級
新 山 奈緒子	031-0004	八戸市南類家二丁目13-2	A級・TD級・TS級
畠 山 行 雄	031-0833	八戸市湊高台四丁目13-6	T級
松 本 早 苗	031-0053	八戸市大字徒士町10	T級
松 山 和 子	039-0502	三戸郡名川町大字下名久井字薬師平35-4	
松 橋 明 美	031-0003	八戸市吹上一丁目8-13	B級・PD級・PS級
松 橋 由香子	981-3117	仙台市泉区名坂町1 メゾンド八乙女105	T級
村 越 喜四郎	039-1104	八戸市大字田面木字前平19-12	
村 山 満利子	039-1167	八戸市沢里字休場20-38	
向谷地 美香子	039-2242	八戸市多賀台1-1-34	T級
女 鹿 修 二	039-1104	八戸市大字田面木字田面木平52	B級

※N-ナショナル審判 I N-インターナショナル審判

※A・B・T級-シングル・ペア TD・PD級-アイスダンス AS・BS・TS・PS級-シンクロナイズドスケートティング



青森県スケート連盟規約

第1章 名称及び事務所

- 第1条 本連盟は青森県スケート連盟という。
- 第2条 本連盟の事務所は会長の指定する場所におく。

第2章 目的及び事業

- 第3条 本連盟は、青森県におけるスピード、フィギュア（以下スケートという）競技を統括し、かつこれを代表する団体であってスケートの健全な発達を図り併せ体育、スポーツ、文化の進展に寄与することを目的とする。
- 第4条 本連盟は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) 加盟団体の強化発展と連絡融和を図ること

(2) 青森県におけるスケート競技の普及、発達及び競技力の向上を図ること

(3) スケート競技の全県的事業の実施又は援助をすること

(4) 財日本スケート連盟並びに財青森県体育協会に加盟およびその事業への協力をする

(5) スケートに関し、県その他の機関に対し意見を述べ、あるいはその施策に協力すること

(6) スケート施設の計画を援助促進すること

(7) スケートに関する調査研究並びに指導すること

(8) その他本連盟の目的達成に必要な事項

第3章 加盟団体

- 第5条 本連盟は、次に掲げる加盟団体をもって組織する。
- (1) 県内の市町村を代表するスケート団体

(2) 青森県高等学校体育連盟スケート部会、青森県中学校体育連盟スケート部会、青森県スポーツ少年団
- 第6条 1. 本連盟に加盟しようとする団体は、次の書類を添えて会長に申請し総会の議決により加盟することができる。
- (1) 会 則 (2) 役員名簿

(3) 会員数 (4) 事務所及び担当者
2. 加盟団体は所属会員の登録をするとともに総会の定めた負担金を納入しなければならない。
3. 加盟団体の所属会員は、正会員、準会員、選手とし、会費を納入しなければならない。

第4章 役員及び組織

- 第7条 本連盟に次の役員をおく。
- 会 長 1名

副 会 長 若干名

理 事 長 1名

副理事長 若干名

理 事 若干名

監 事 3名以内
- 第8条 会長、副会長、監事は総会において推挙する。会長は本連盟を代表し、会務を統括管理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。監事は会計を監査する。
- 第9条 1. 理事は総会において正会員から下記に基づき選出し、会長が委嘱する。
- (1) 各加盟団体から1名

(2) 各専門委員会から5名以内

(3) 会長指名若干名。但し会長指名理事の数は上記(1)、(2)の選出理事数の2分の1を越えてはならない。
2. 理事長・副理事長は理事の互選により選出し会長が委嘱する。副理事長は、理事長を補佐し会務を処理する。
- 第10条 1. 専門委員は加盟団体の推薦により会長が委嘱し、スピード、フィギュアの専門委員会を構成する。
2. 各専門委員会において各専門競技の業務を処理する。
- 第11条 1. 選手強化委員は各専門委員会の推薦により理事会の承認を得て会長が委嘱する。
2. 選手強化委員は選手強化に関する業務を処理する。選手強化委員長は役員のうちから会長が指名する。
- 第12条 総務委員長及び総務理事は、理事のうちから会長が指名する総務理事は本連盟の庶務会計を担当する。
- 第13条 1. 会長は総会の承認を得て、名誉会長、顧問、参与の名誉役員を推挙することができる。
2. 名誉役員は本連盟の重要な事項について、会長の諮問に応じるとともに本連盟の各会議に出席して意見をのべることができる。
- 第14条 役員任期は、2ヶ年とする。但し重任を妨げない。

第5章 会 議

- 第15条 本連盟の会議は総会、理事会、委員長会議、専門

委員会議、選手強化委員会とする。

- 第16条 会議は、出席者の過半数をもって決する。可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第17条 1. 総会は会長、副会長、監事、理事、正会員、準会員で構成し、次の事項を審議決定する。
- (1) 予算及び決算 (2) 事業計画

(3) 役員の決定 (4) 規約の改正 (5) その他の重要事項
2. 総会は通常総会と臨時総会とし、会長が招集して議長になる。
- 第18条 理事会は会長、副会長、監事、理事をもって構成し、会長が必要と認めたとき、また理事の3分の1以上が会議の目的を示し請求した時会長が招集して議長となる。
- 第19条 役員会は会長、副会長、監事、理事をもって構成し、会長が必要と認めたとき、また役員の3分の1以上が会議の目的を示し請求した時会長が招集して議長となる。
- 第20条 委員長会議は会長、副会長、理事長、副理事長、監事、選手強化委員長、各専門委員長、総務委員長をもって構成し、会長が招集して議長となる。
- 第21条 各専門委員会は必要に応じて各専門委員長が招集して議長となる。
- 第22条 選手強化委員会は、選手強化委員長が招集して議長となる。
- 第23条 各専門委員会議及び選手強化委員会はその開催のつど理事長を通じて会長に報告しなければならない。

第6章 会 計

- 第24条 本連盟の経費は次のもので支弁する。
- (1) 会 費 (2) 寄付金

(3) 補助金 (4) 負担金

(5) その他
- 第25条 会費は理事会で決定し、負担金は総会で決定する。
- 第26条 本連盟の会計年度は毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

附 則

この規約は昭和45年5月8日より施行する。

この規約は昭和54年6月改正

この規約は昭和55年9月改正。56年5月より施行する。

この規約は昭和60年3月31日改正

この規約は昭和62年4月改正

この規約は平成3年4月改正

この規約は平成11年5月改正

この規約は平成13年5月改正

弔 慰 規 定

- 青森県スケート連盟
- 第1条 この規定は、本連盟の顧問、参与及び会員とその家族への弔慰金の贈与について定める。
- 第2条 この規定で定める会員の家族の範囲は次の通りとする。
- (1) 配偶者

(2) 父母（実父母、養父母）
- 第3条 この規定による経費は、本連盟一般会計から支出する。
- 第4条 弔慰金は次に定める二種類とする。
- (1) 見舞い金

(2) 弔慰金
- 第5条 傷病見舞金は、会員が引き続き60日以上に加療を要する病気、負傷に際し贈与するものとする。
- (1) 役員 5,000円
- 第6条 規約第1条にかかげる者が死亡したときは、下表により弔慰を表す。

摘 要	香 典	弔 電
顧 問 参 与 正 副 会 長 監 理 会 事 員 会	5,000円	○
配 偶 者 父 母	3,000円	—

- 第7条 この規定以外の件については、正副会長、理事長、総務委員長が協議して弔慰の表し方を決定する。
- 第8条 この規定は平成13年5月12日より施行する。

青森県スケート連盟役員名簿

名誉顧問	秋山 皐二郎	八戸市大字鮫町字上鮫59
名誉会長	石橋 富士保	八戸市徒士町3
顧問	金子 善兵衛	八戸市大字糠塚字蟹沢24-1
〃	松本 榮	八戸市徒士町10
〃	高橋 晃武	八戸市大字売市字長根11
〃	赤沢 正敏	八戸市大字鳥屋部町15-1
〃	中村 寿文	八戸市青葉町三丁目28-1
参与	先川原 慶三	八戸市大字中居林字雷9-17
〃	板橋 敏夫	八戸市大字新井田字常光田16-7
〃	風間 鉄次	八戸市根城二丁目22-11
〃	桑原 哲男	八戸市多賀台二丁目9-9
〃	横田 浩一	八戸市大字沢里ニッ屋1-34
会長	神山 公佑	
副会長	山田 清	伊藤 武 川口 修平
理事長	山口 広道	
副理事長	木村 三男	橋本 恭二 村越 喜四郎

理事	●スピード委員会	●フィギュア委員会	●会長指名
	林 弘	高橋 富士男	山口 広道
	河原木 浩	村越 喜四郎	西館 良一
	田名部 和彦	小笠原 博文	南館 義美
	佐々木 良幸	昆 賀子	武山 忠雄
	管 宏	新山 奈緒子	木村 三男
			戸田 金作
			船田 和栄
			小向 力
			矢田 邦子

- 加盟団体
- 橋本 恭二 (八戸市スケート協会)
- 佐々木 四樓 (百石町スケート協会)
- 柏崎 勝徳 (下田町スケート協会)
- 川原 義広 (六戸町スケート協会)
- 宮沢 孝一 (三戸町スケート協会)
- 東 隆 (高体連)
- 田名部 正人 (中体連)
- 橋本 伸 (県スポ少)

会計監事	田名部 晃一	立花 八十二	岡沼 宏洲
------	--------	--------	-------

青森県スケート連盟組織名簿

会長	神山 公佑		
副会長	山田 清	伊藤 武	川口 修平
理事長	山口 広道		
副理事長	木村 三男	橋本 恭二	村越喜四郎
総務委員長	南館 義美		
(事務局)			
総務副委員長	佐々木四樓		
庶務会計	南館 義美	佐々木四樓	新山奈緒子

強化委員長	東 隆			
強化副委員長	河原木 浩	戸田 金作	昆 賀子	
スピード強化委員	橋本 恭二	林 弘	小向 力	田名部正人
	田名部和彦	菊池 秀司	管 宏	南館 義孝
	橋本 伸			
ショート強化委員	矢田 邦子	中田 敏彦	大西 友則	
フィギュア強化委員	小坂 春代	津久家安子	畠山 行雄	谷川 勉
	新山奈緒子	小笠原博文	松橋 明美	
総務	仁科 恭典	村崎 匡裕	南館 義美	

スピード委員長	林 弘			
(バッジテスト委員長)				
スピード副委員長	小向 力	金子 晋三		
総務部 部長	南館 義美	副部長	佐々木四樓	
強化部				
スピード 部長	田名部和彦	副部長	菊池 秀司	佐々木良幸
			戸田 金作	村崎 匡裕
			仁科 恭典	田名部正人
ショート 部長	河原木 浩		矢田 邦子	大西 友則
			高山 孝子	中田 敏彦
普及部 部長	橋本 恭二	副部長	管 宏	南館 義孝
			橋本 伸	田名部昭仁
競技部 部長	小向 力	副部長	江渡 光夫	小嶋 浩悦
			中村 均	馬場 浩治
バッジテスト部 部長	河村由美子	副部長	吉田真由美	

フィギュア委員長	高橋富士男			
(バッジテスト委員長)				
フィギュア副委員長	佐々木一男			
総務部 部長	新山奈緒子	副部長	畠山 行雄	
強化部 部長	昆 賀子	副部長	小坂 春代	
普及部 部長	女鹿 修二	副部長	外崎 誠	
競技部 部長	小笠原博文	副部長	松橋 明美	
バッジテスト部 部長	高橋富士男	副部長	荒谷 裕子	



青森県スケート連盟創立75周年記念誌

「銀盤の歩み」

〔編集・発行〕青森県スケート連盟

平成14年(2002年)3月7日発行

〔印刷〕青森コロニー印刷八戸営業所

電話(0178)29-1001

〔装丁・デザイン〕

企画編集プロダクション

(有)赤坂コピーライツジム

電話(0178)25-6666

昭和57年に、記念誌「銀盤の歩み」が50年を機に発刊されてから20年あまり経過している。

50年記念誌「銀盤の歩み」は、4年の準備期間を要した壮大で綿密な計画のもとに、15人の編集委員が各部門を分担して数十回もの会議や、2回の長時間にわたる座談会も開いたと記録されている。

内容は挨拶、回想文はもとより、八戸を中心とするスケートの歴史にまつわる話を写真をふんだんに使って載せたり、県内、国内、世界規模の大会に至るまでの全記録を網羅している。先輩諸氏の並み並みならぬご苦勞とその偉業に改めて想いを巡らせた。

故沼館健二前会長が既に決定していた75周年記念事業は、会長ご逝去という最悪の悲しみの中で1年延期の止むなきに至った。この記念誌発刊を含む記念事業に心しておられた、今は亡き沼館先生の心中は察して余りある。

沼館先生ご自身は、選手として、指導者、競技役員、連盟理事長から会長としてスケート界でのご功績は今更言うまでもない。国際スターターとしては国内で草分け的存在で、軽井沢や札幌での世界選手権でピストルを打ち、外国人役員との親交もあった。1998年の長野オリンピック、2000年の世界距離別選手権の際のフェアウェルパーティーでドイツ人役員と旧交を温める姿等、先生らしい一面も写真で偲ぶことができる。

後任の神山公佑会長の下に新体制でスタートした連盟は、1年遅れの記念事業に着手することになった。

実行委員会を組織して記念誌部会が動き始めて4ヶ月、資料の散逸や競技会の増加等もあって、準備不足、形式や内容の検討・吟味不十分な点については申し訳なくじくじたる思いは否めない。

この記念誌は内容面で工夫の余地は多々あったかと思う。しかし、スピードスケートがスラップの時代になっても、過去の情熱と栄光を脳裏のどこかに再生させながら新しい道を探る糧にしたい。

青森県スケート連盟の次世代を担う皆さんのために役立ち、弛みない前進のための手がかりになれば幸いである。

記念誌の編集にあたり、玉稿を寄せてくださった方々、諸資料調査にご協力くださった八戸市図書館の方々、写真提供のデーリー東北新聞社や八戸市体育振興公社の皆様にご心から感謝申し上げますとともに、編集アイデアやデザイン、印刷にと携わった全ての方々に深く深く謝意を表しながら撚筆する。

(橋本 恭二)

★
★
★
75th



銀盤の歩み

青森県スケート連盟創立七十五周年記念誌